

新潟市若年者等の自立に関するアンケート調査
結果報告書

平成27年3月
新潟市福祉部福祉総務課

< 目次 >

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 集計・分析にあたって	1
4. 回収結果	1
5. 区(行政区)の範囲	2
II 調査結果	4
1. 対象者の属性	4
(1) 性別	4
(2) 居住している区	6
(3) 年齢	8
(4) 世帯構成	10
(5) 住まいの形態	12
(6) 現在の暮らし向きの実感	14
(7) 就労状況	16
(8) これまでの就労状況	18
(9) 就労意向	19
(10) 現在働いていない理由	20
(11) 今後就いてみたい職種	21
2. ひきこもりについて	22
(1) 「ひきこもり」という言葉の認知状況	22
(2) 「ひきこもり」の定義の認知状況	24
(3) 「ひきこもり」の範囲の認知状況	26
3. 回答者自身のひきこもり状況	28
(1) 回答者自身のひきこもり状況	28
(2) 回答者自身がひきこもり状態となつてからの期間	30
4. 同居家族のひきこもり状況	31
(1) 同居家族のひきこもり状況	31
(2) ひきこもり状態にある同居家族の現在の年齢	33
5. 近所の人や親戚・知人のひきこもり状況	34
(1) 近所の人や親戚・知人のひきこもり状況	34
(2) ひきこもり状態にある近所の人や親戚・知人の現在の年齢	36
6. 各種相談先の利用・認知状況	38
(1) 新潟市ひきこもり相談支援センター	40
(2) 各区役所・地域保健福祉センター	41
(3) 新潟市こころの健康センター	42

(4)新潟市児童相談所	43
(5)新潟市教育相談センター、教育相談室	44
(6)新潟市の中学校に配置しているスクールカウンセラー	45
(7)新潟市若者支援センター「オール」	46
(8)新潟市パーソナルサポートセンター	47
(9)新潟市障がい者基幹型相談支援センター	48
(10)新潟市障がい者就業支援センター(こあサポート)	49
(11)新潟市発達障がい者支援センター(JOIN)	50
(12)ハローワーク新潟ときめき仕事館(若者しごと館・わかものハローワーク新潟)	51
(13)新潟地域若者サポートステーション	52
(14)新潟市社会福祉協議会(新潟市障がい者生活支援センター、心配ごと相談所など)	53
(15)各区社会福祉協議会	54
(16)民生委員・児童委員	55
(17)NPO、民間のひきこもり支援団体やカウンセリングルームなど	56
(18)医療機関(ひきこもり外来や病院、診療所、クリニックの精神科・心療内科等)	57
7. 回答者自身の日常生活について	58
(1)家族の間でよく話をしている	60
(2)近所づきあいを大事にしている	61
(3)地域の行事や自治会・町内会等の地域活動に参加している	62
(4)趣味や生きがい、生活上の楽しみがある	63
(5)悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる	64
(6)人づきあいが苦手である	65
(7)自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる	66
8. 自由記載	67
(付)調査票様式	68

I 調査概要

1. 調査の目的

この調査は、若年者の自立及びひきこもりに関する住民の実態や意向を把握し、施策の検討、充実を図るための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の設計

- (1) 調査対象：新潟市に住民登録している満 20 歳以上 65 歳未満の男女。
- (2) 標本数：3,000 人
- (3) 有効回収：1,590 人（有効回収率 53.0%）。
- (4) 調査方法：郵送法（調査票の配付、回収とも）。
- (5) 調査期間：平成 27 年 1 月 26 日～2 月 10 日（調査票上の締切日）。
※3 月 2 日返送分までを集計へ含めた。

3. 集計・分析にあたって

- (1) 結果は百分率（%）で表示し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。四捨五入の結果、個々の比率の合計が 100%にならないことがある。
また、複数回答の質問（2 つ以上の回答を認めた質問）では、合計が 100%を超えることがある。
- (2) 図中の「n」（number of cases の略）は、質問に対する回答者の総数を示しており、回答者の比率（%）を算出するための基数である。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

4. 回収結果

- (1) 区（行政区）について
新潟市は平成 19 年 4 月の政令指定都市移行にともない 8 つの区（行政区）を設置している。
今回の調査では、対象者の居住地を 8 つの「区（行政区）」（次頁区分図参照）に分け、集計・分析を行った。

(2) 回収結果

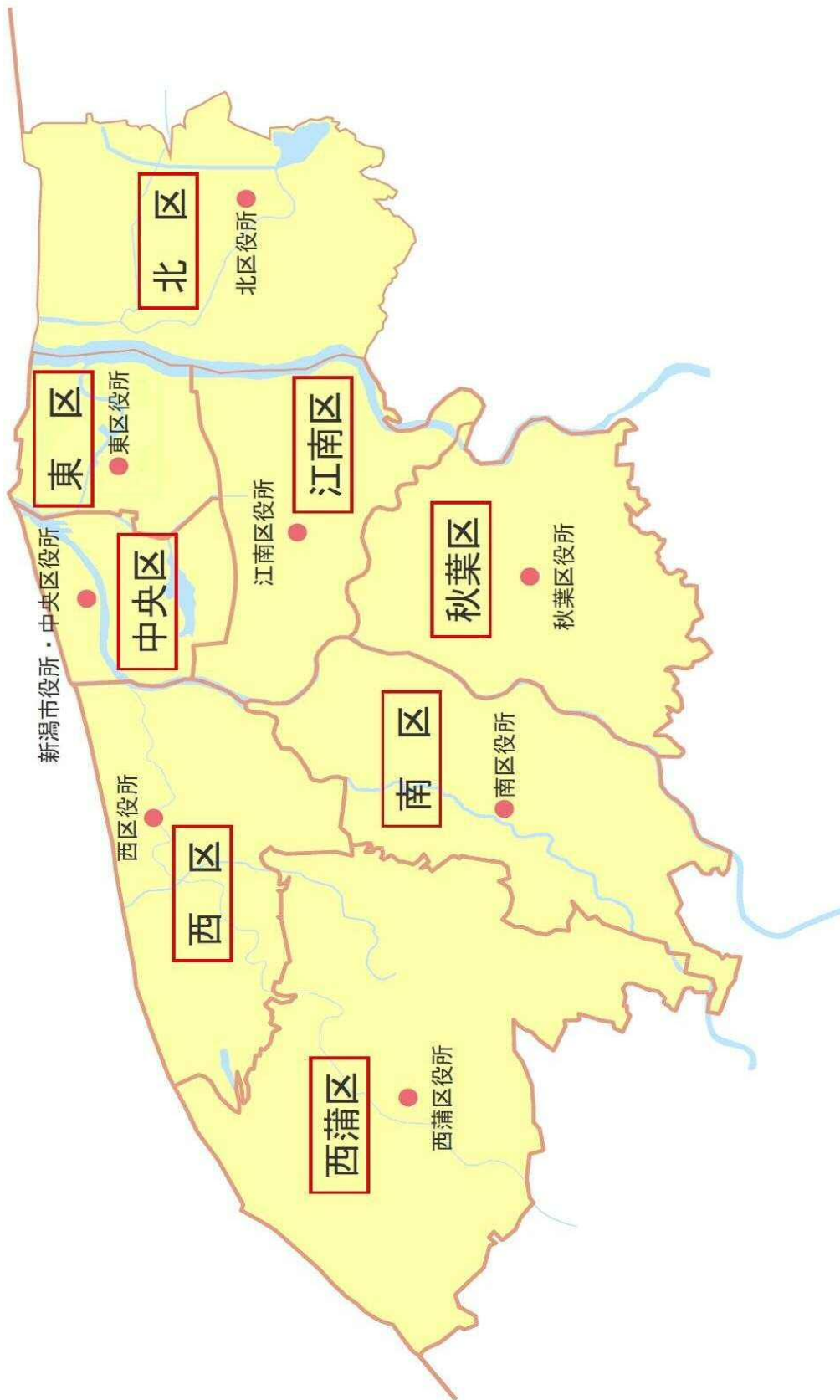
	母集団 (人)	母集団 構成比	標本数 (人)	有 効 回収数※	有 効 回収率
市 全 体	665,599	100.0%	3,000	1,590	53.0%
北 区	63,112	9.5%	282	149	52.8%
東 区	114,642	17.2%	520	271	52.1%
中 央 区	147,808	22.2%	681	365	53.6%
江 南 区	56,730	8.5%	255	137	53.7%
秋 葉 区	64,548	9.7%	282	157	55.7%
南 区	38,619	5.8%	176	88	55.0%
西 区	129,824	19.5%	584	304	52.1%
西 蒲 区	50,316	7.6%	220	110	50.0%
区名無回答				9	

※白票（無効票）1票は除外。

5. 区（行政区）の範囲

次頁区分図参照。

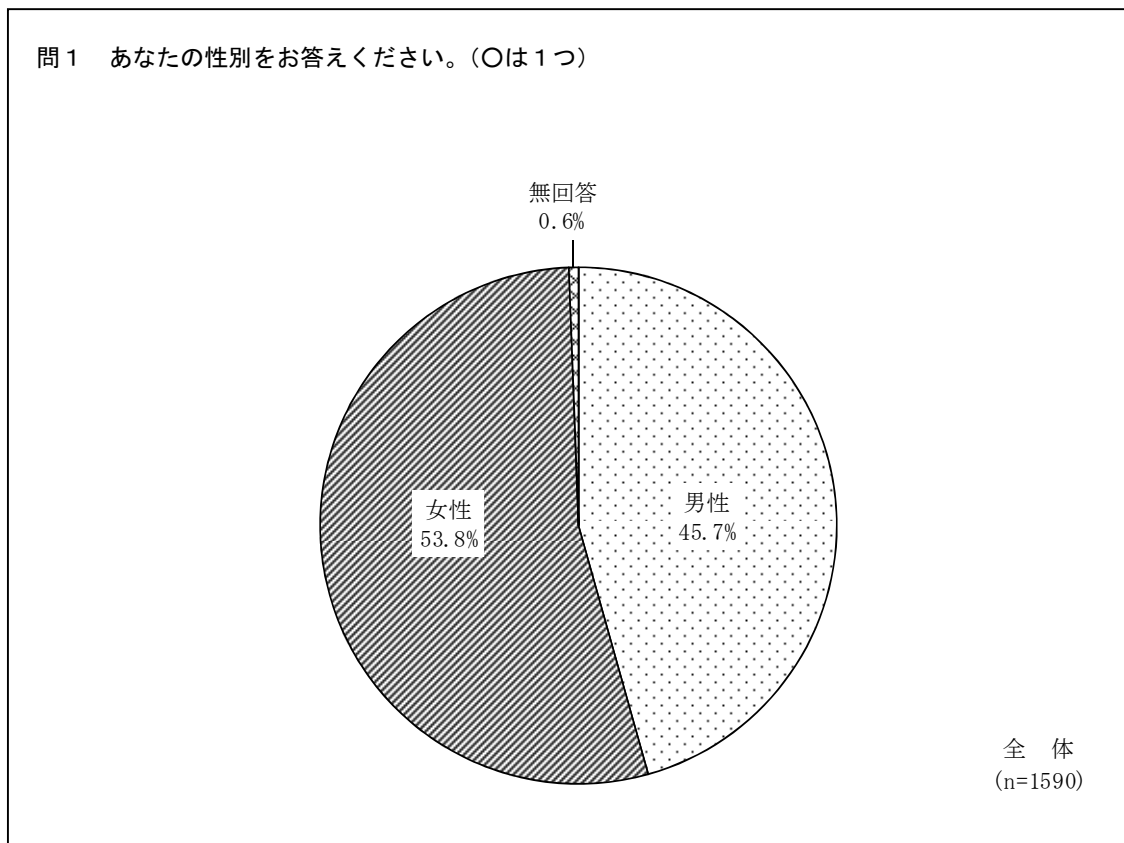
<区分图>



Ⅱ 調査結果

1. 対象者の属性

(1) 性別



【全体結果】

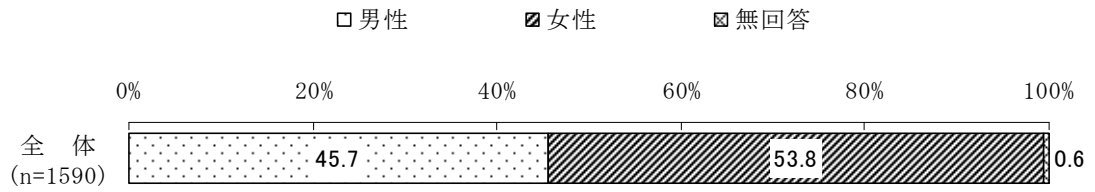
本調査の回答者の内訳は、男性が45.7%、女性が53.8%で女性の比率が高い。

【年代別結果】

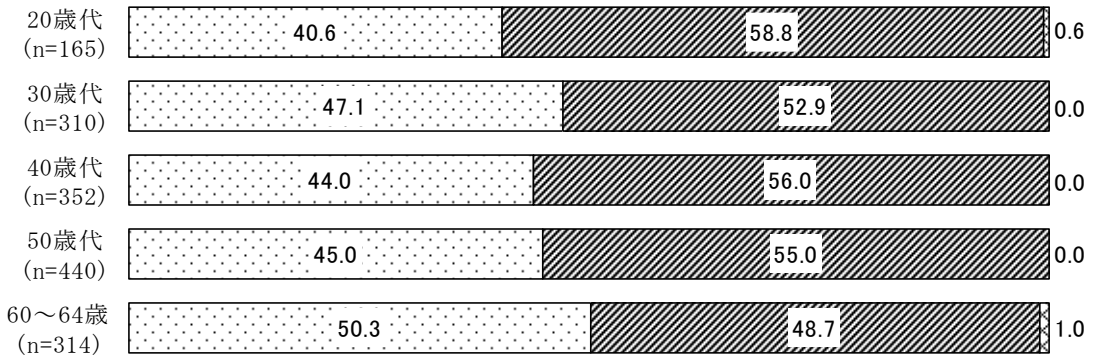
20歳代から50歳代では女性の比率が高いが、60歳～64歳では男性が女性をわずかに上回る。

【区別結果】

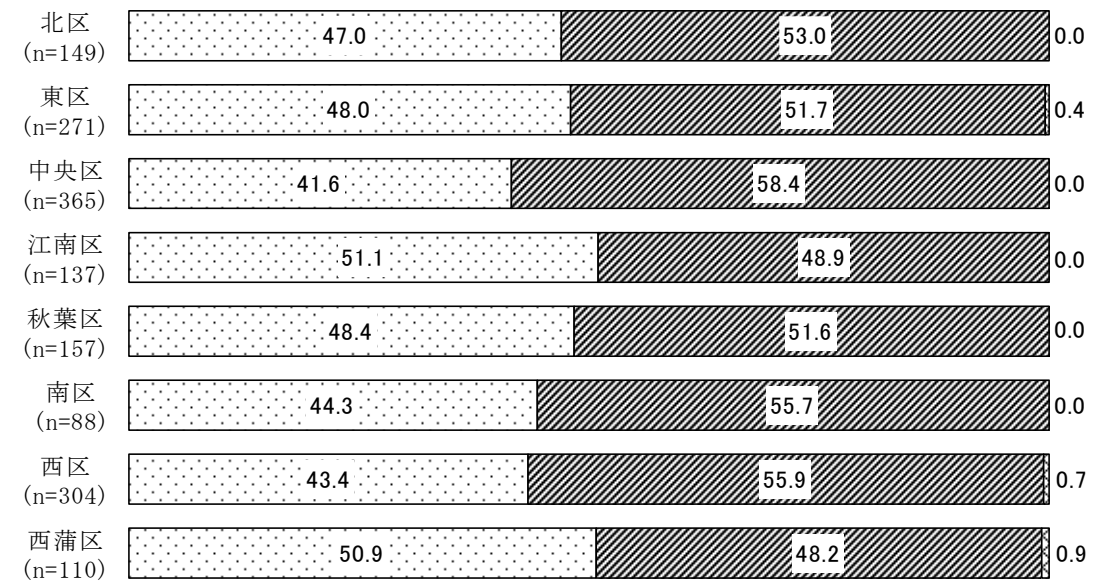
江南区、西蒲区では男性の割合が女性をわずかに上回るが、そのほかの区では女性の割合が高い。



【年代別】

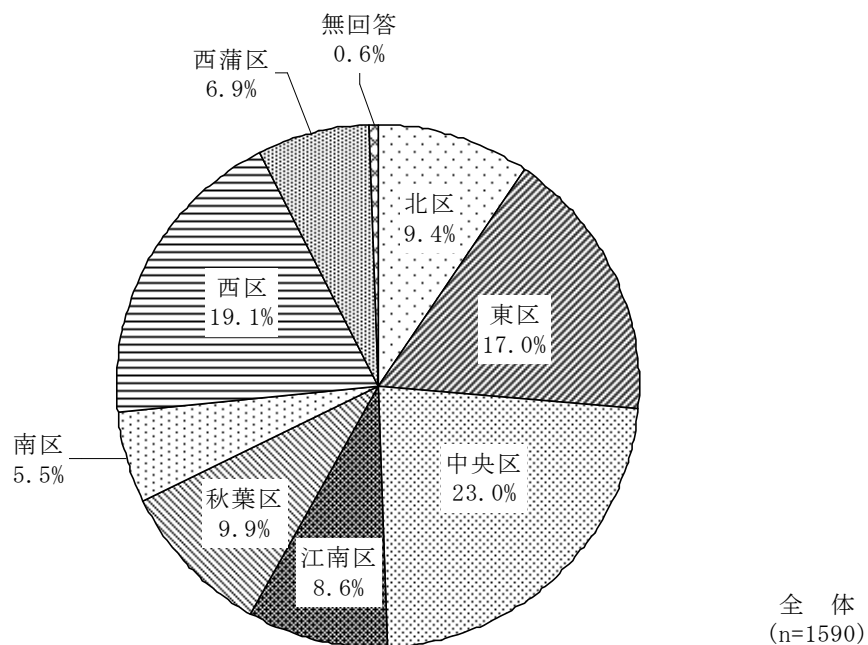


【区 別】



(2) 居住している区

問2 あなたがお住まいの区はどちらですか。(○は1つ)



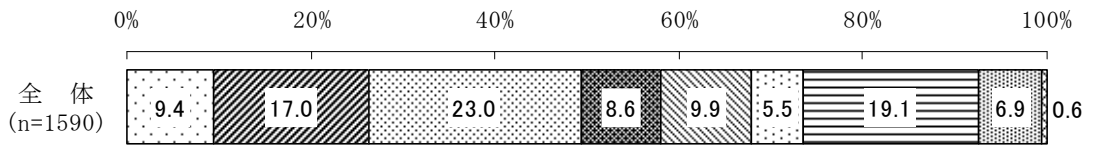
【全体結果】

回答者の居住区は中央区 (23.0%)、西区 (19.1%)、東区 (17.0%) が上位を占める。また、各区の比率は母集団の構成比とほぼ同様の数値となっている。

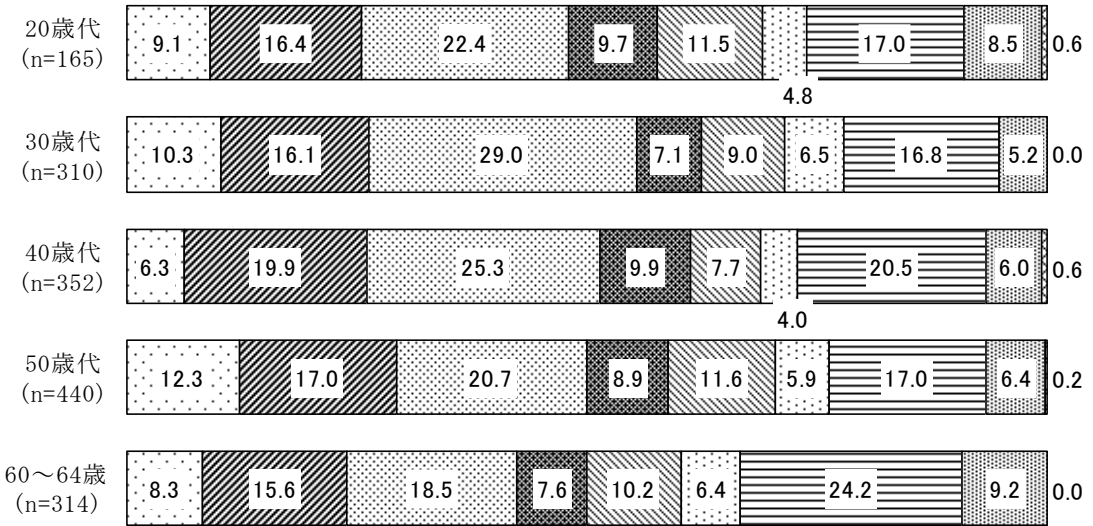
【年代別結果】

年代別には特段大きな差はみられない。

□北区 ▨東区 ▩中央区 ▤江南区 ▩秋葉区 □南区
 ▨西区 ▩西蒲区 ▩無回答

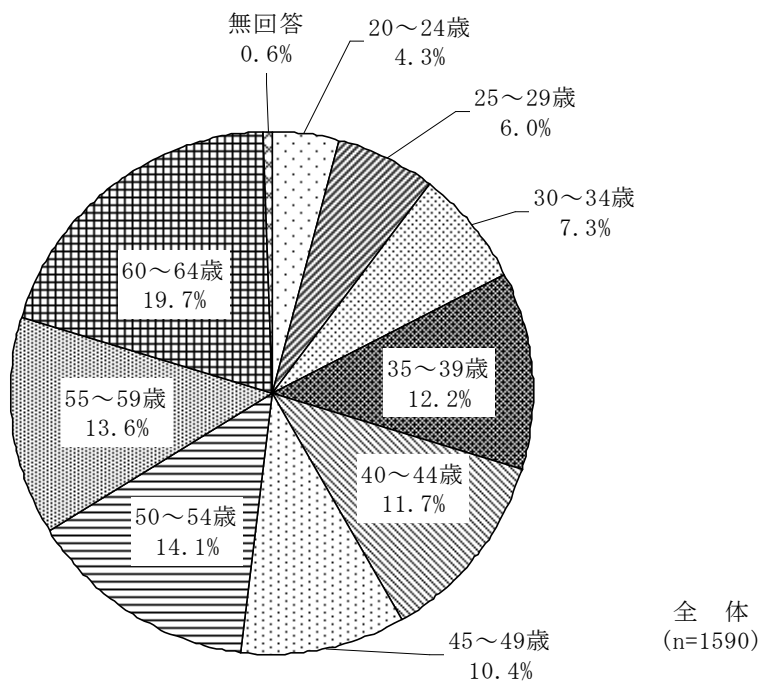


【年代別】



(3) 年齢

問3 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)



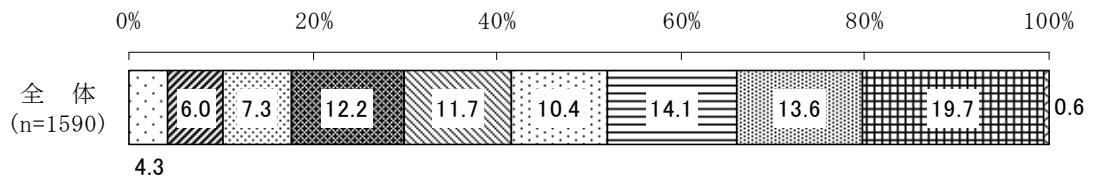
【全体結果】

回答者の年齢は「50~54歳」(14.1%)、「55~59歳」(13.6%)、「60~64歳」(19.7%)が上位を構成し、50歳以上が合計で半数弱(47.4%)を占める。

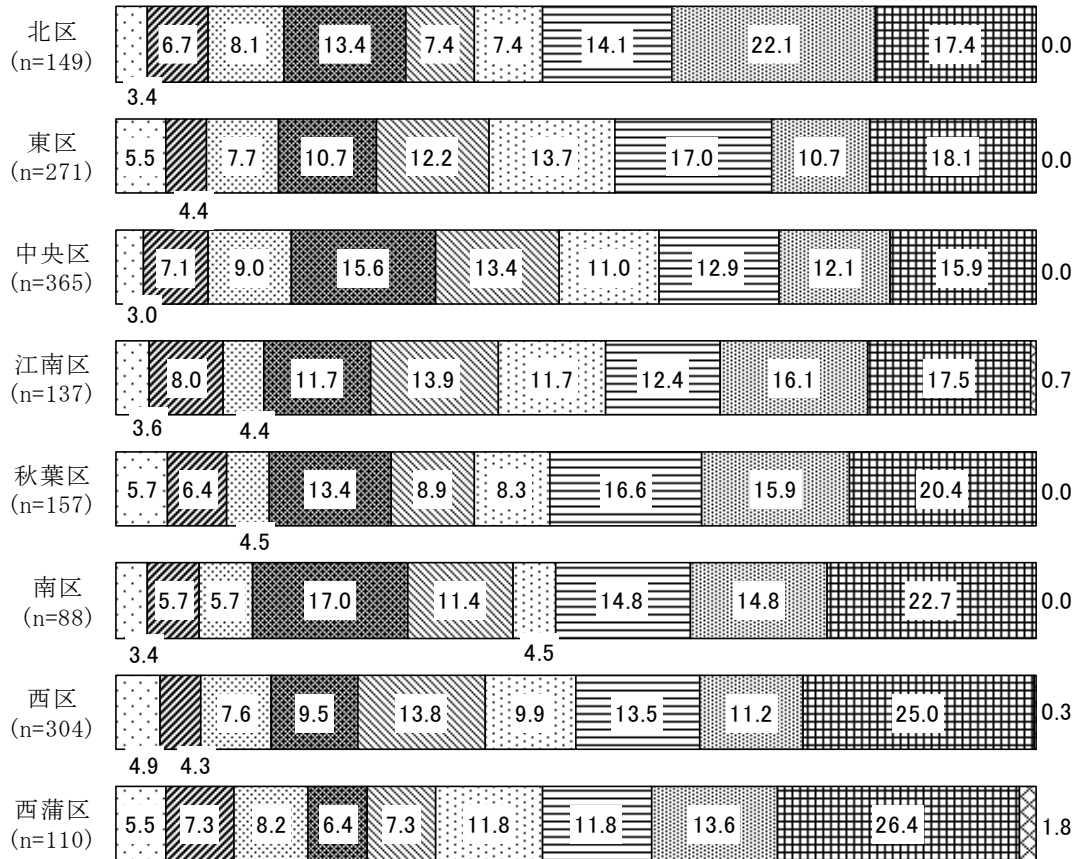
【区別結果】

区別に特段大きな差はみられない。

□ 20～24歳 ▨ 25～29歳 ▩ 30～34歳 ▪ 35～39歳 ▫ 40～44歳
 □ 45～49歳 ▬ 50～54歳 ▭ 55～59歳 ▮ 60～64歳 ▯ 無回答

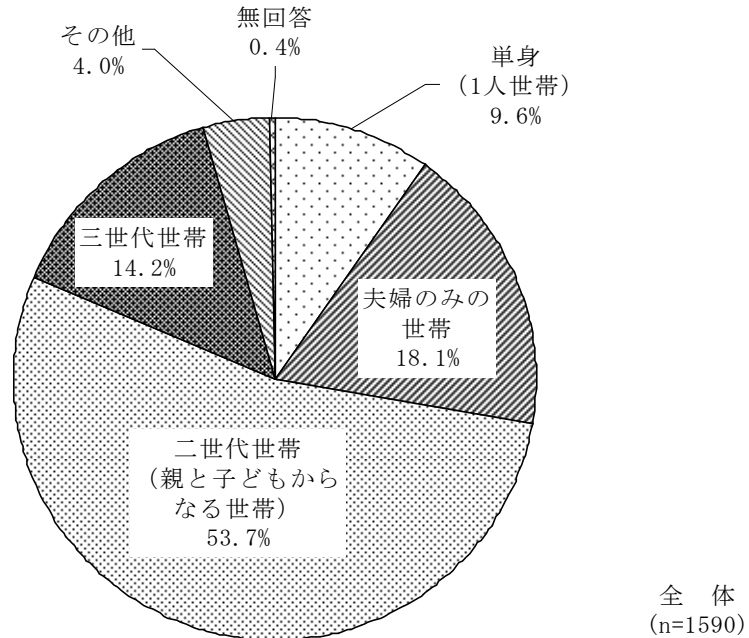


【区 別】



(4) 世帯構成

問4 あなたの世帯構成は次のどれに当たりますか。(○は1つ)



【全体結果】

「二世帯世帯 (親と子どもからなる世帯)」(53.7%)が過半数を占める。
以下、「夫婦のみの世帯」(18.1%)、「三世帯世帯」(14.2%)、「単身 (1人世帯)」(9.6%)が続く。

【年代別結果】

いずれの年代も「二世帯世帯 (親と子どもからなる世帯)」が多い。

「夫婦のみの世帯」は年代が高くなるにつれ回答率が高く、60～64歳ではおよそ3分の1の比率となっている。「三世帯世帯」は20歳代と50歳代の回答率が他の年代に比べてやや高い。「単身 (1人世帯)」は20歳代、30歳代の回答率が高い。

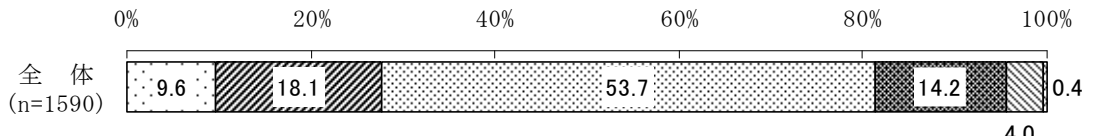
【区別結果】

いずれの地区も「二世帯世帯 (親と子どもからなる世帯)」が多数を占める。

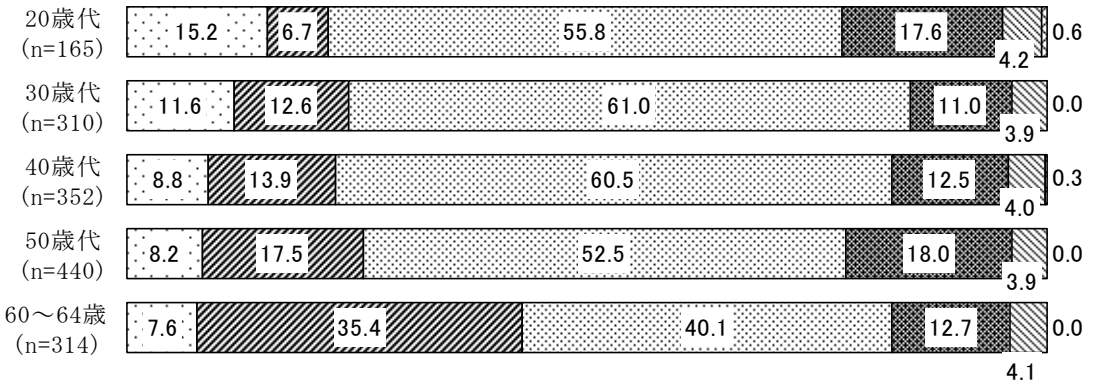
西蒲区は他の区と比べて「夫婦のみの世帯」が低く、「三世帯世帯」が高い。

中央区、東区は「単身 (1人世帯)」が他の区に比べてやや高い。

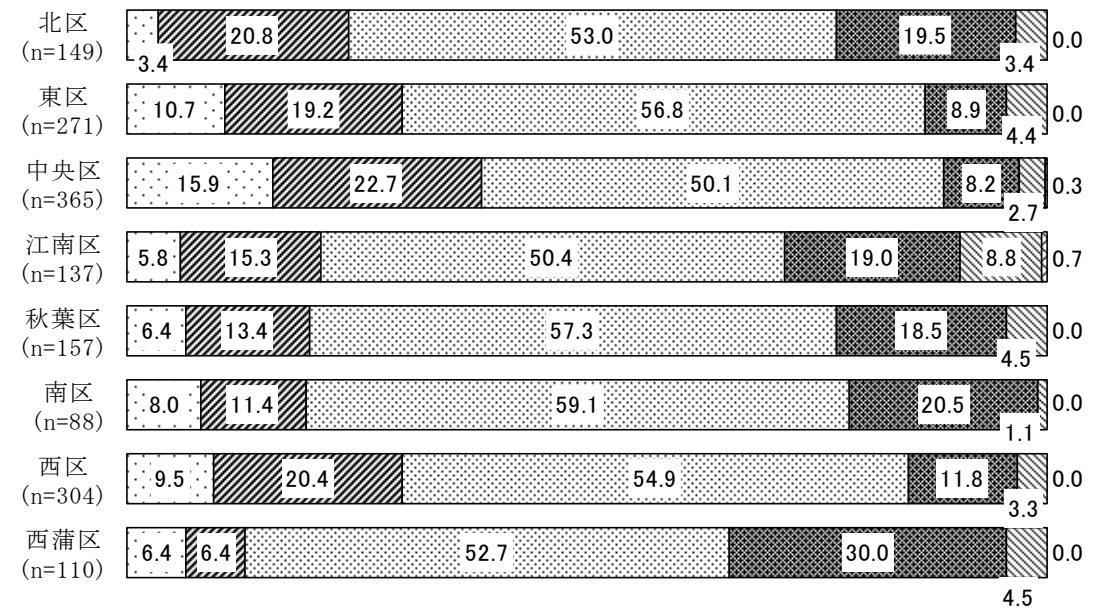
- 単身（1人世帯）
- ▨ 二世帯世帯（親と子どもからなる世帯）
- ▩ その他
- ▤ 夫婦のみの世帯
- ▦ 三世帯世帯
- 無回答



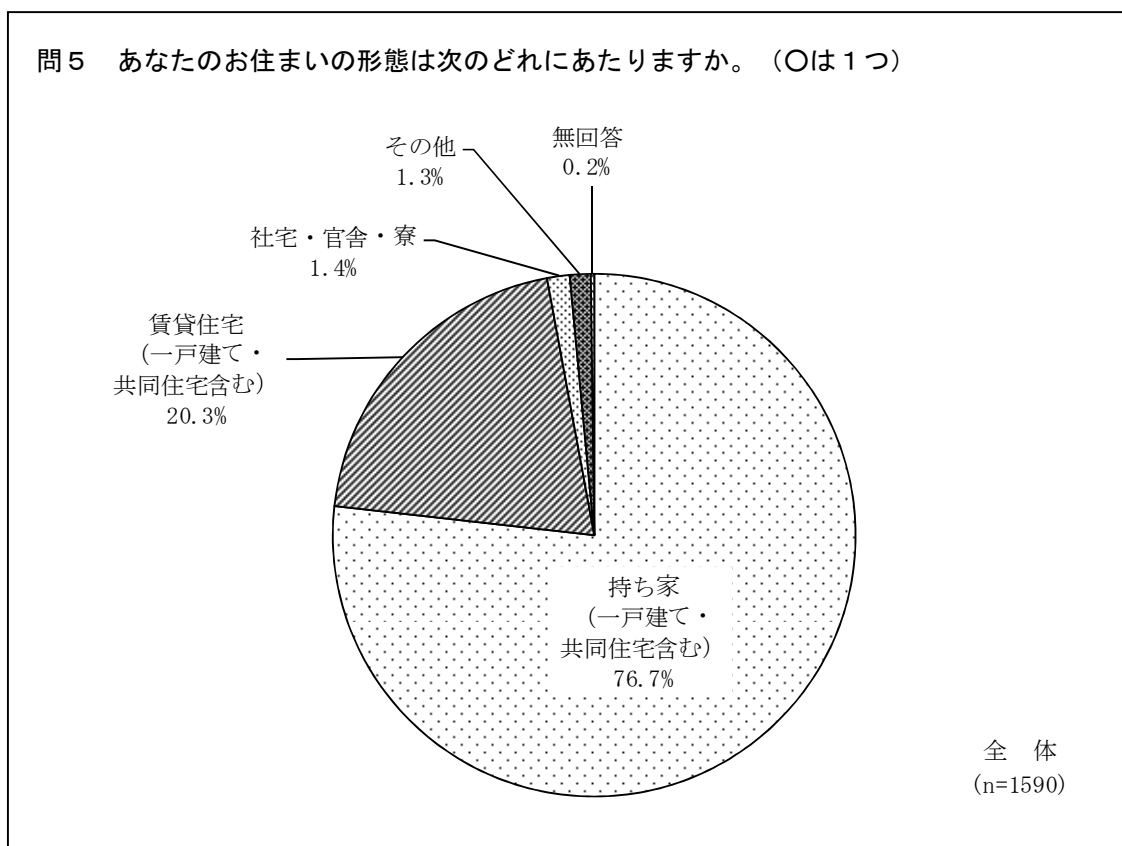
【年代別】



【区別】



(5) 住まいの形態



【全体結果】

「持ち家（一戸建て・共同住宅含む）」およそ4分の3（76.7%）を占め、圧倒的に多い。これに「賃貸住宅（一戸建て・共同住宅含む）」（20.3%）が続く。

【年代別結果】

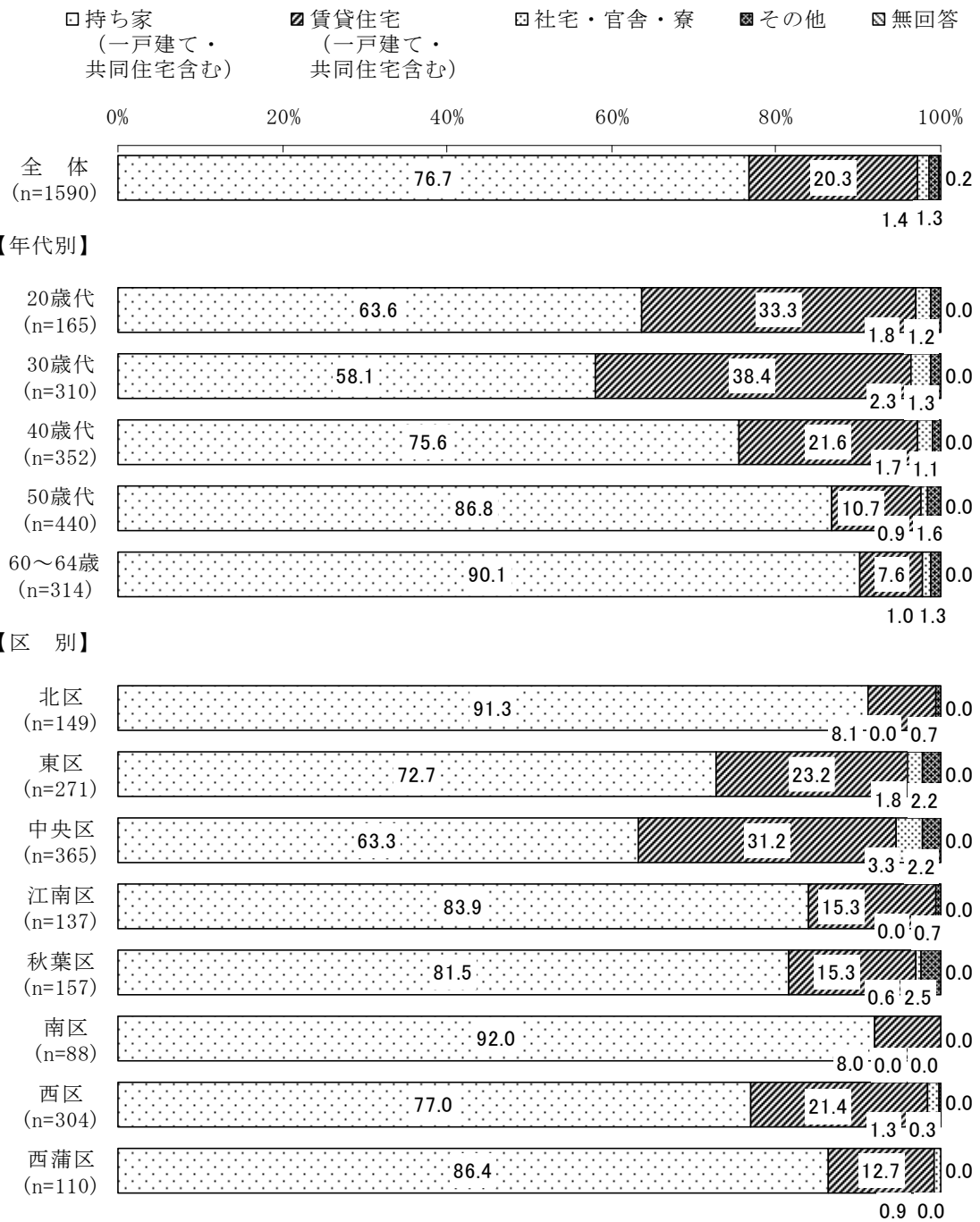
いずれの年代も「持ち家（一戸建て・共同住宅含む）」が圧倒的に多い。

「賃貸住宅（一戸建て・共同住宅含む）」は20歳代、30歳代の回答率が高い。

【区別結果】

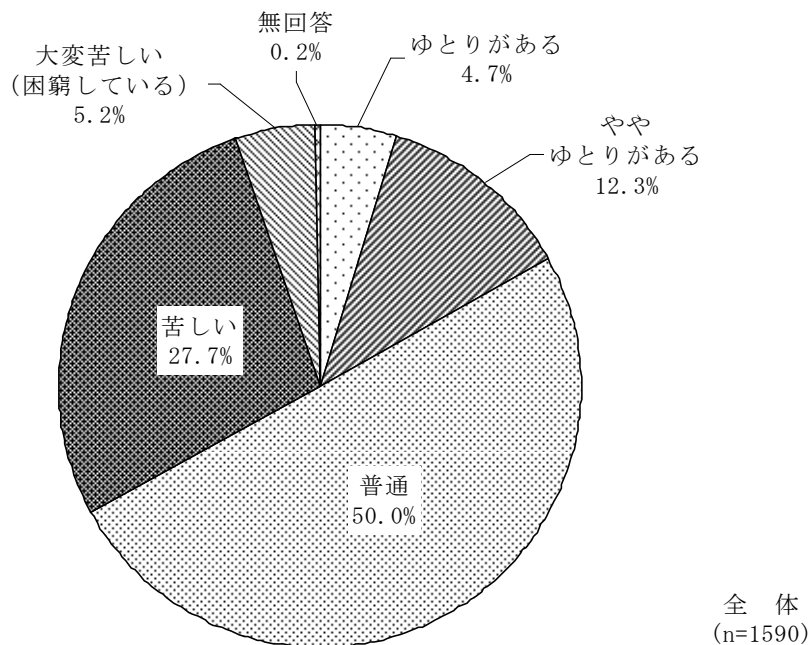
いずれの区も「持ち家（一戸建て・共同住宅含む）」が圧倒的に多い。

「賃貸住宅（一戸建て・共同住宅含む）」は中央区、東区、西区の回答率が他の区と比べて高い。



(6) 現在の暮らし向きの実感

問6 あなたの現在の暮らしの状況を総合的に見てどう感じていますか。(〇は1つ)



【全体結果】

現在の暮らし向きについて「普通」(50.0%)が半数を占め、最も多い。

「苦しい」(27.7%)と「大変苦しい」(5.2%)を合わせた『苦しい』は32.9%で、およそ3分の1を占める。一方「ゆとりがある」(4.7%)と「ややゆとりがある」(12.3%)を合わせた『ゆとりがある』は17.0%となっている。

【年代別結果】

いずれの年代も「普通」が最も多い。

20歳代は他の年代に比べて「ゆとりがある」がやや高く、「苦しい」が低い。

【区別結果】

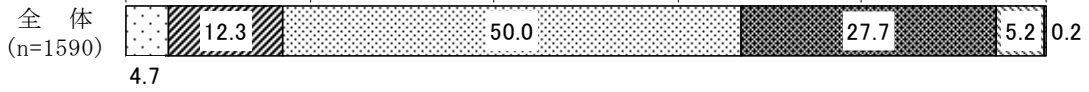
いずれの区も「普通」が最も多い。

「苦しい」の比率は江南区が全体結果に比べてやや高い。

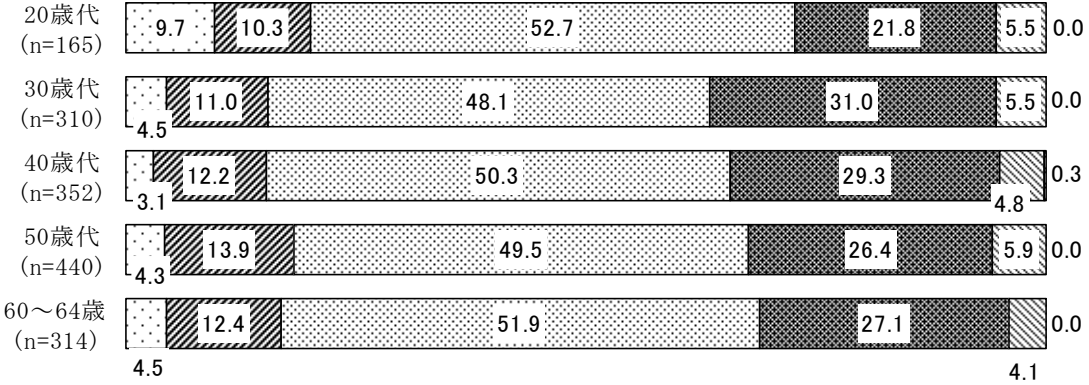
「ややゆとりがある」の比率は秋葉区が全体結果に比べてやや低い。

- ゆとりがある
- ややゆとりがある
- ▨ 普通
- 苦しい
- ▨ 大変苦しい（困窮している）
- 無回答

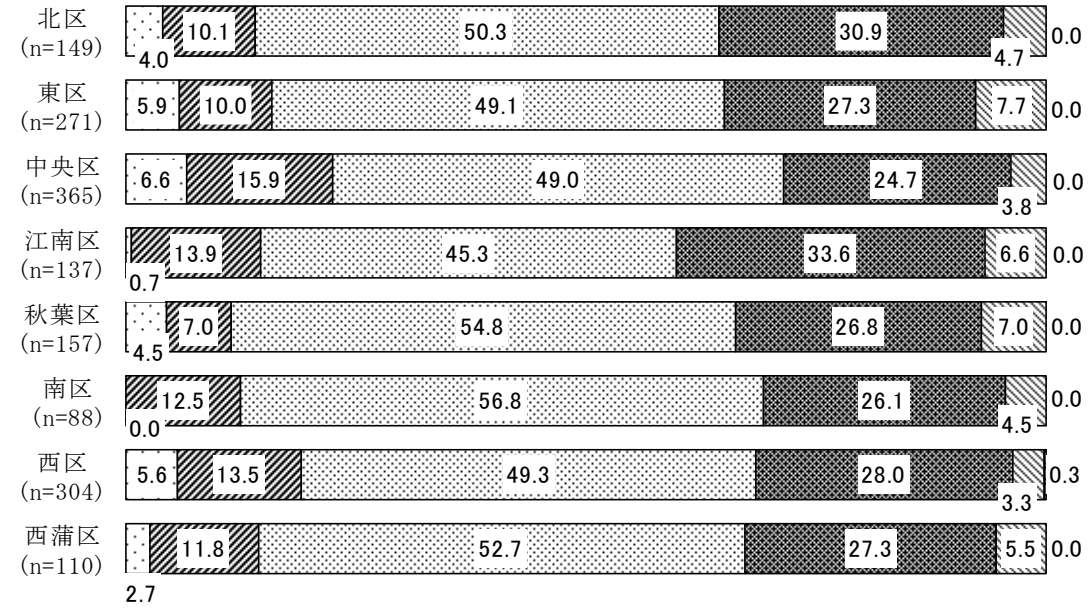
0% 20% 40% 60% 80% 100%



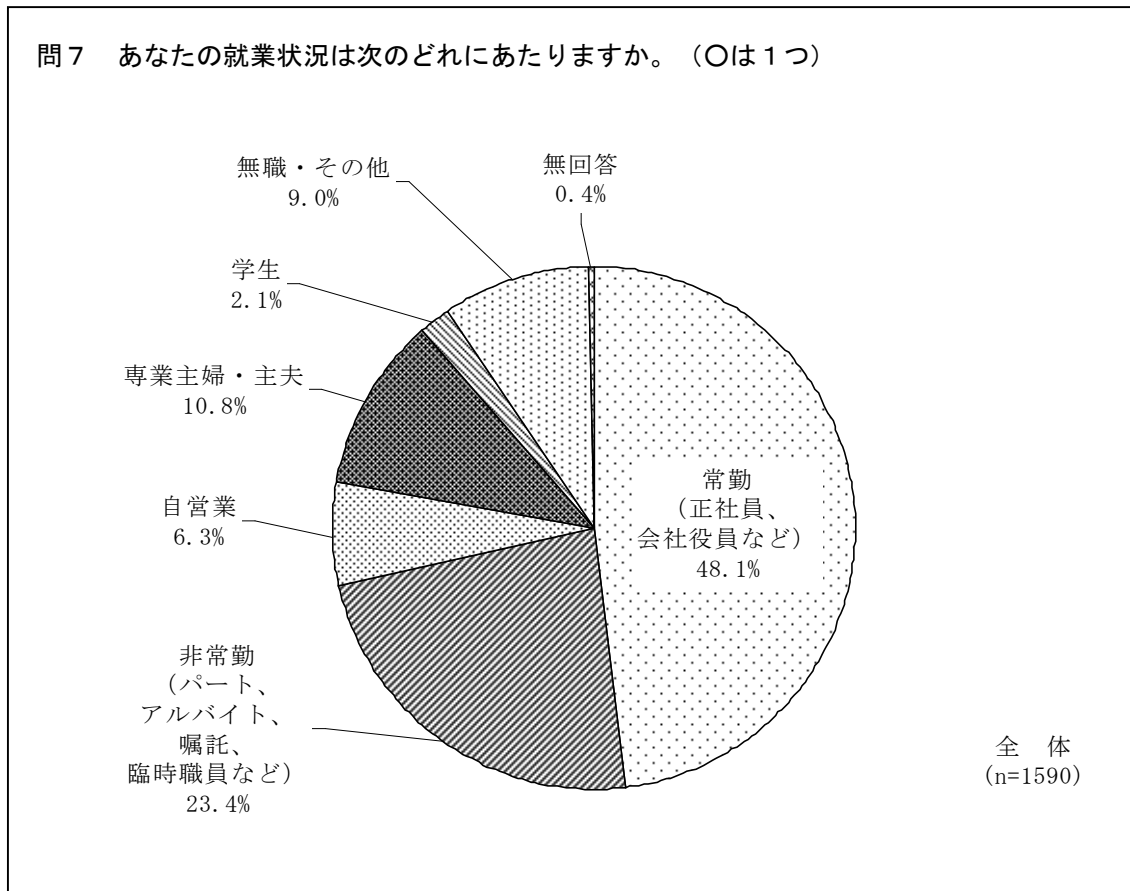
【年代別】



【区別】



(7) 就労状況



【全体結果】

「常勤 (正社員、会社役員など)」が最も多く、半数弱 (48.1%) を占める。「非常勤 (パート、アルバイト、嘱託、臨時職員など)」(23.4%) がおよそ4人に1人の割合でみられ、以下、「専業主婦・主夫」(10.8%)、「無職・その他」(9.0%)が続く。「自営業」(6.3%)、「学生」(2.1%)の構成比は小さい。

【年代別結果】

60～64歳では他の年代に比べて「常勤 (正社員、会社役員など)」の比率が低く、「非常勤 (パート、アルバイト、嘱託、臨時職員など)」、「無職・その他」が高い。

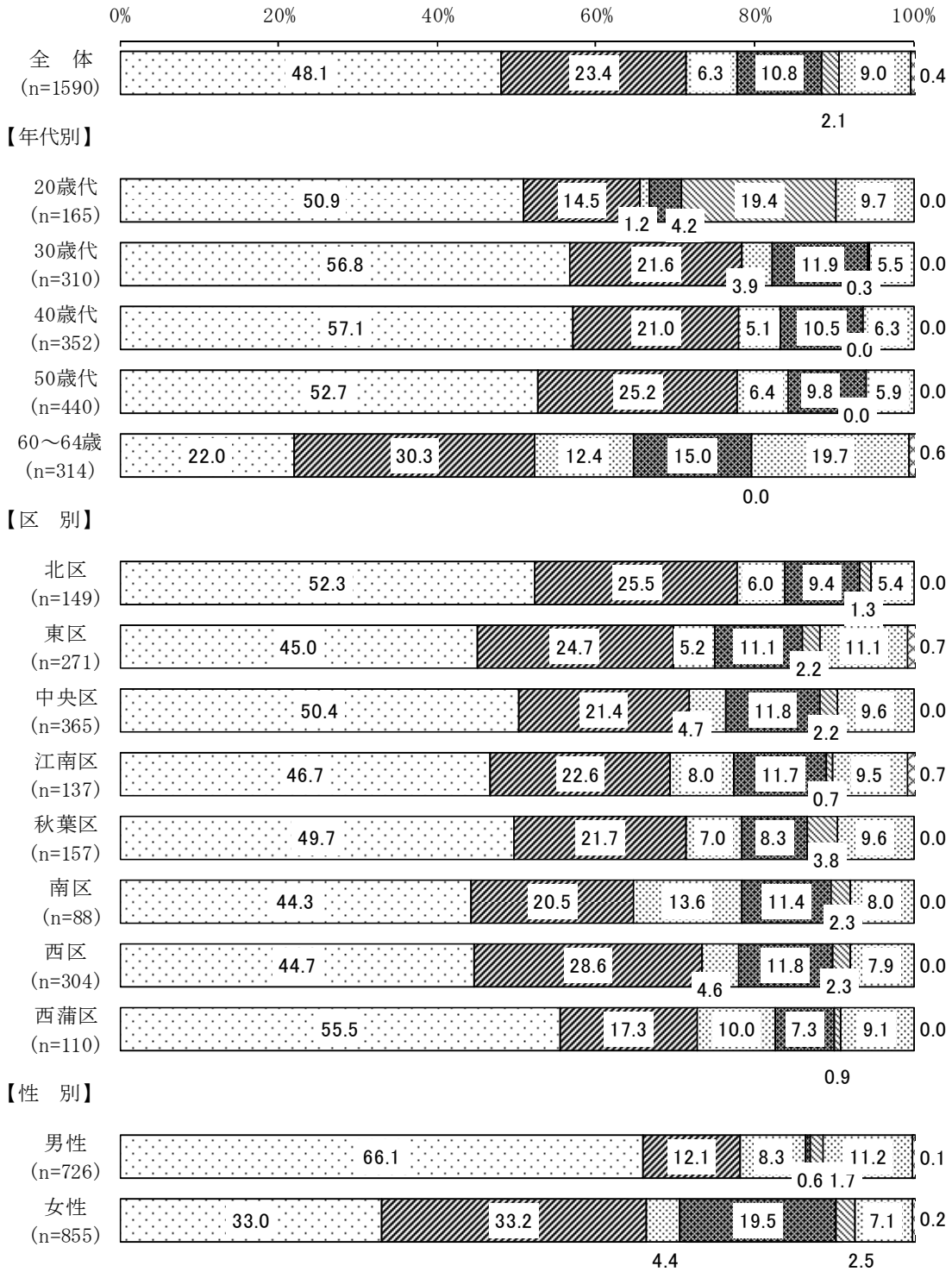
【区別結果】

西蒲区では他の地区に比べて「常勤 (正社員、会社役員など)」の比率が高く、「非常勤 (パート、アルバイト、嘱託、臨時職員など)」が低い。

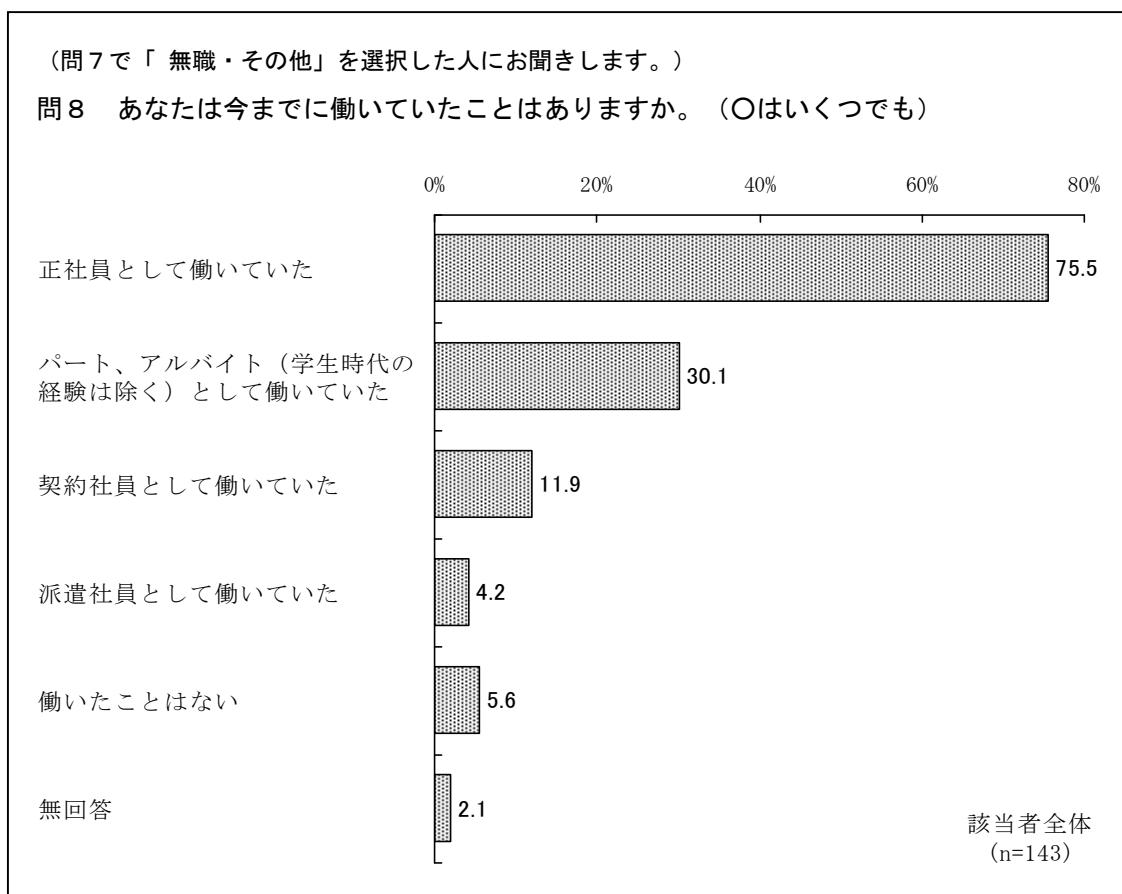
【性別結果】

男性は「常勤 (正社員、会社役員など)」がおよそ3人に2人の割合となっている。女性は「常勤 (正社員、会社役員など)」と「非常勤 (パート、アルバイト、嘱託、臨時職員など)」がそれぞれ3人に1人の割合でみられる。

- 常勤（正社員、会社役員など）
- ▨ 非常勤（パート、アルバイト、嘱託、臨時職員など）
- 自営業
- 専業主婦・主夫
- ▨ 学生
- 無職・その他
- 無回答



(8) これまでの就労状況



【全体結果】

問7で「無職・その他」を選択した人への該当質問である。「今まで働いたことはない」は少なくとも5.6%で、ほとんどの人はかつては何らかのかたちで就労していたことがうかがえる。

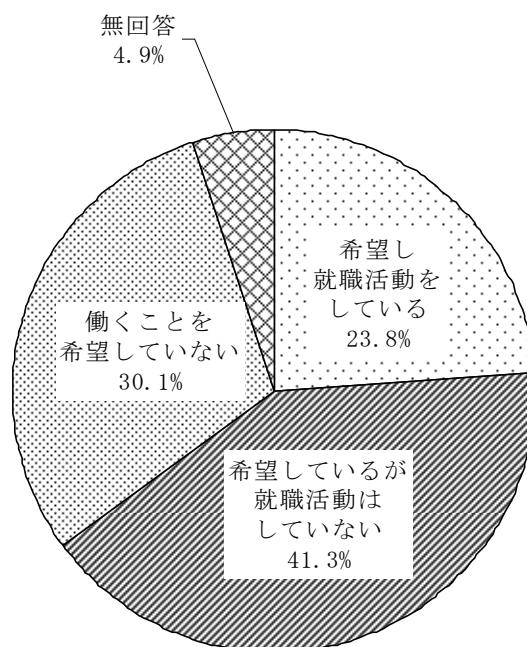
就労形態として最も多いのは「正社員として働いた」で、4人に3人(75.5%)が回答している。以下、「パート、アルバイト(学生時代の経験は除く)として働いていた」(30.1%)、「契約社員として働いていた」(11.9%)が続く。

この設問の回答者数は合計143名と少数のため、属性別の分析は省略する。

(9) 就労意向

(問7で「無職・その他」を選択した人にお聞きします。)

問9 あなたは現在、働くことを希望していますか。(○は1つ)



該当者全体
(n=143)

【全体結果】

「希望し就職活動をしている」はおよそ4人に1人の割合(23.8%)でみられ、「希望しているが就職活動はしていない」は4割(41.3%)で最も多い。これらの働くことを希望する人は合計でおよそ3人に2人の割合(65.1%)となっている。

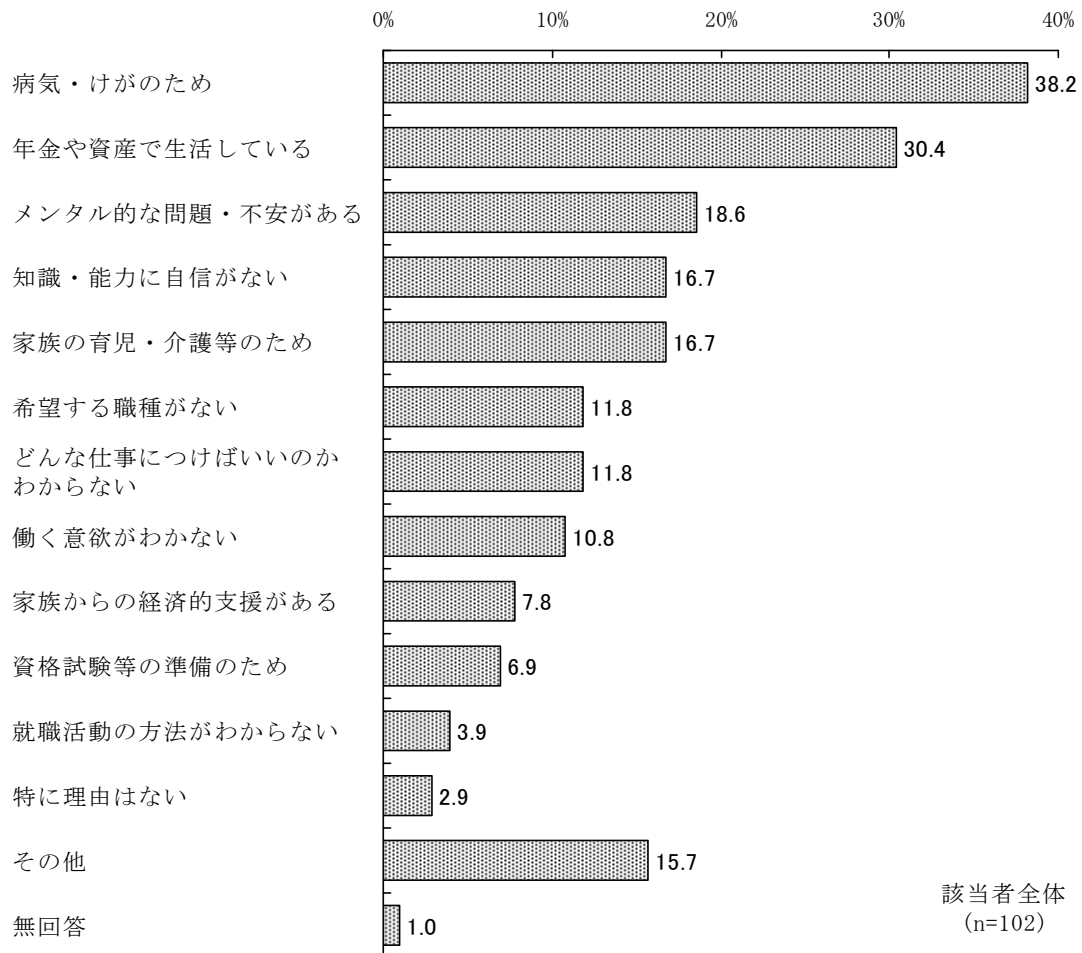
「働くことを希望していない」は3割(30.1%)みられる。

この設問の回答者数は合計143名と少数のため、属性別の分析は省略する。

(10) 現在働いていない理由

(問9で「希望しているが就職活動はしていない」または「働くことを希望していない」を選択した人にお聞きします。)

問10 あなたが現在働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



【全体結果】

働いていない理由として最も多いのは「病気・けがのため」で4割弱（38.2%）を占める。次いで「年金や資産で生活している」が3割（30.4%）となっている。

以下、「メンタル的な問題・不安がある」（18.6%）、「知識・能力に自信がない」（16.7%）、「家族の育児・介護等のため」（16.7%）が同程度の比率で続いている。

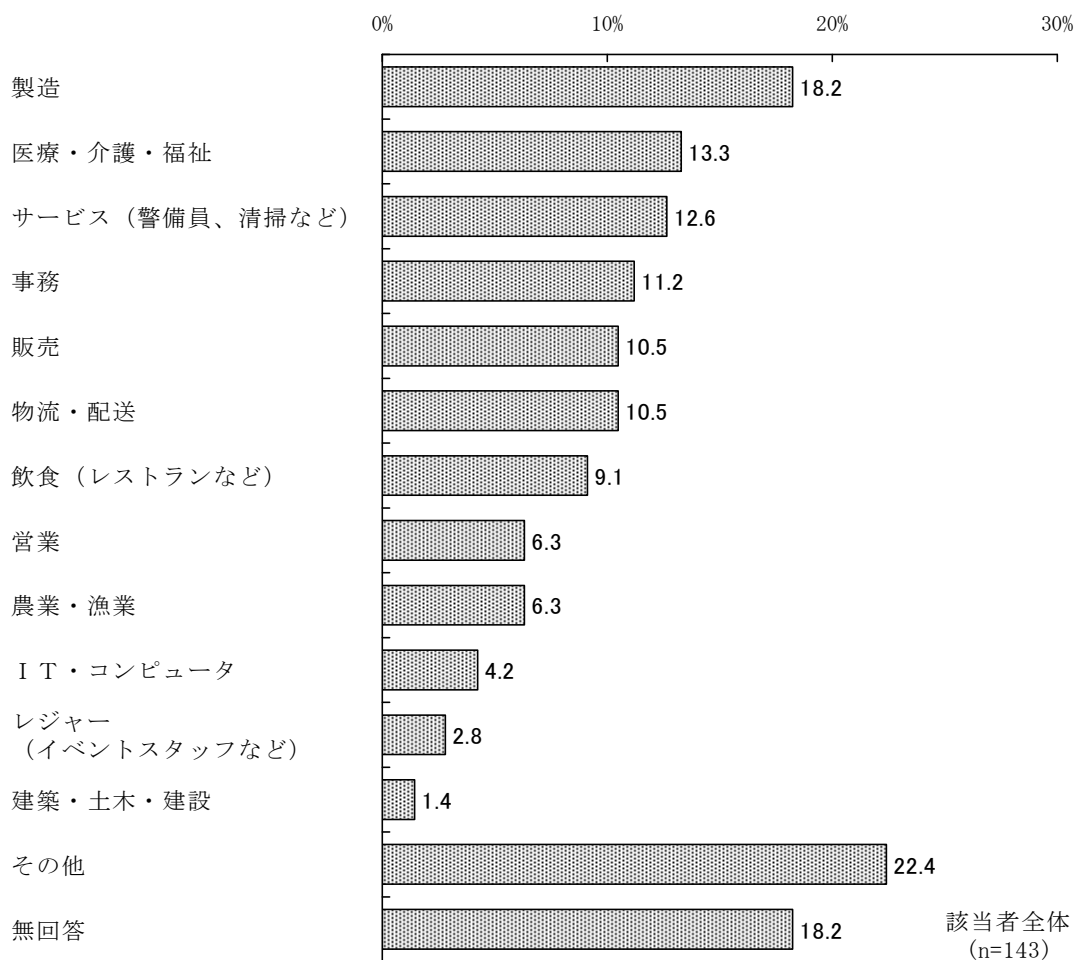
「その他」が1割強（15.7%）となっているが、その内訳としては、一時的な自由時間を楽しみたいなどの理由があげられた。

この設問の回答者数は合計102名と少数のため、属性別の分析は省略する。

(11) 今後就いてみたい職種

(問7で「無職・その他」を選択した人にお聞きします。)

問11 あなたが今後やってみたい職種はどれですか。(〇はいくつでも)



【全体結果】

今後就いてみたい職種として最も多いのは「製造」で2割弱 (18.2%) の回答率となっている。以下、「医療・介護・福祉」 (13.3%) や「サービス (警備員、清掃など)」 (12.6%) などが続く。

「その他」が2割強 (22.4%) となっているが、その内訳としては、特にこだわらない、わからないなどの理由があげられた。

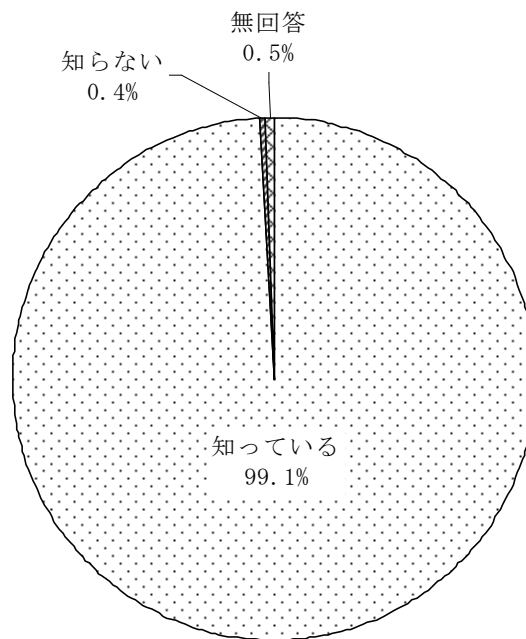
この設問の回答者数は合計 143 名と少数のため、属性別の分析は省略する。

2. ひきこもりについて

(1) 「ひきこもり」という言葉の認知状況

問12 以下の(1)～(3)についてあなたはご存じですか。(○はそれぞれ1つ)

(1) 「ひきこもり」という言葉を知っていますか。



全 体
(n=1590)

【全体結果】

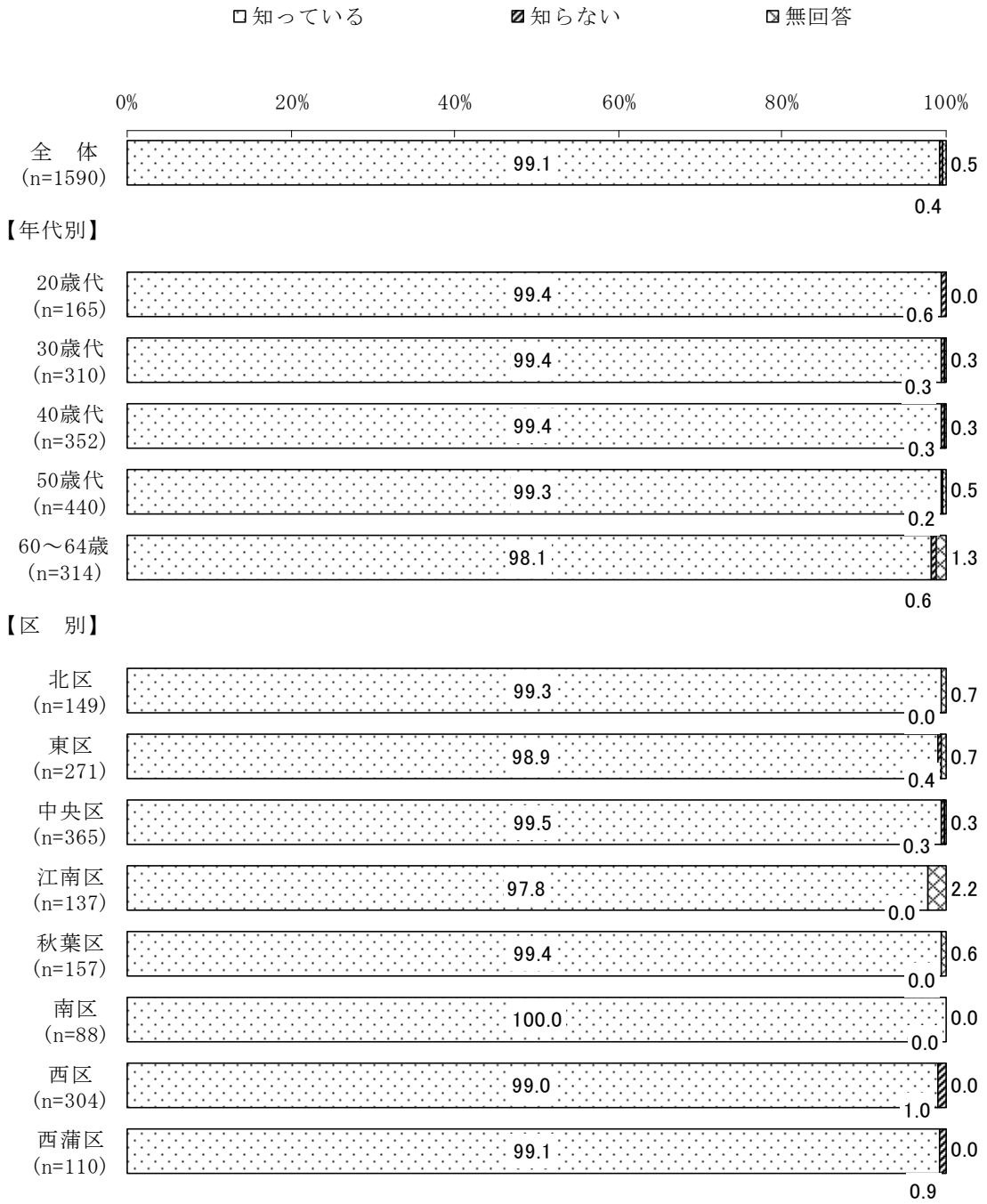
「ひきこもり」という言葉について、ほぼ全員(99.1%)が「知っている」と回答している。

【年代別結果】

年代別に差はみられない。

【区別結果】

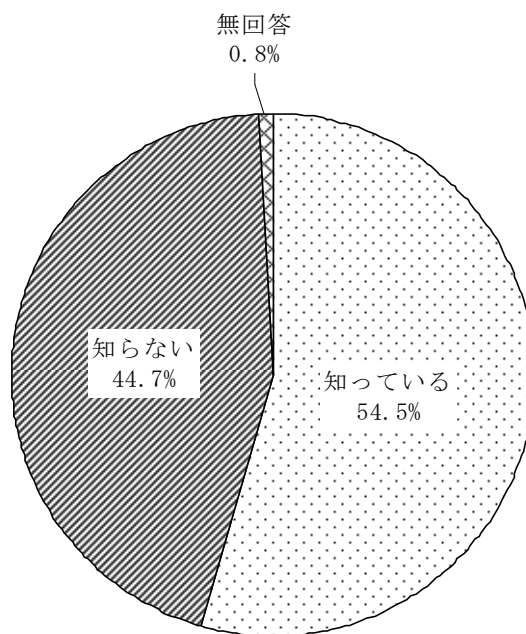
区別に差はみられない。



(2) 「ひきこもり」の定義の認知状況

問12 以下の(1)～(3)についてあなたはお存じですか。(○はそれぞれ1つ)

(2) 「ひきこもり」とは「仕事や学校に行かず、かつ家族以外との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」のことであるということをご存知ですか。



【全体結果】

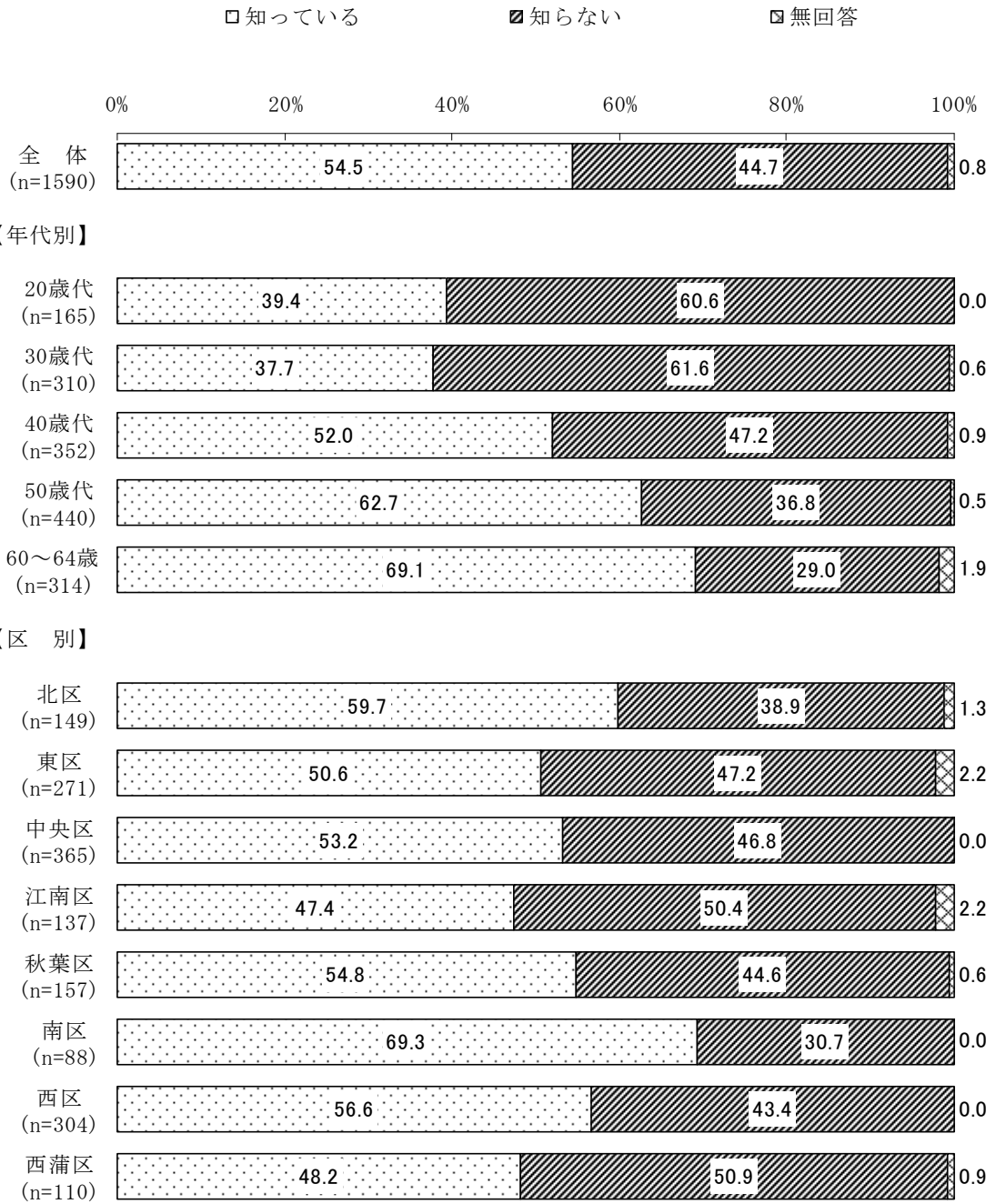
「ひきこもり」の定義については、「知っている」が半数強（54.5%）を占め、「知らない」（44.7%）を上回る。

【年代別結果】

年代が高いほど「知っている」の回答率が高く、「知らない」が低い傾向がみられる。

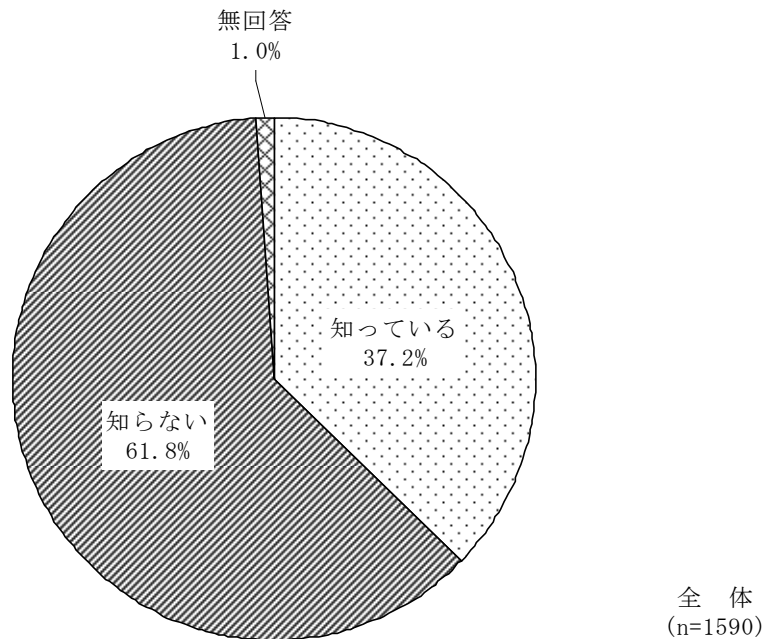
【区別結果】

江南区と西蒲区では他の区と異なり、「知らない」が「知っている」をわずかに上回る。



(3) 「ひきこもり」の範囲の認知状況

問12 以下の(1)～(3)についてあなたのご存じですか。(○はそれぞれ1つ)
(3) 上記(2)の状態で、「時々買い物などで外出することもある」という場合も「ひきこもり」に含めるということをご存知ですか。



【全体結果】

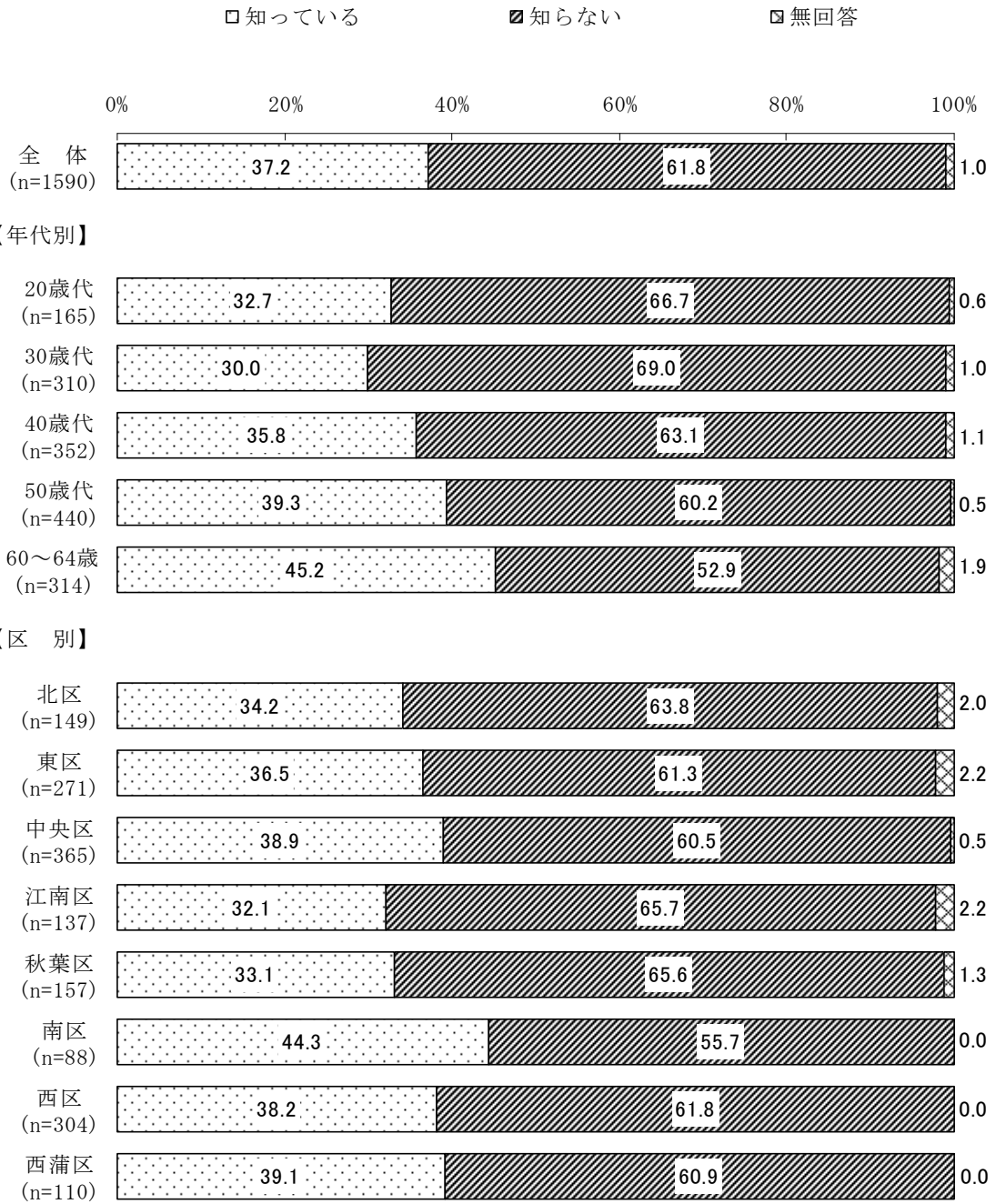
「時々買い物などで外出することもある」という場合も「ひきこもり」に含めることについて、「知っている」は4割弱(37.2%)にとどまり、「知らない」が6割強(61.8%)で多数を占める。

【年代別結果】

年代が高いほど「知っている」の回答率が高く、「知らない」が低い傾向にある。

【区別結果】

いずれの区も「知らない」が多数を占める。

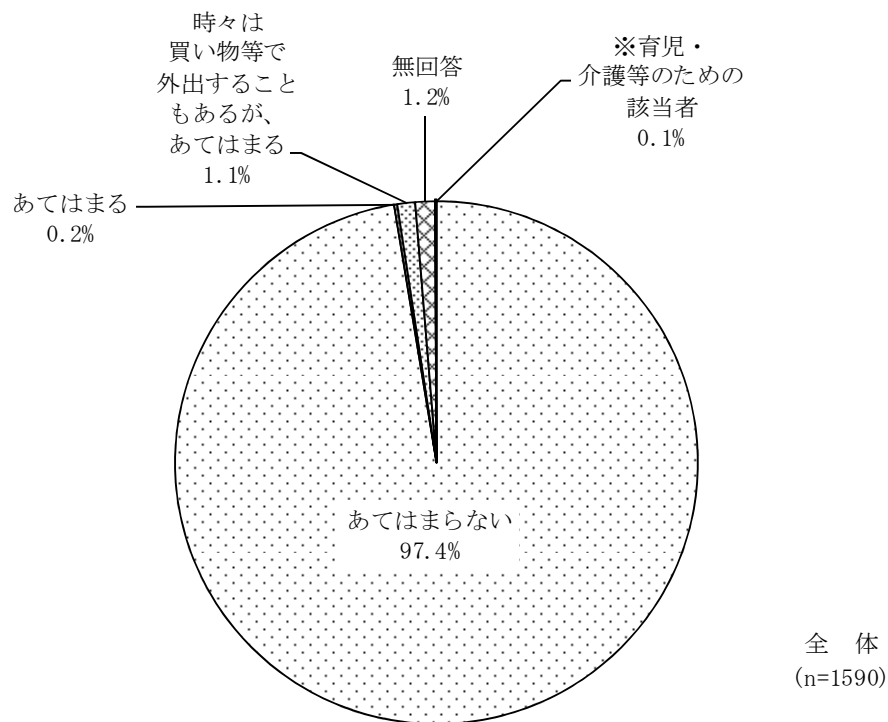


3. 回答者自身のひきこもり状況

(1) 回答者自身のひきこもり状況

問13 あなた自身が、前ページ問12(2)のひきこもりの定義「仕事や学校に行かず、かつ家族以外との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」にあてはまりますか。

※ ただし、重度の病気やけがなどの身体的な状況により外出できない場合を除きます。(〇は1つ)



【全体結果】

自分自身がひきこもりの定義に「あてはまらない」が圧倒的多数(97.4%)を占める。

「あてはまる」(0.2%)や「時々買い物等で外出することもあるが、あてはまる」(1.1%)はそれぞれきわめて少ない。

なお、自分自身がひきこもりの定義にあてはまるものの、問10で現在働いていない理由として「家族の育児や介護のため」と回答した人は1名であったが、この1名はひきこもりの該当者数から除く。

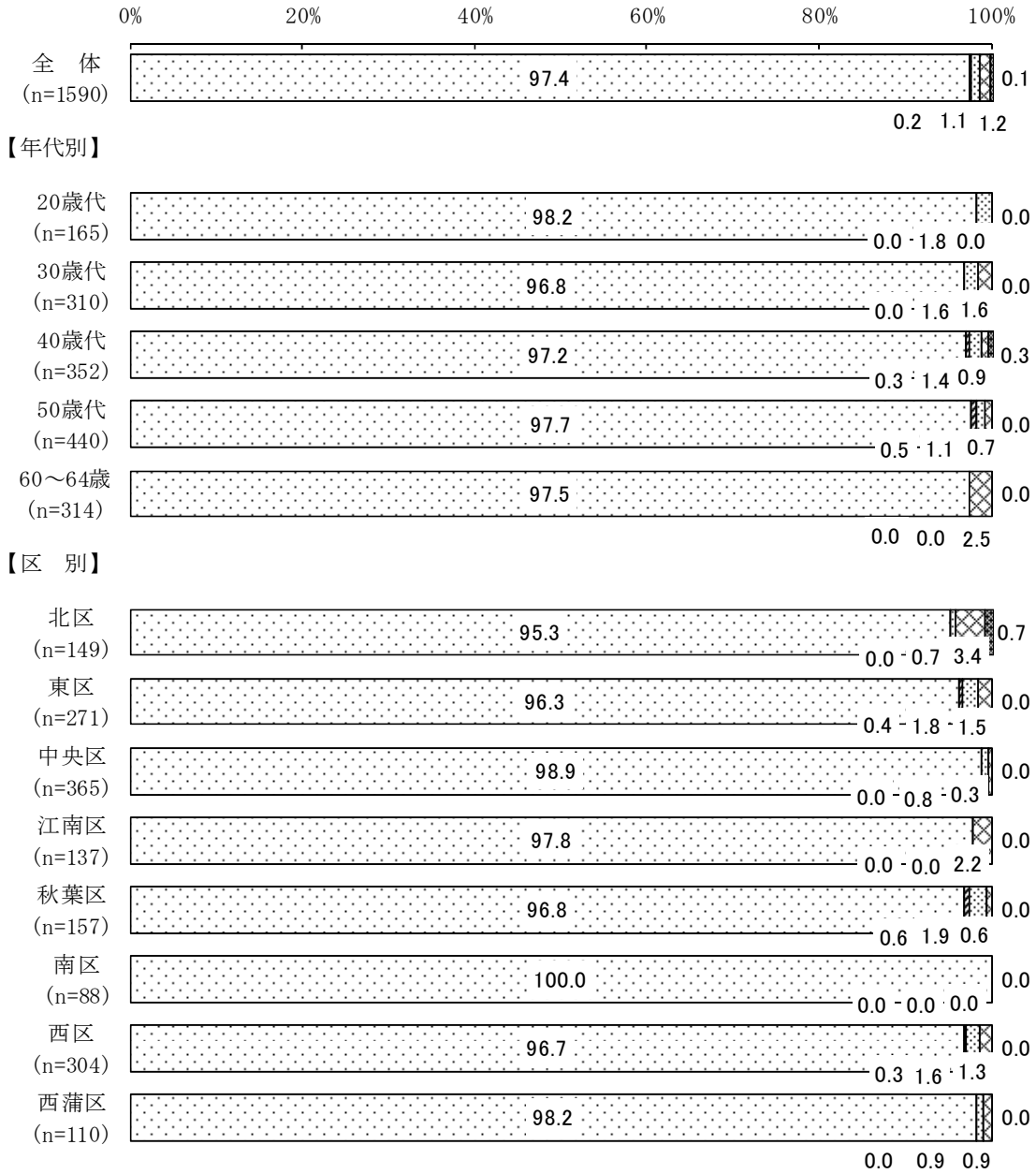
【年代別結果】

年代別に特に大きな違いはみられない。

【区別結果】

区別による違いは特にみられない。

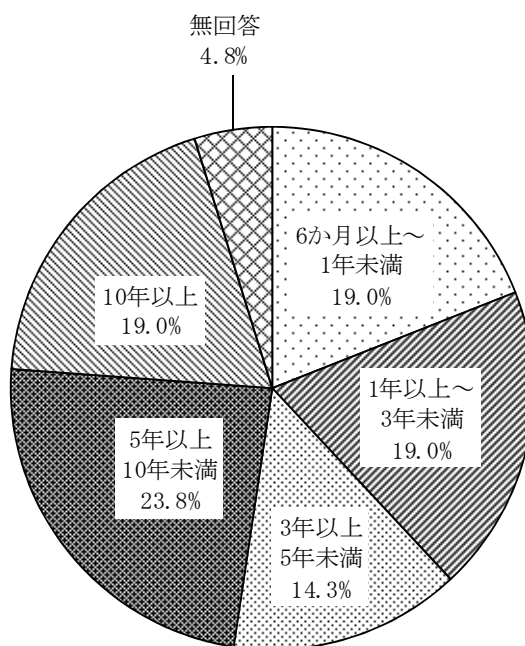
- あてはまらない
- あてはまる
- 時々買い物等で外出することもありますが、あてはまる
- 無回答
- ※育児・介護等のための該当者



(2) 回答者自身がひきこもり状態となってからの期間

問14 問13で「2 あてはまる」「3 ときどきは買い物等で外出することもあるが、あてはまる」に○をつけた方にお聞きします。

その状態になってから現在まで、どのくらいの期間になりますか。(○は1つ)



該当者全体
(n=21)

【全体結果】

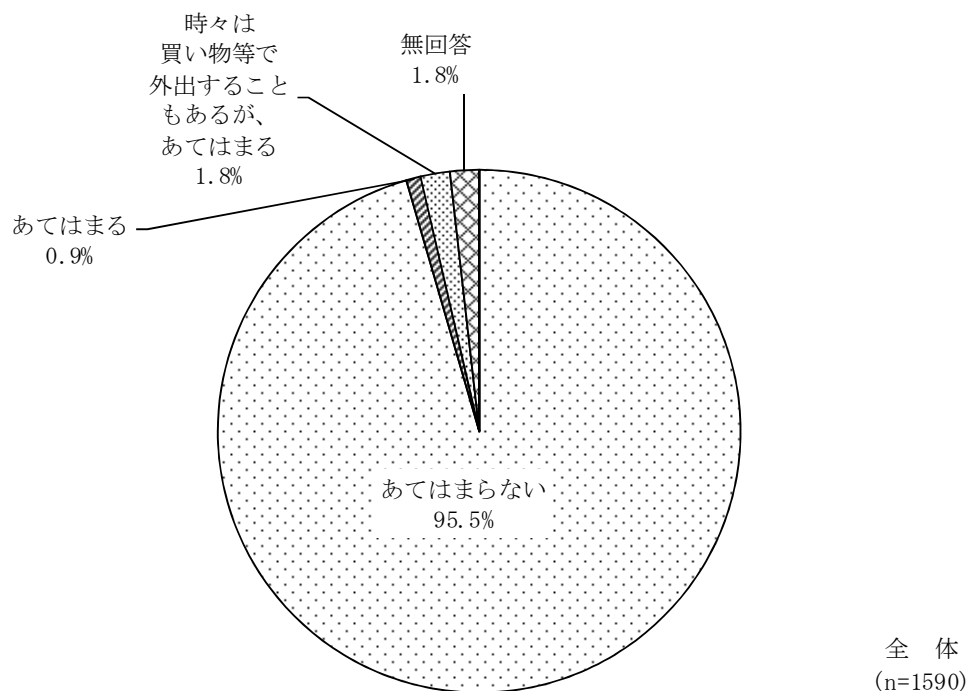
この設問の回答者数は合計 21 名ときわめて少ないため、分析は省略する。

4. 同居家族のひきこもり状況

(1) 同居家族のひきこもり状況

問15 あなたと同居しているご家族が、問12(2)のひきこもりの定義「仕事や学校に行かず、かつ家族以外との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」にあてはまりますか。

※ ただし、重度の病気やけがなどの身体的な状況により外出できない場合を除きます。(○は1つ)



【全体結果】

同居の家族がひきこもりの定義に「あてはまらない」が圧倒的多数(95.5%)を占める。

「あてはまる」(0.9%)や「時々買い物等で外出することもあるが、あてはまる」(1.8%)はそれぞれきわめて少ない。

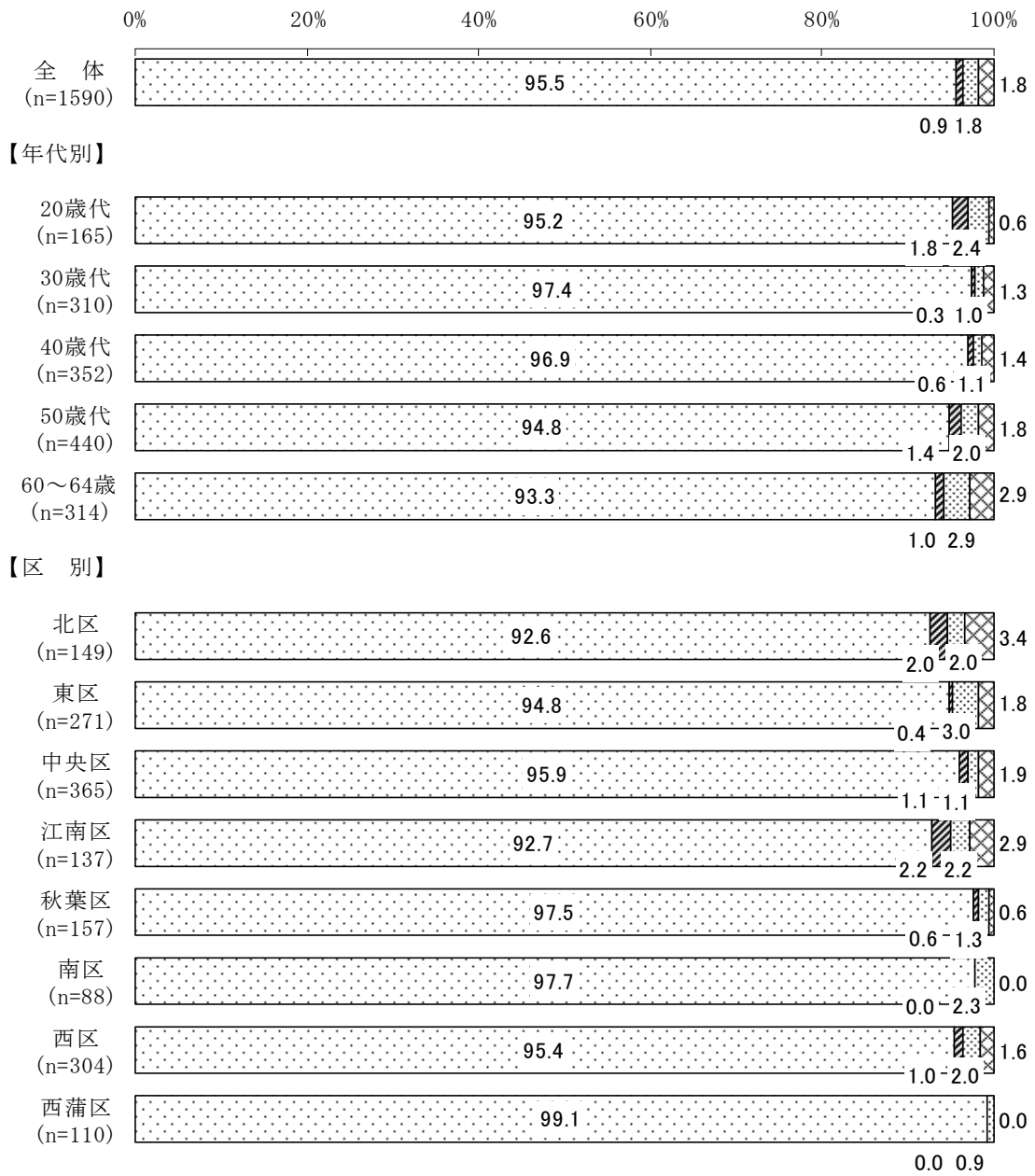
【年代別結果】

年代別に特に大きな違いはみられない。

【区別結果】

区別による違いは特にみられない。

- あてはまらない
- ▨ あてはまる
- ▤ 時々買い物等で外出することもありますが、あてはまる
- ▩ 無回答

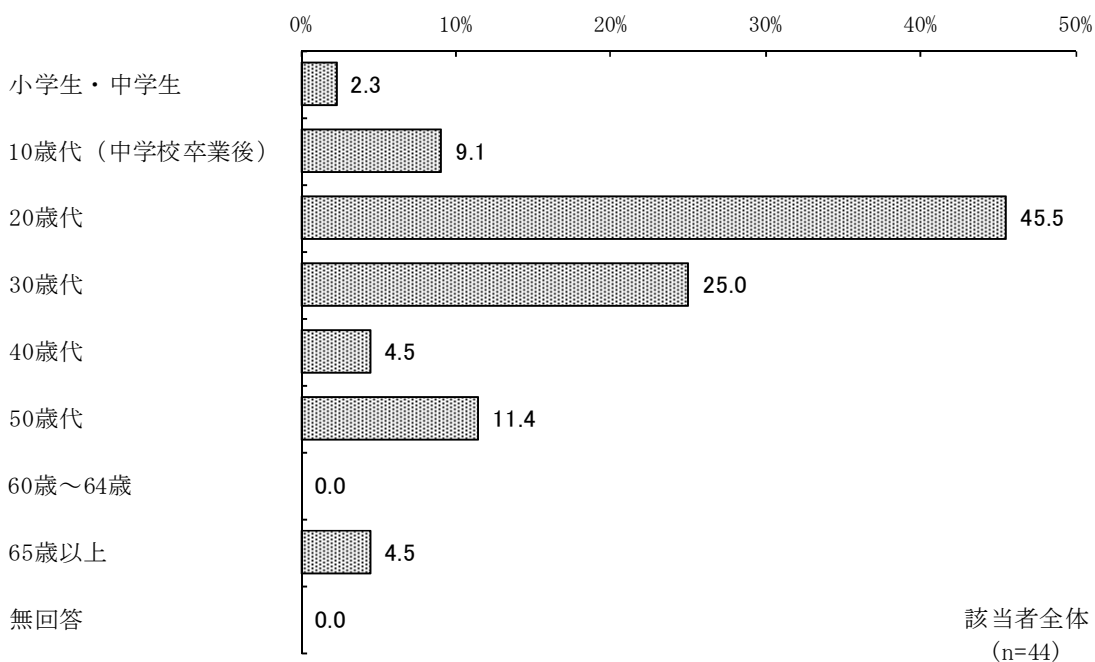


(2) ひきこもり状態にある同居家族の現在の年齢

問16 問15で「2 あてはまる」「3 ときどきは買い物等で外出することもあるが、あてはまる」に○をつけた方にお聞きします。

そのご家族の現在の年齢についてお選びください。

(複数いらっしゃる場合、○は複数可)



【全体結果】

ひきこもりの定義に該当する同居の家族の年齢構成は20歳代と30歳代にほぼ集中している。「50歳代」(11.4%)、「10歳代(中学校卒業後)」(9.1%)は1割前後の比率で見られる。

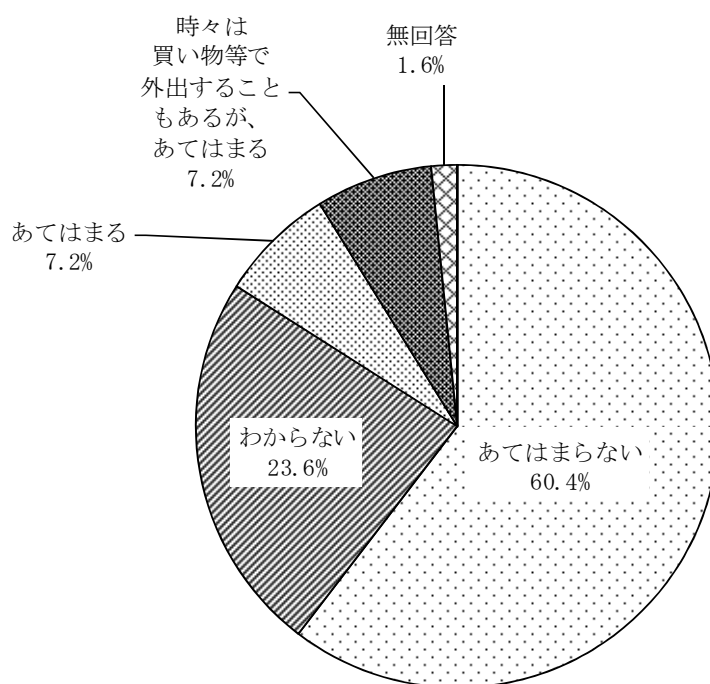
この設問の回答者数は合計44名と少数のため、属性別の分析は省略する。

5. 近所の人や親戚・知人のひきこもり状況

(1) 近所の人や親戚・知人のひきこもり状況

問17 近所の人や市内の親戚・知人が、問12(2)のひきこもりの定義「仕事や学校に行かず、かつ家族以外との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」にあてはまりますか。

※ ただし、重度の病気やけがなどの身体的な状況により外出できない場合を除きます。(○は1つ)



【全体結果】

近所の人や市内の親戚・知人が、ひきこもりの定義に「あてはまらない」が6割(60.4%)と多数を占める。

一方、「あてはまる」は7.2%、「時々買い物等で外出することもあるが、あてはまる」は7.2%で、ひきこもりの定義に「あてはまる」は合計で1割強(14.4%)である。

また、「わからない」(23.6%)との回答がおおよそ4人に1人の割合で見られる。

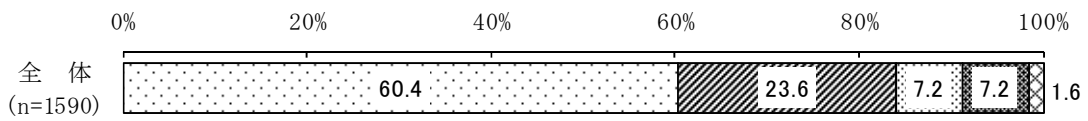
【年代別結果】

年代別に特に大きな違いはみられない。

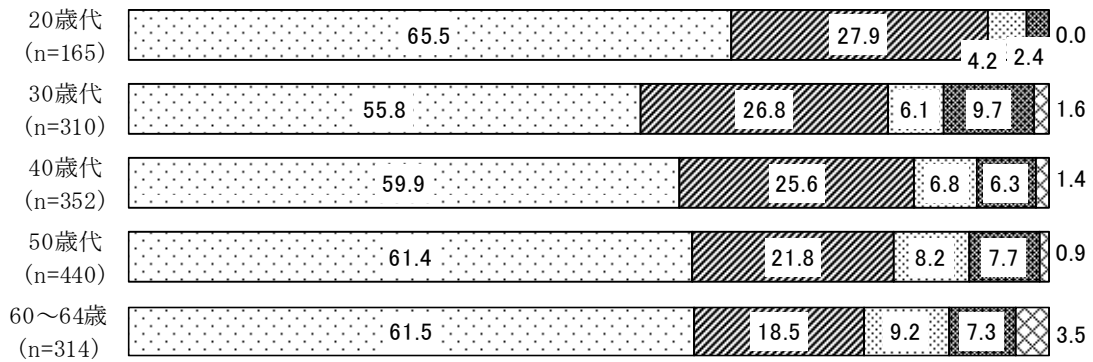
【区別結果】

南区、西蒲区では他の地区に比べて「わからない」が高い。

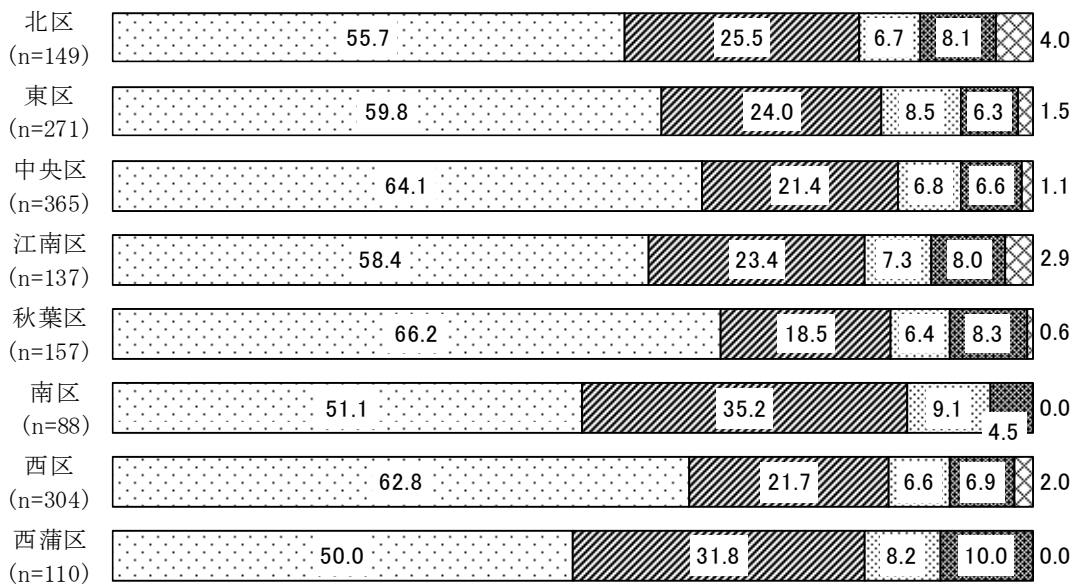
- あてはまらない
- ▨わからない
- あてはまる
- ▨時々は買い物等で外出することもあるが、あてはまる
- 無回答



【年代別】

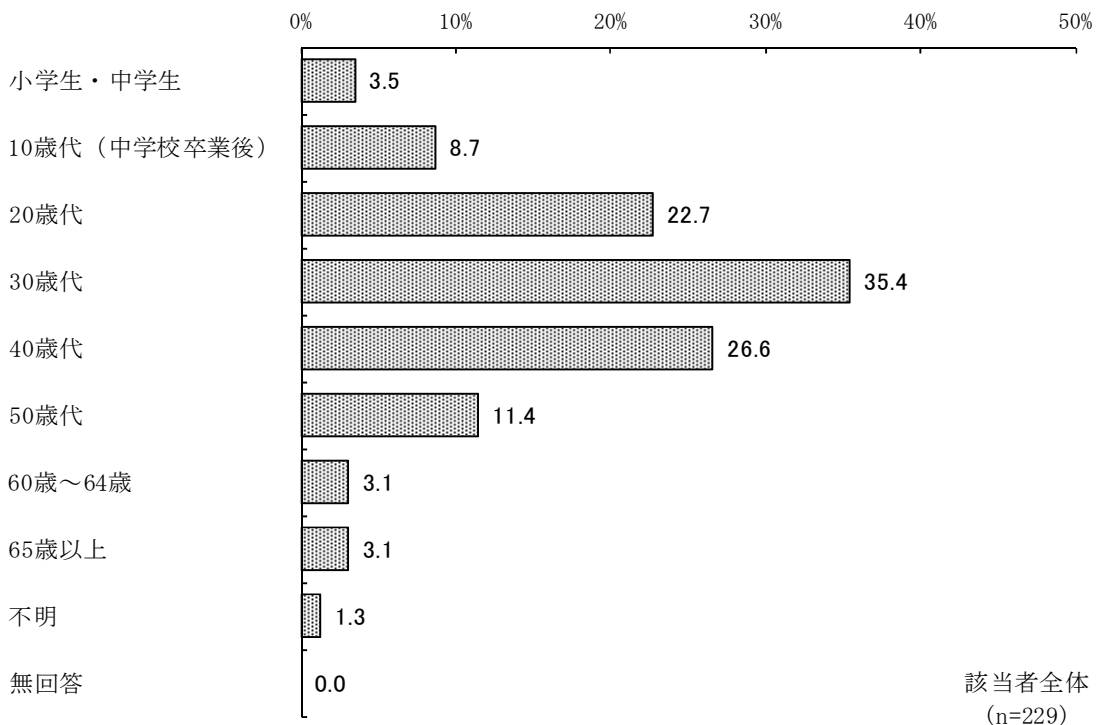


【区別】



(2) ひきこもり状態にある近所の人や親戚・知人の現在の年齢

問18 問17で「3 あてはまる」「4 ときどきは買い物等で外出することもあるが、あてはまる」に○をつけた方にお聞きします。その方の現在の年齢についてお選びください。(複数いらっしゃる場合、○は複数可)

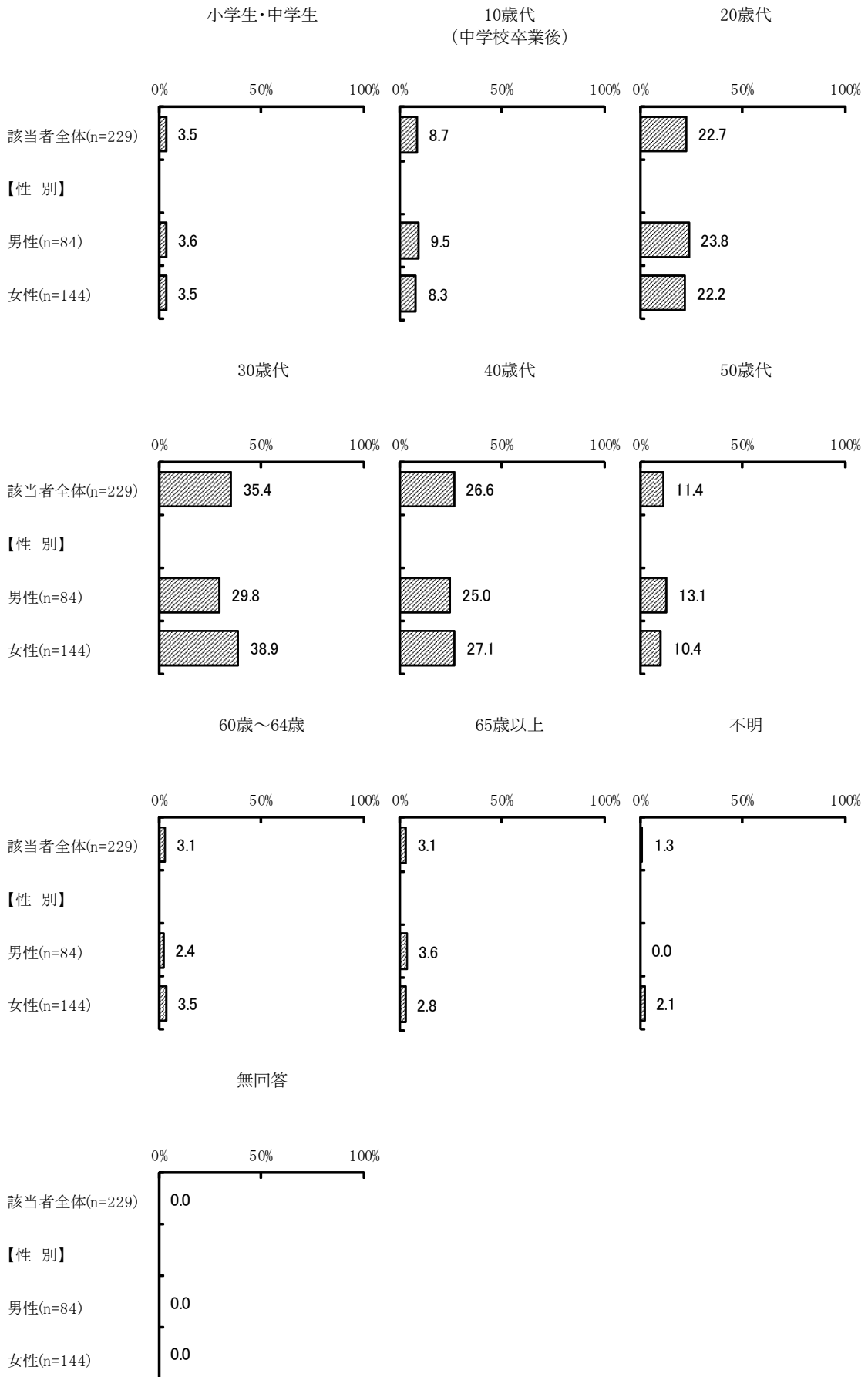


【全体結果】

ひきこもりの定義に該当する近所の人や親戚・知人の年齢構成は 20 歳代 (22.7%)、30 歳代 (35.4%)、40 歳代 (26.6%) が他の年代に比べて高く、これらの年代にほぼ集中している。「50 歳代」(11.4%)、「10 歳代 (中学校卒業後)」(8.7%) は 1 割前後の比率でみられる。

【性別結果】

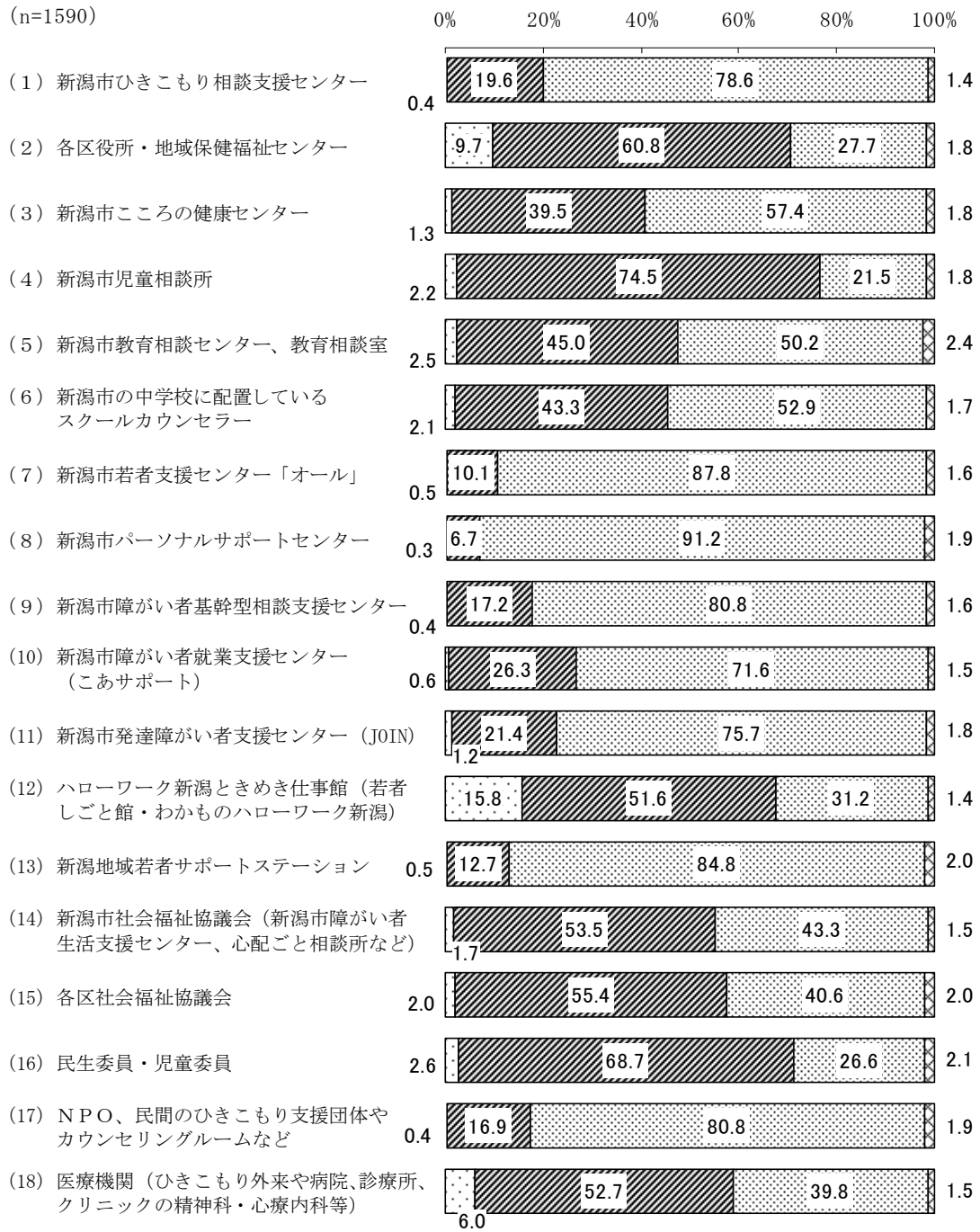
30 歳代は女性の比率が高いが、他の年代では男女に差はみられない。



6. 各種相談先の利用・認知状況

問19 あなたは(1)～(18)についてご存知ですか。また、利用や相談をしたことはありますか。(〇はそれぞれ1つ)

□ 利用・相談したことがある ■ 知っているが利用・相談したことはない □ 知らない ■ 無回答



【全体結果】

「利用・相談したことがある」の回答率が比較的高いのは、ハローワーク新潟ときめき仕事館（若者しごと館・わかものハローワーク新潟）（15.8%）、各区役所・地域保健福祉センター（9.7%）である。大半の施設の利用・相談状況が低いことがうかがえる。

「知っているが利用・相談したことはない」の回答率が比較的高いのは、新潟市児童相談所（74.5%）、民生委員・児童委員（68.7%）、各区役所・地域保健福祉センター（60.8%）である。

「知らない」の回答率が高いのは、新潟市パーソナルサポートセンター（91.2%）、新潟市若者支援センター「オール」（87.8%）、新潟地域若者サポートステーション（84.8%）、NPO、民間のひきこもり支援団体やカウンセリングルームなど（80.8%）で、いずれも認知度としてはかなり低い。大半の施設が、認知度は高いとはいえない状況にあることがうかがえる。

【年代別結果】

新潟市の中学校に配置しているスクールカウンセラーは、20歳代において「知っているが利用・相談したことはない」の回答率が他の年代に比べて高い。

ハローワーク新潟ときめき仕事館（若者しごと館・わかものハローワーク新潟）は若年層ほど「利用・相談したことがある」の回答率が高い。

新潟市社会福祉協議会（新潟市障がい者生活支援センター、心配ごと相談所など）と各区社会福祉協議会については、年代が高くなるにつれて「知っているが利用・相談したことはない」の回答率が高くなる傾向がみられる。高齢層ほど社会福祉協議会の認知度は高い。

【区別結果】

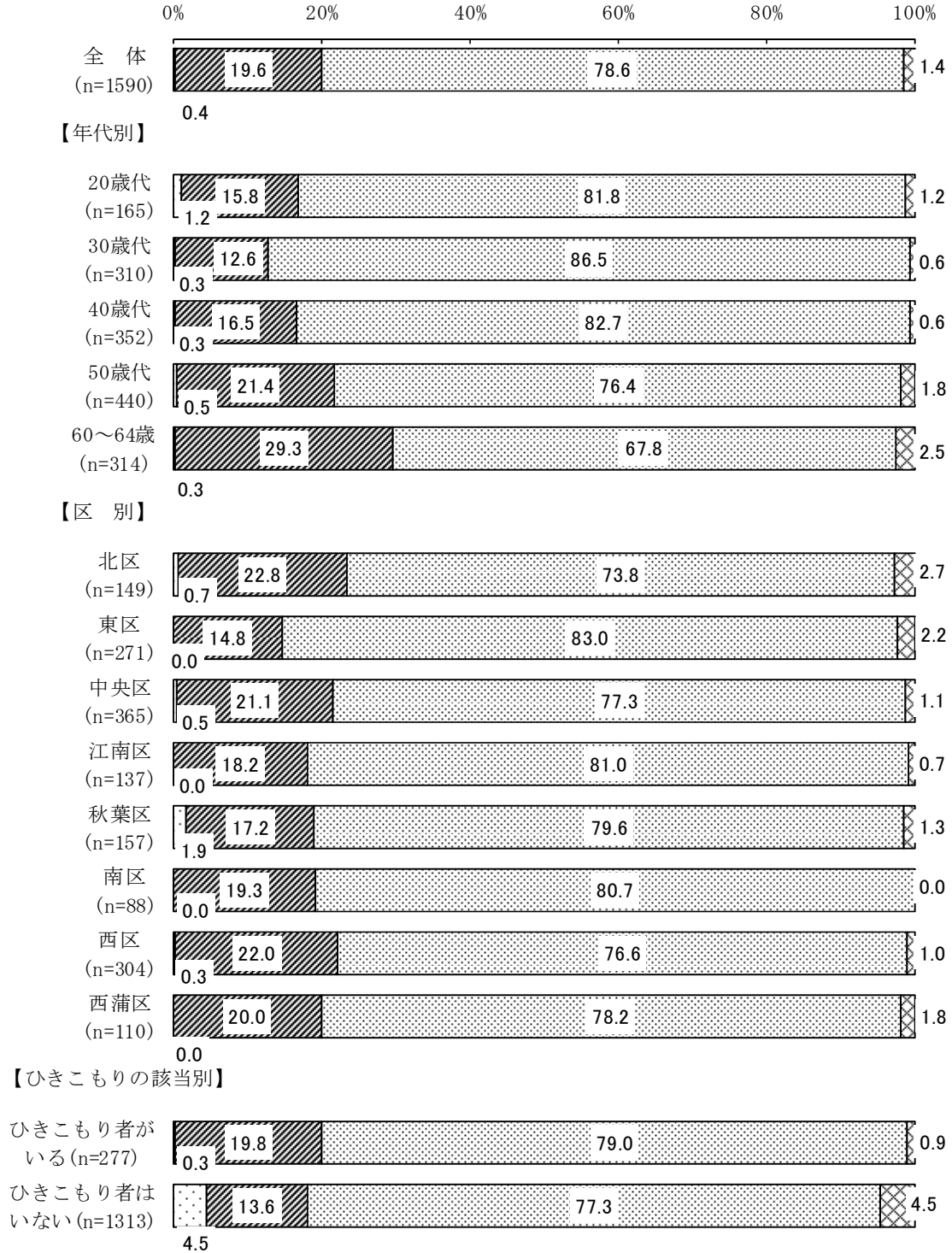
西蒲区では「知らない」の回答率が他の地区に比べて高い施設が散見する。

【ひきこもりの該当別結果】

「利用・相談したことがある」と「知っているが利用・相談したことはない」を合わせた、認知・利用度が高い施設についてみると、問13、15、17で、本人・家族・知人等がひきこもりの定義にあてはまると回答した人（以下、「ひきこもり者がいる」という）がいると回答した人のほうが回答率の高い施設は、新潟市ひきこもり相談支援センター、新新潟市の中学校に配置しているスクールカウンセラーなどである。逆に問13、15、17で、本人・家族・知人等がひきこもりの定義にあてはまらないと回答した人（以下、「ひきこもり者はいない」という）のほうが高い回答率となっている施設は、各区役所・地域保健福祉センターやハローワーク新潟ときめき仕事館（若者しごと館・わかものハローワーク新潟）などである。

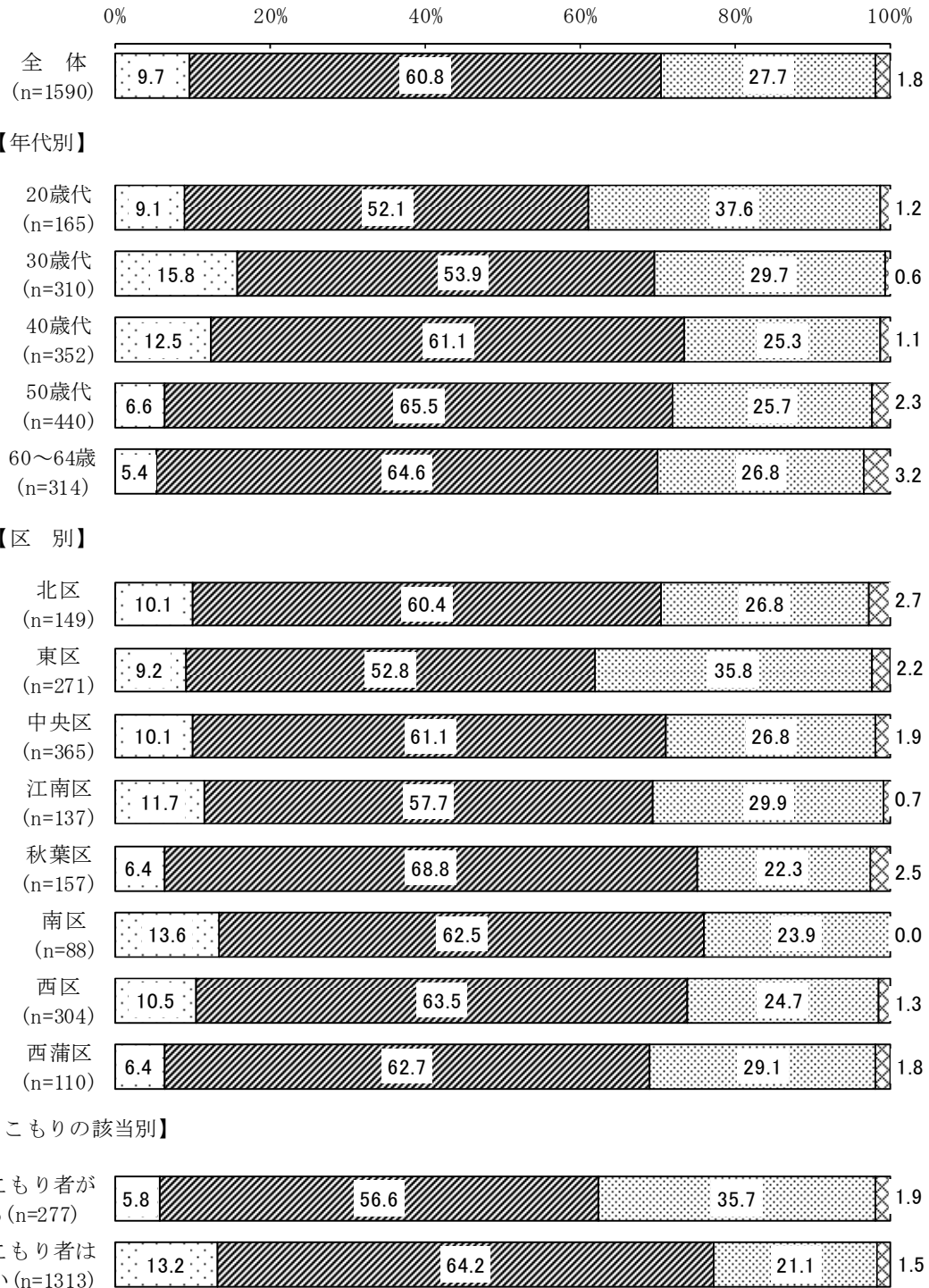
(1) 新潟市ひきこもり相談支援センター

□利用・相談したことがある □知っているが利用・相談したことはない □知らない □無回答



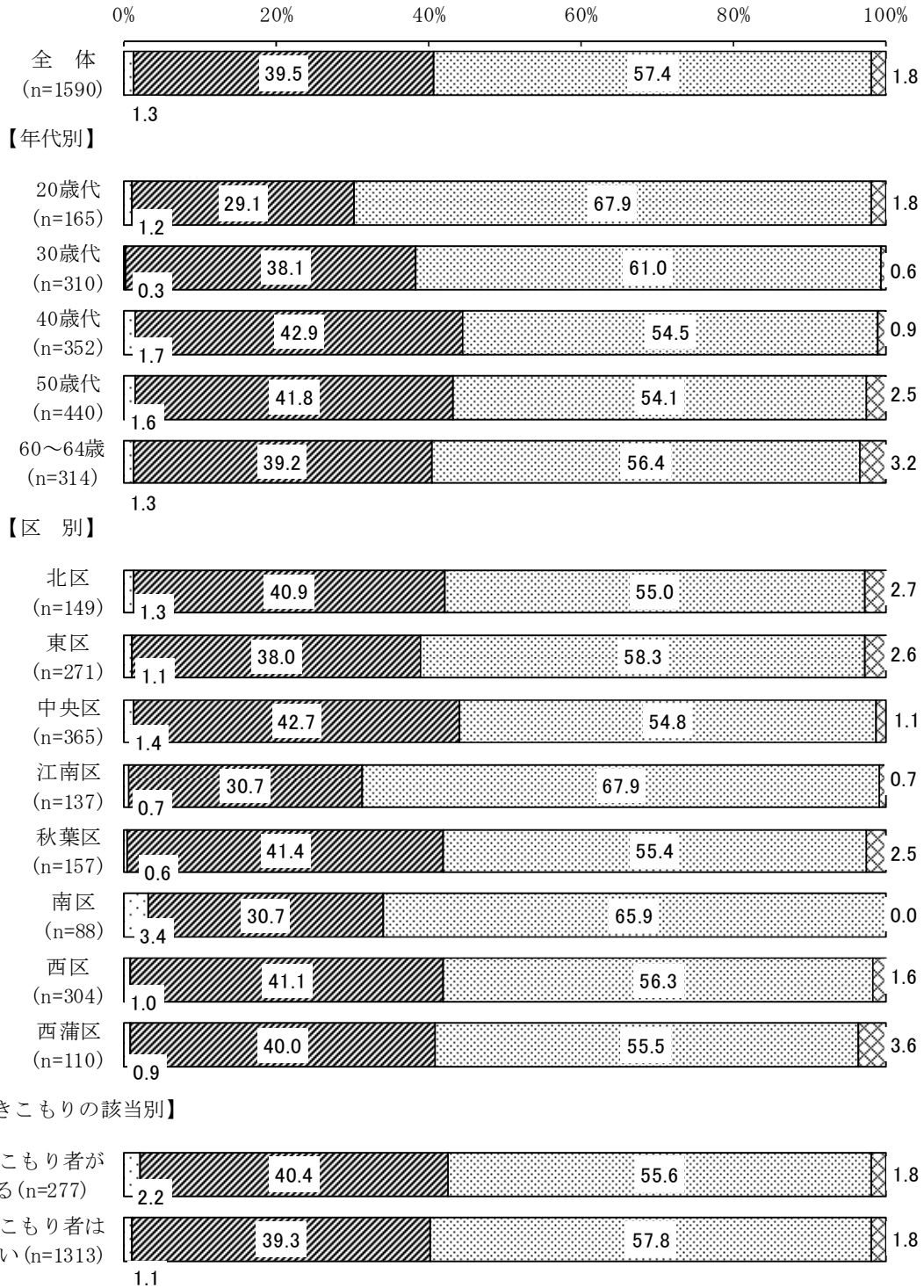
(2) 各区役所・地域保健福祉センター

□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答



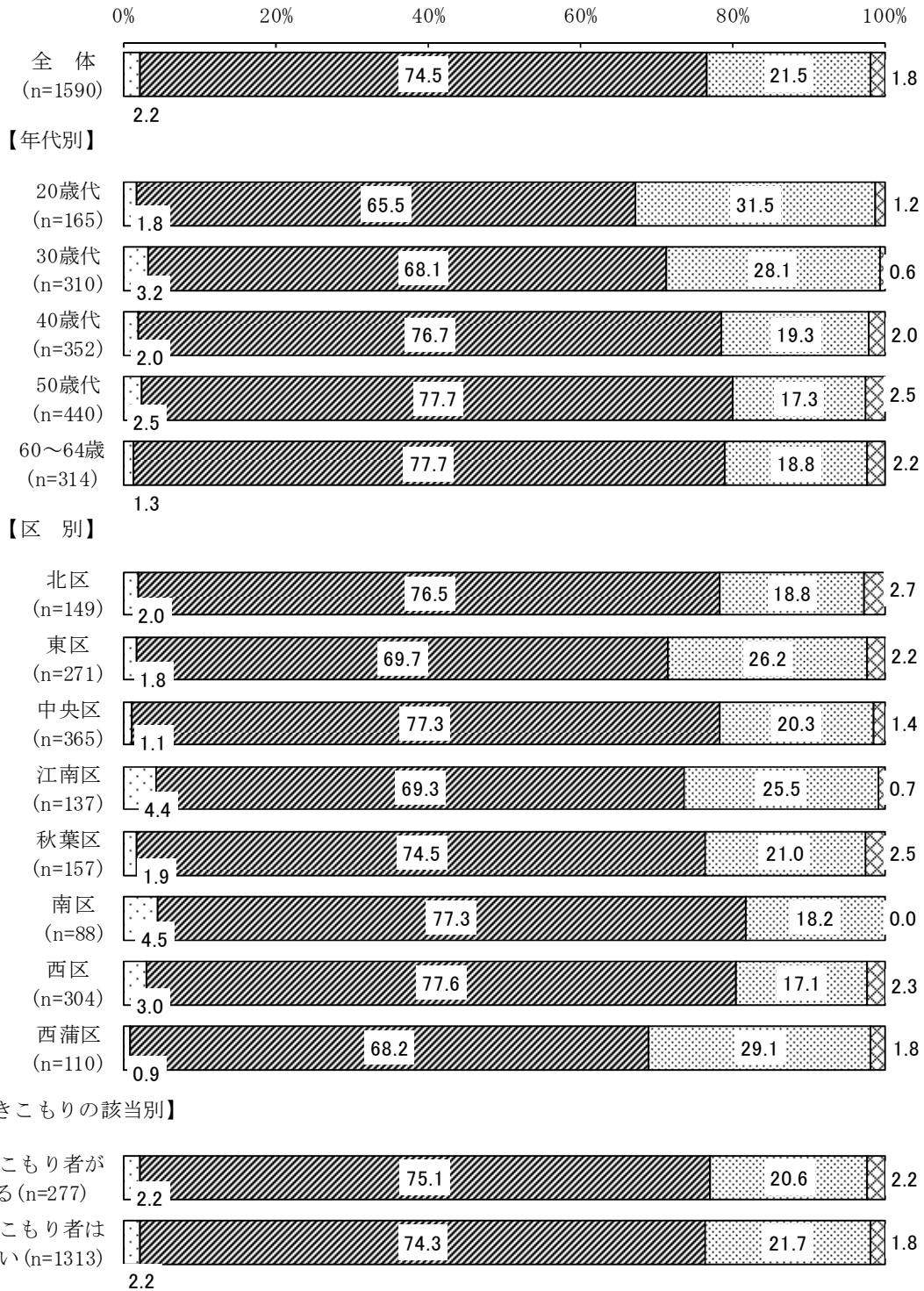
(3) 新潟市こころの健康センター

□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答



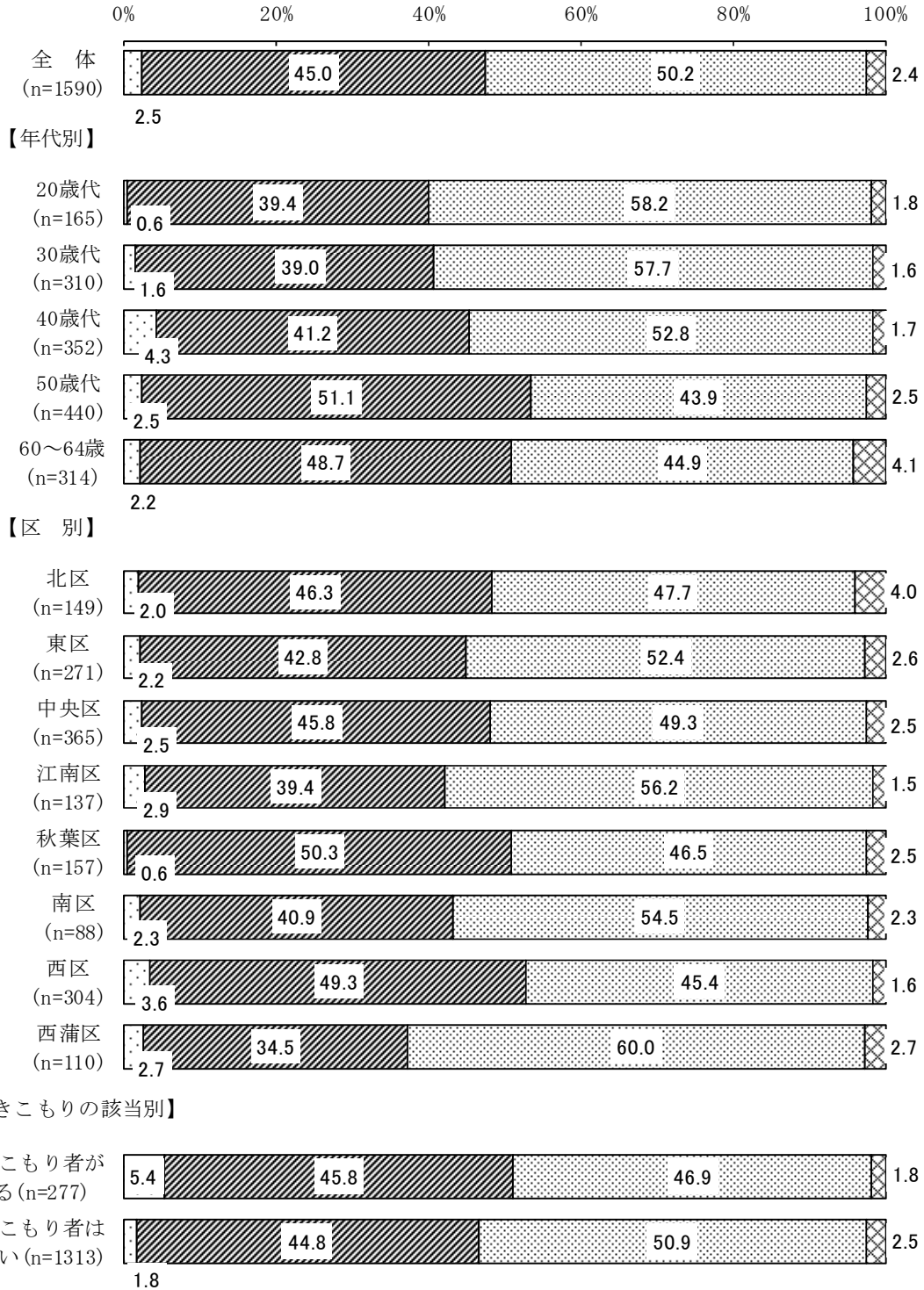
(4) 新潟市児童相談所

□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答



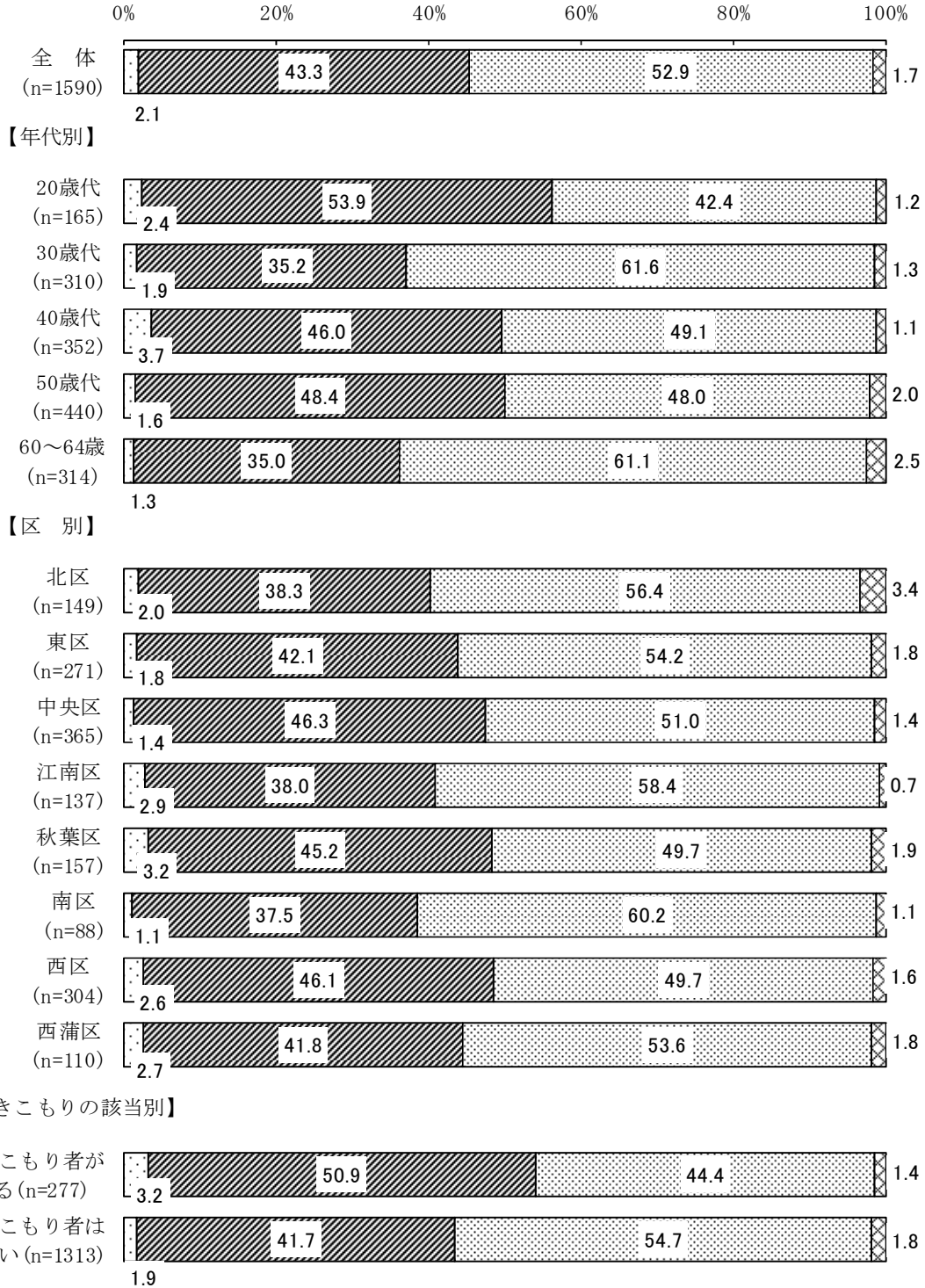
(5) 新潟市教育相談センター、教育相談室

□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答



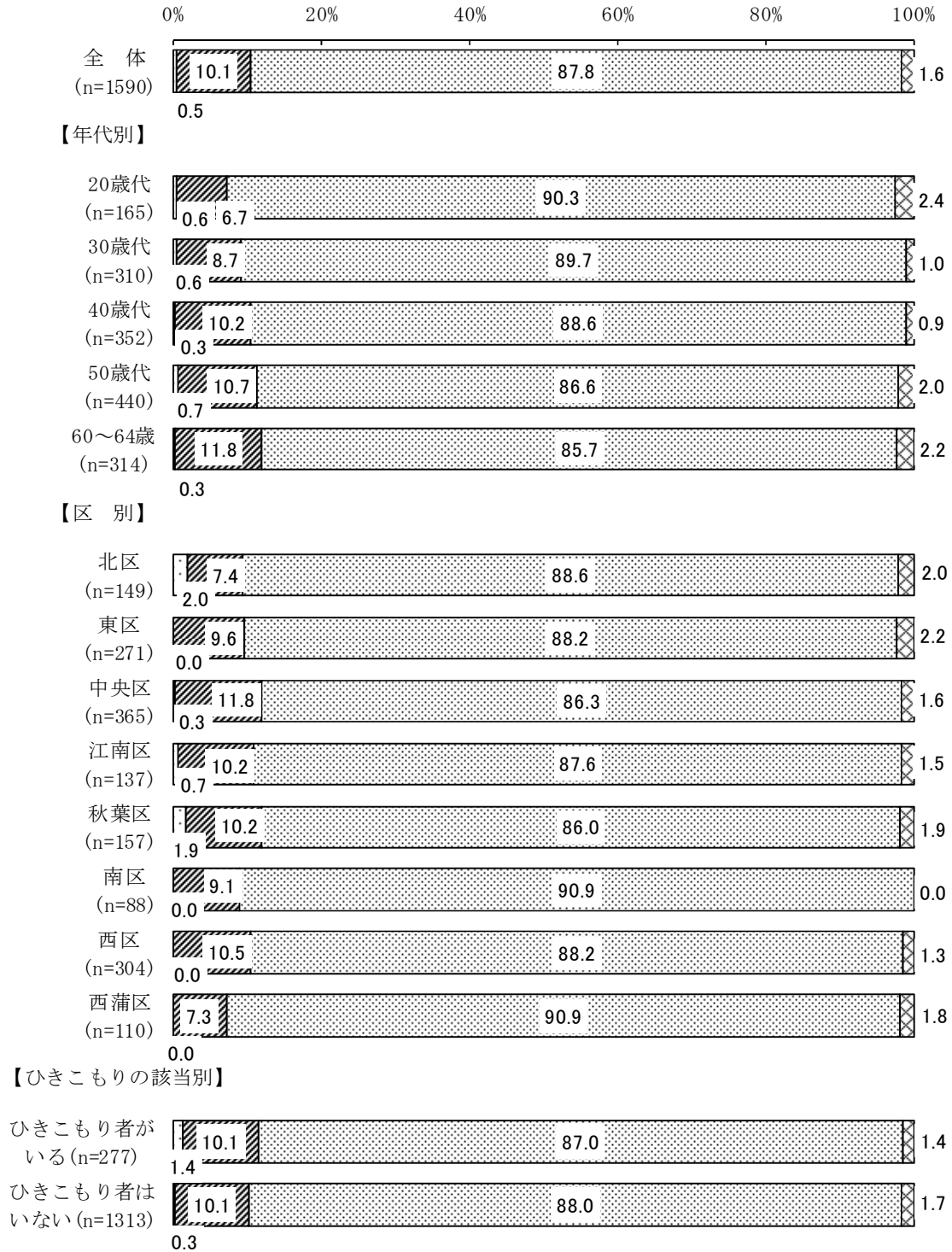
(6) 新潟市の中学校に配置しているスクールカウンセラー

□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答



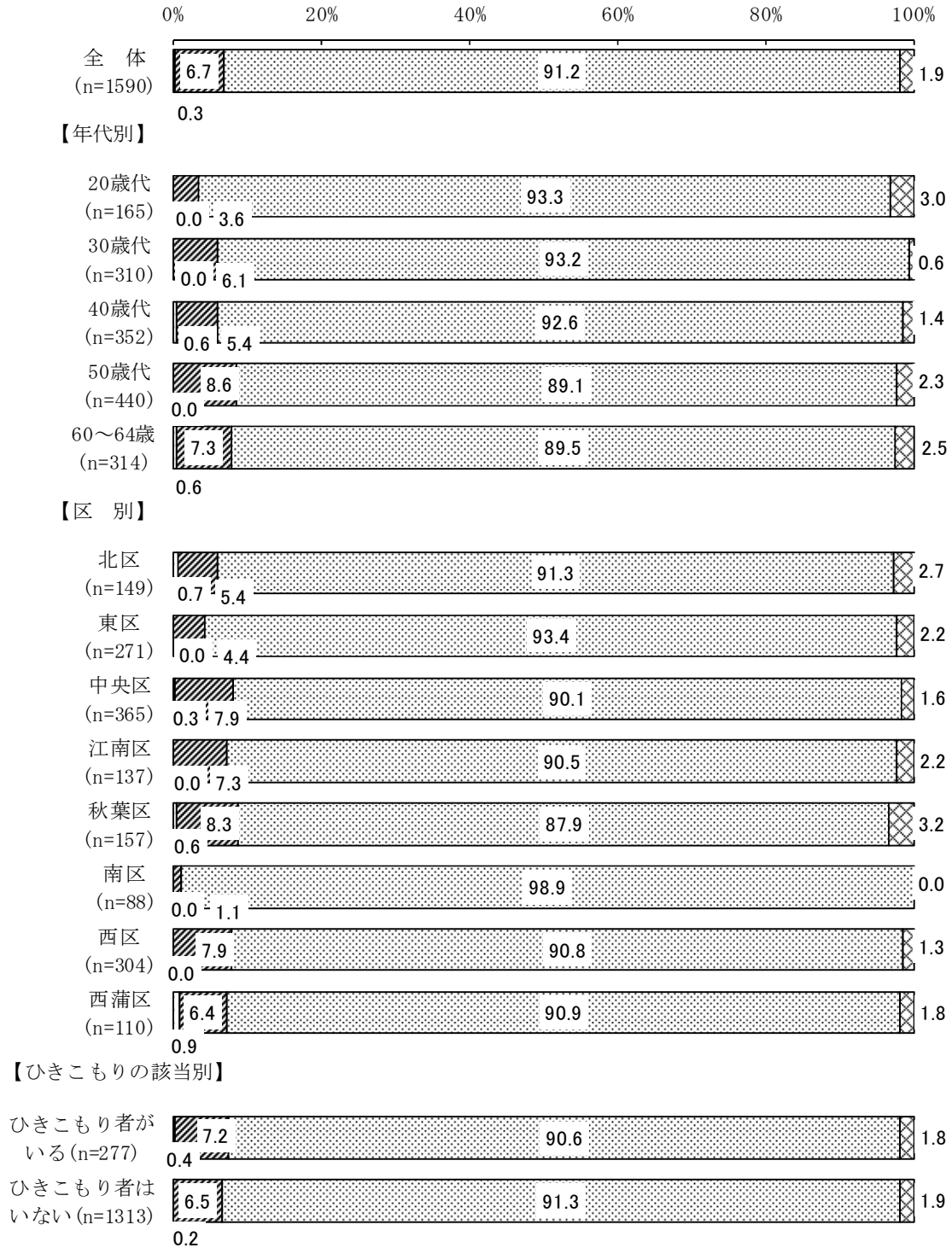
(7) 新潟市若者支援センター「オール」

□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答



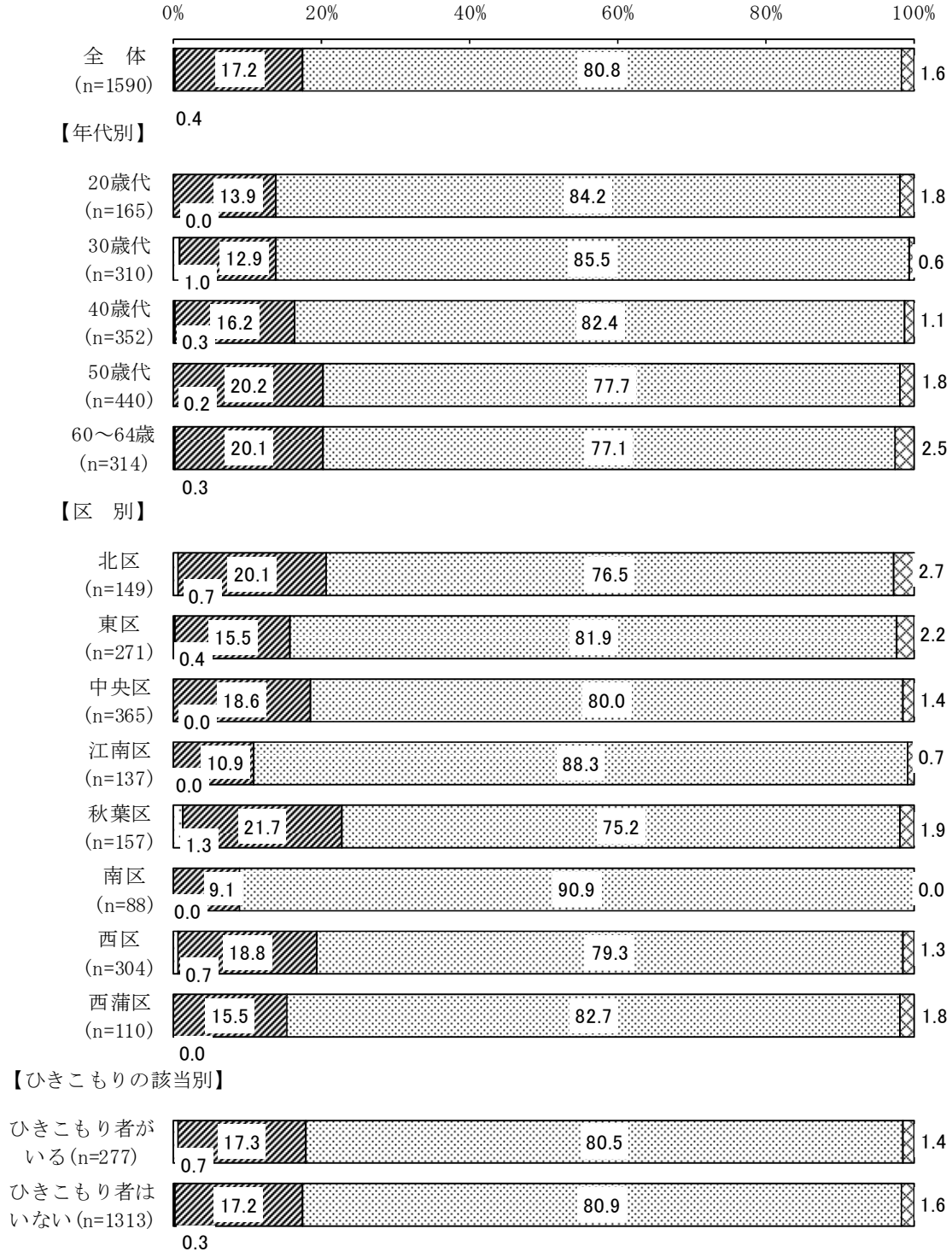
(8) 新潟市パーソナルサポートセンター

□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答



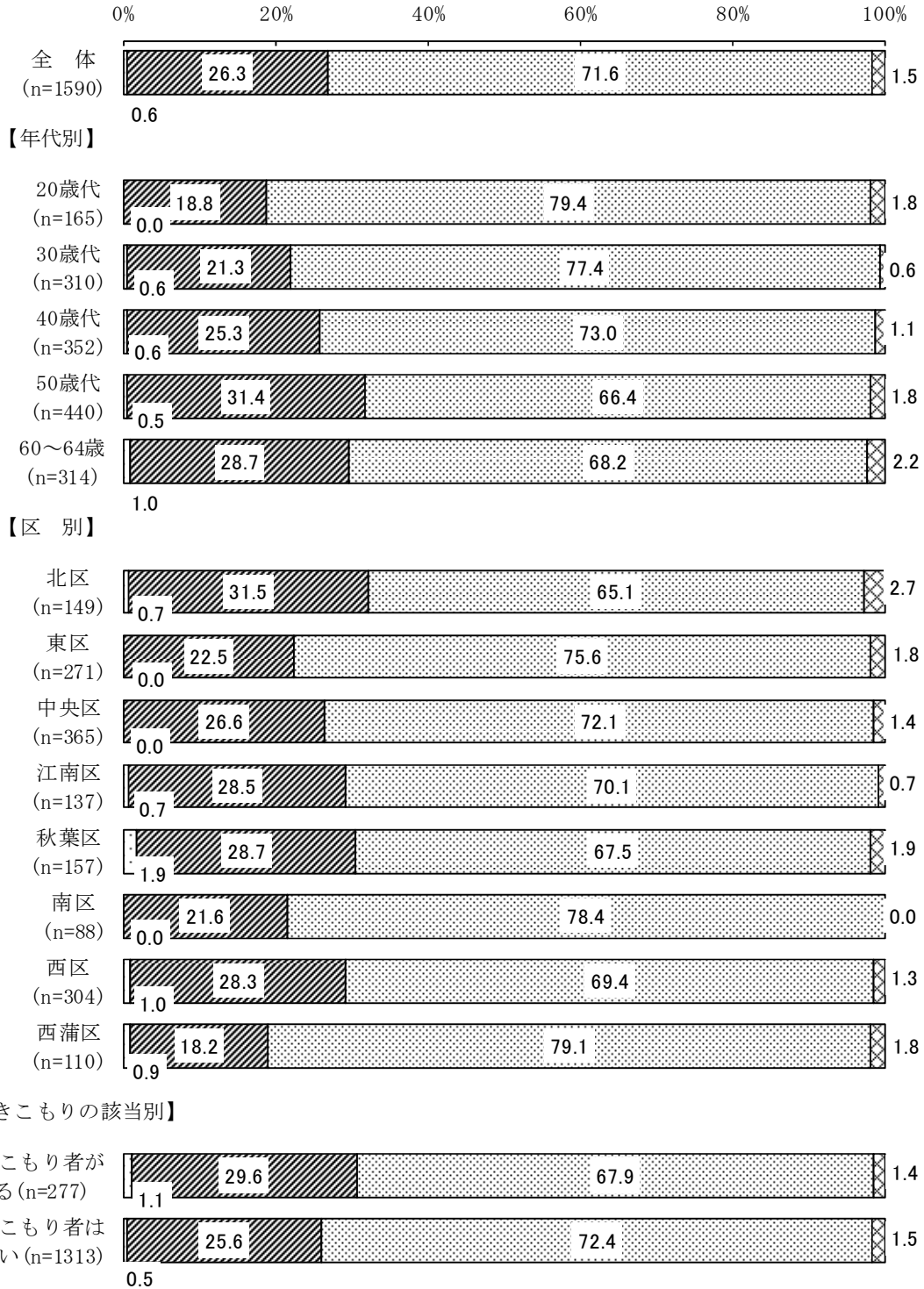
(9) 新潟市障がい者基幹型相談支援センター

□利用・相談したことがある □知っているが利用・相談したことはない □知らない □無回答



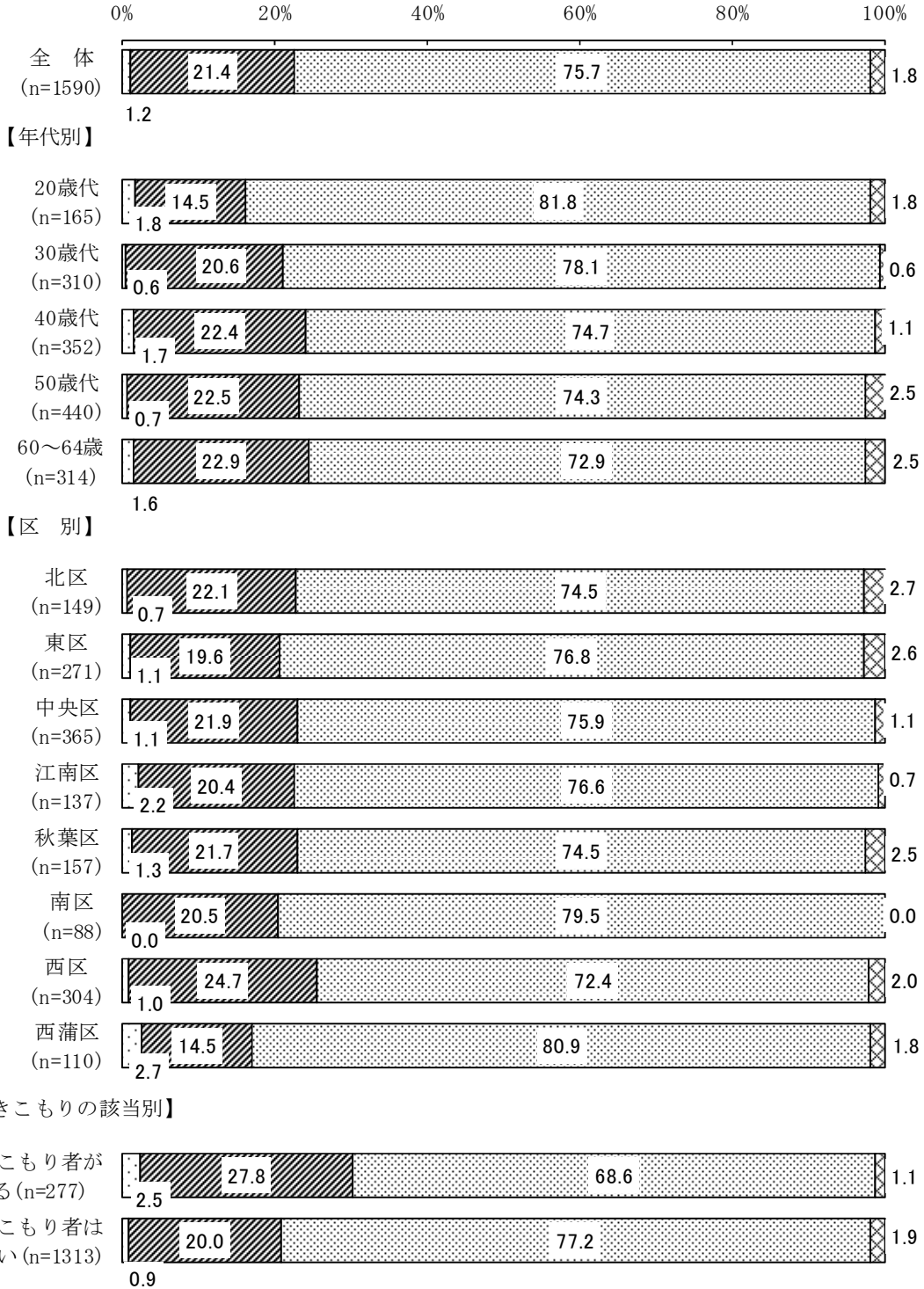
(10) 新潟市障がい者就業支援センター（こあサポート）

□利用・相談したことがある □知っているが利用・相談したことはない □知らない □無回答



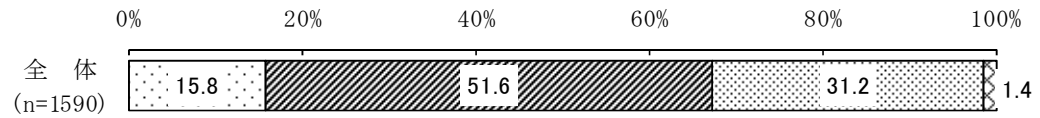
(11) 新潟市発達障がい者支援センター（JOIN）

□利用・相談したことがある □知っているが利用・相談したことはない □知らない □無回答

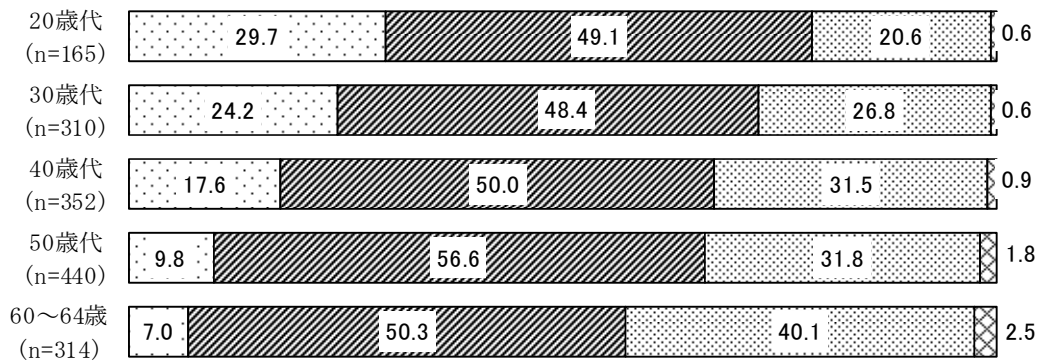


(12) ハローワーク新潟ときめき仕事館（若者しごと館・わかものハローワーク新潟）

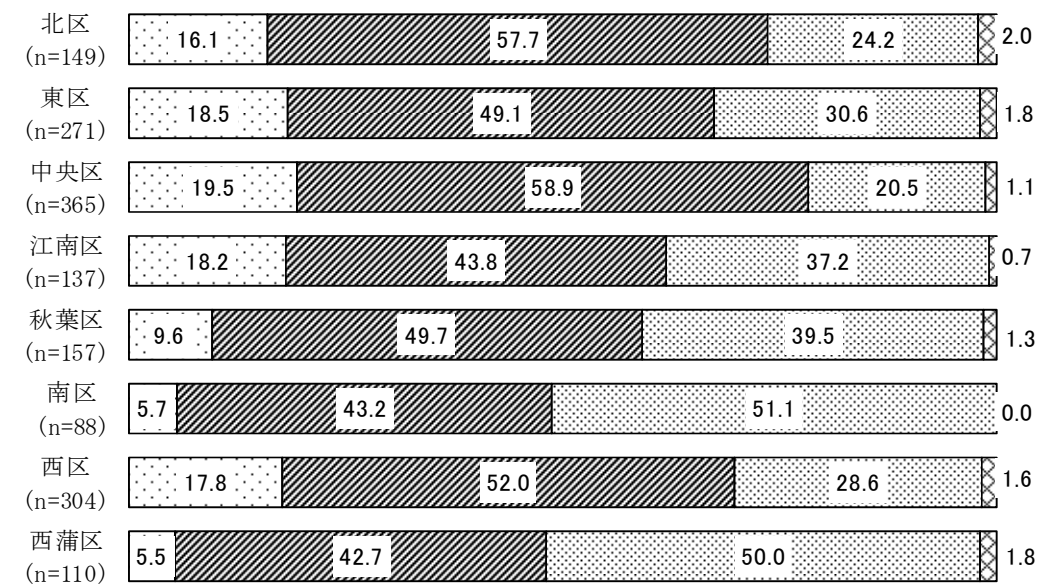
□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答



【年代別】



【区別】

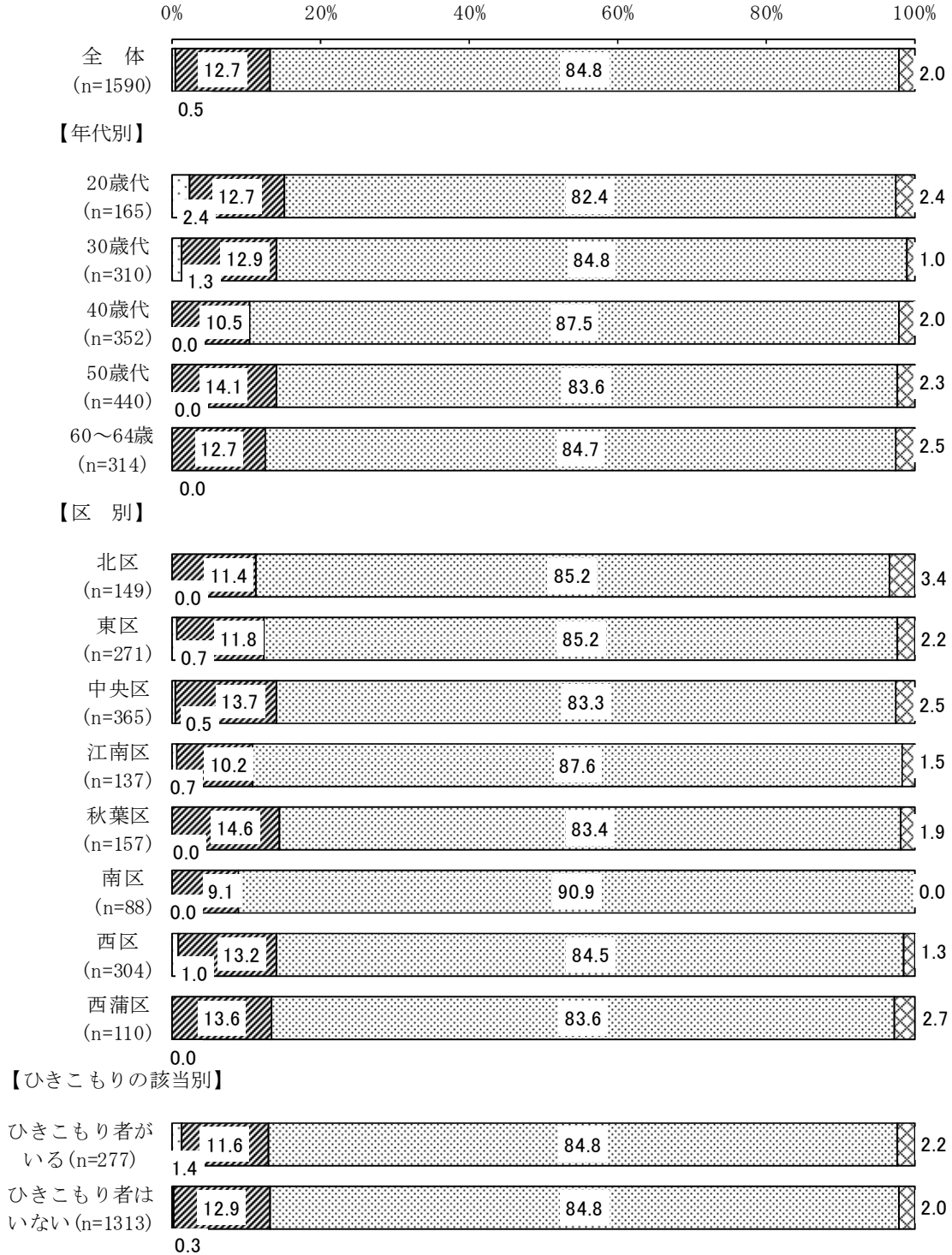


【ひきこもりの該当別】



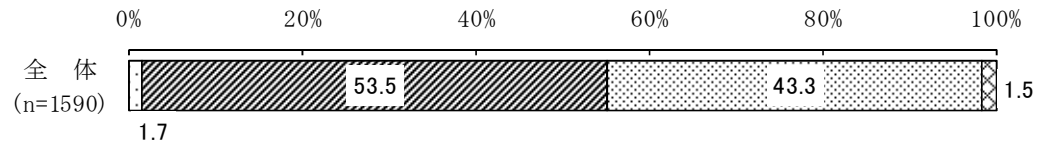
(13) 新潟地域若者サポートステーション

□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答

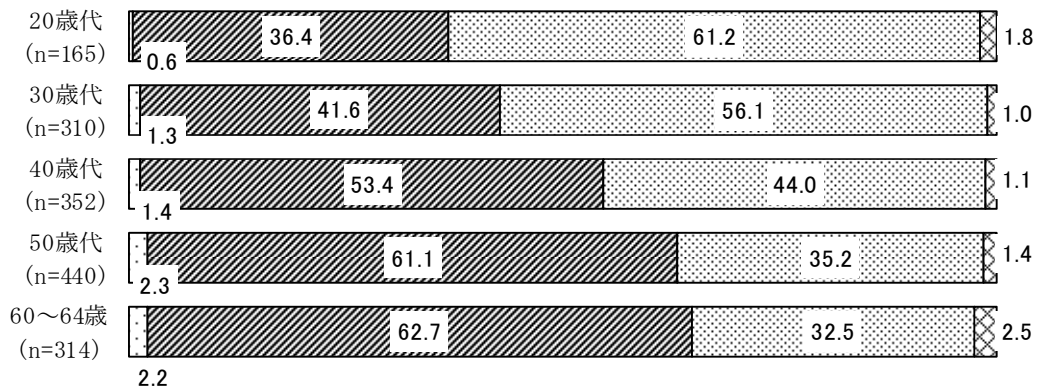


(14) 新潟市社会福祉協議会（新潟市障がい者生活支援センター、心配ごと相談所など）

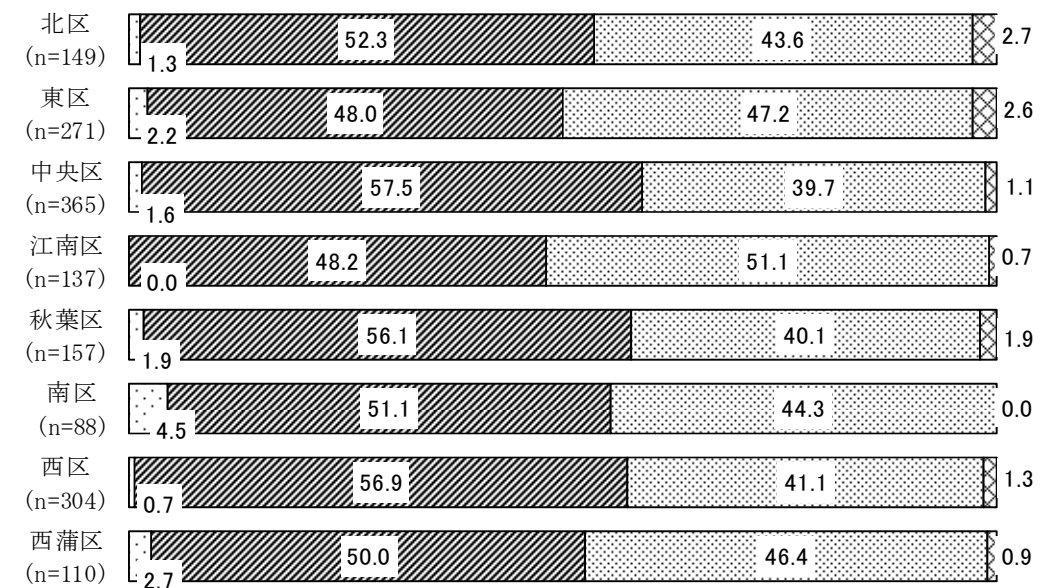
□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答



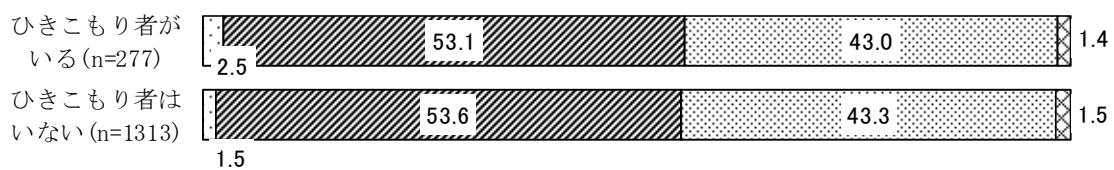
【年代別】



【区別】

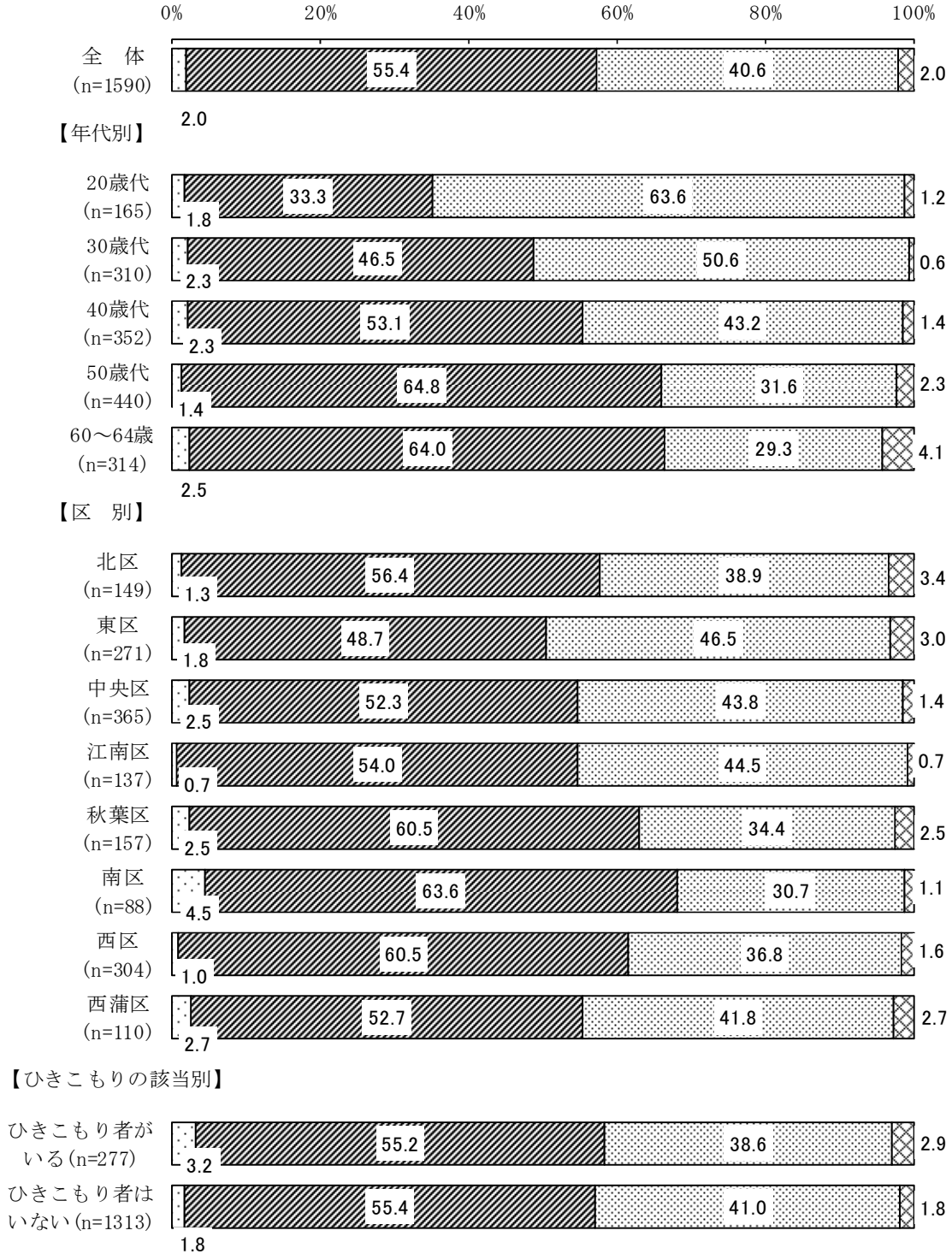


【ひきこもりの該当別】



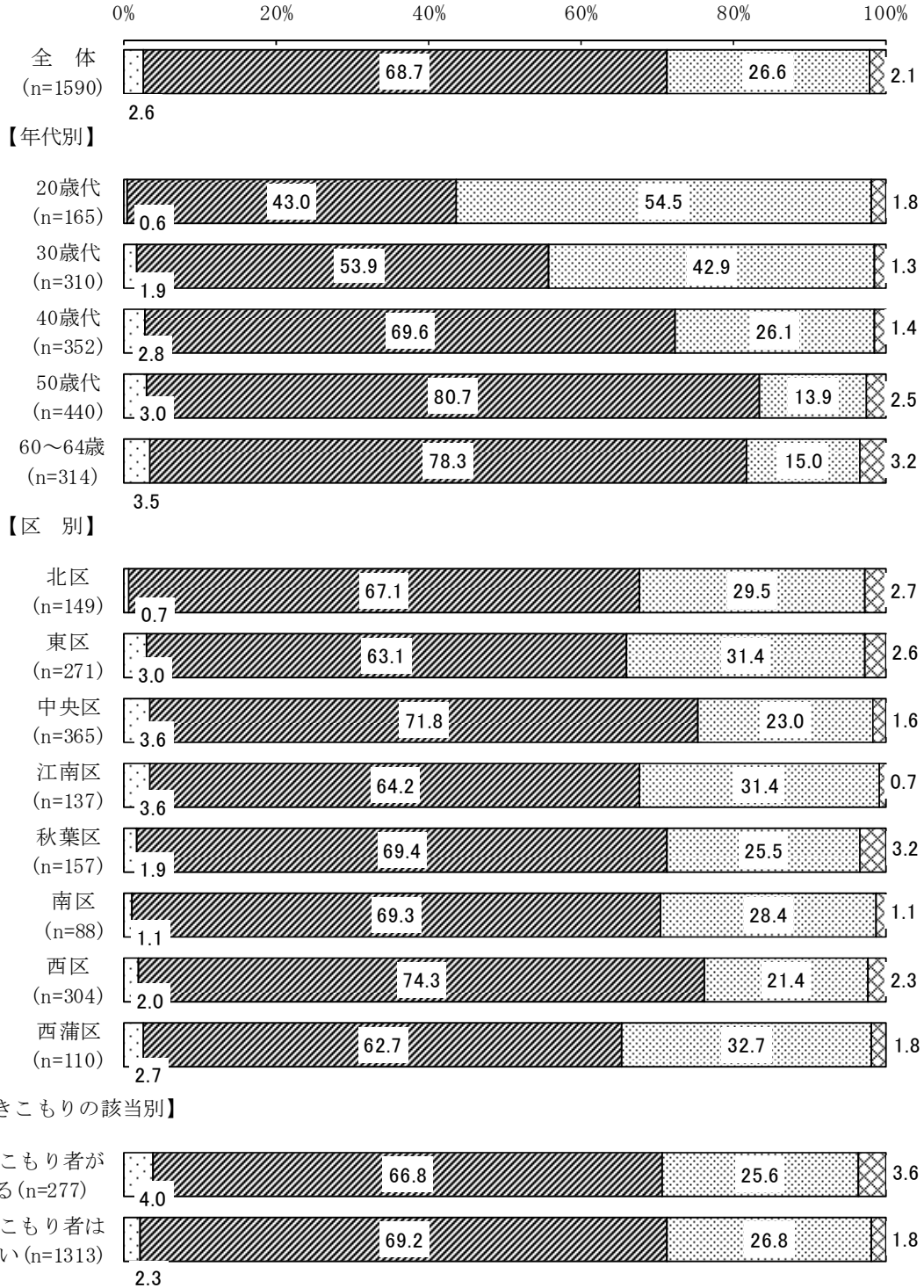
(15) 各区社会福祉協議会

□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答



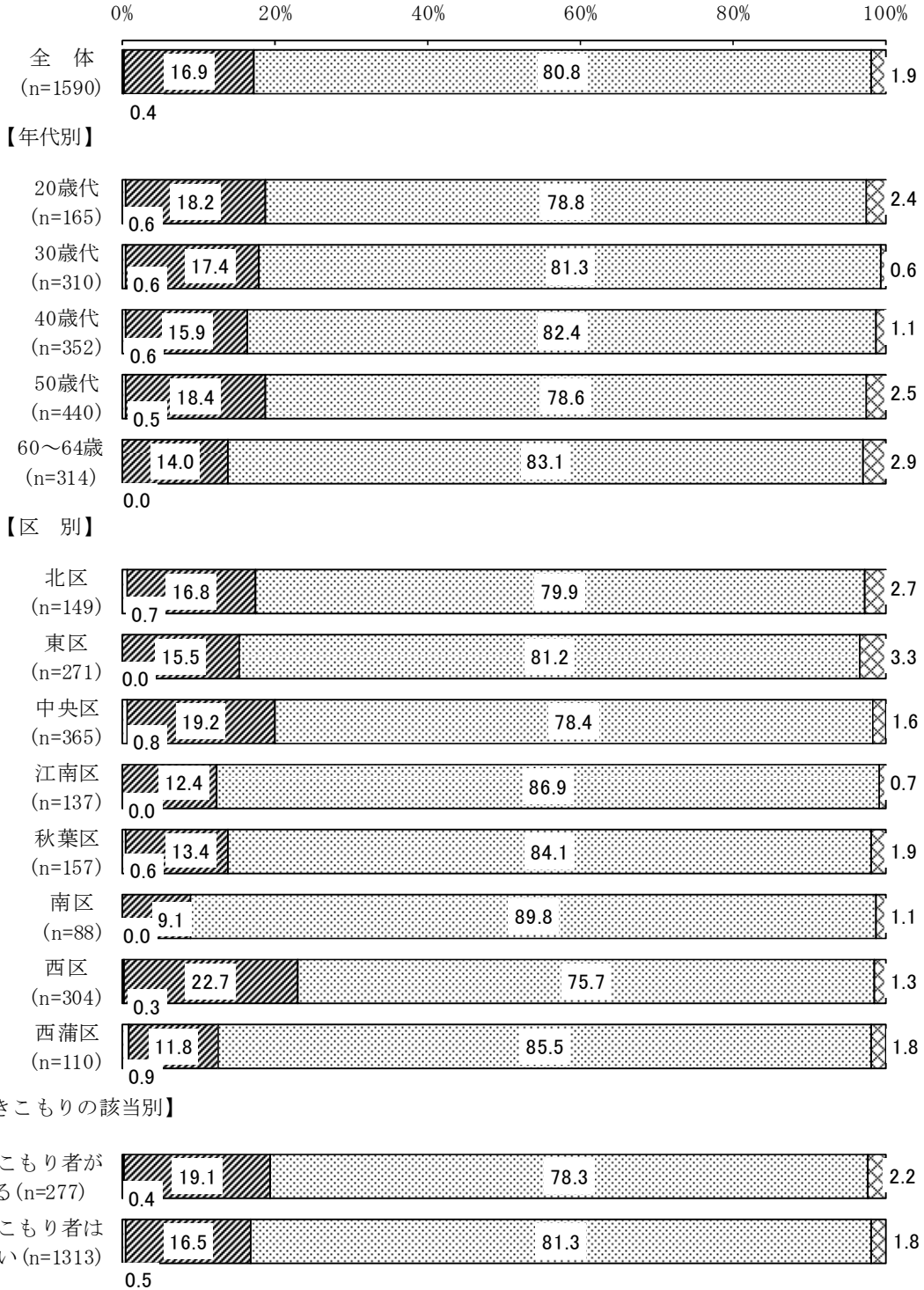
(16) 民生委員・児童委員

□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答



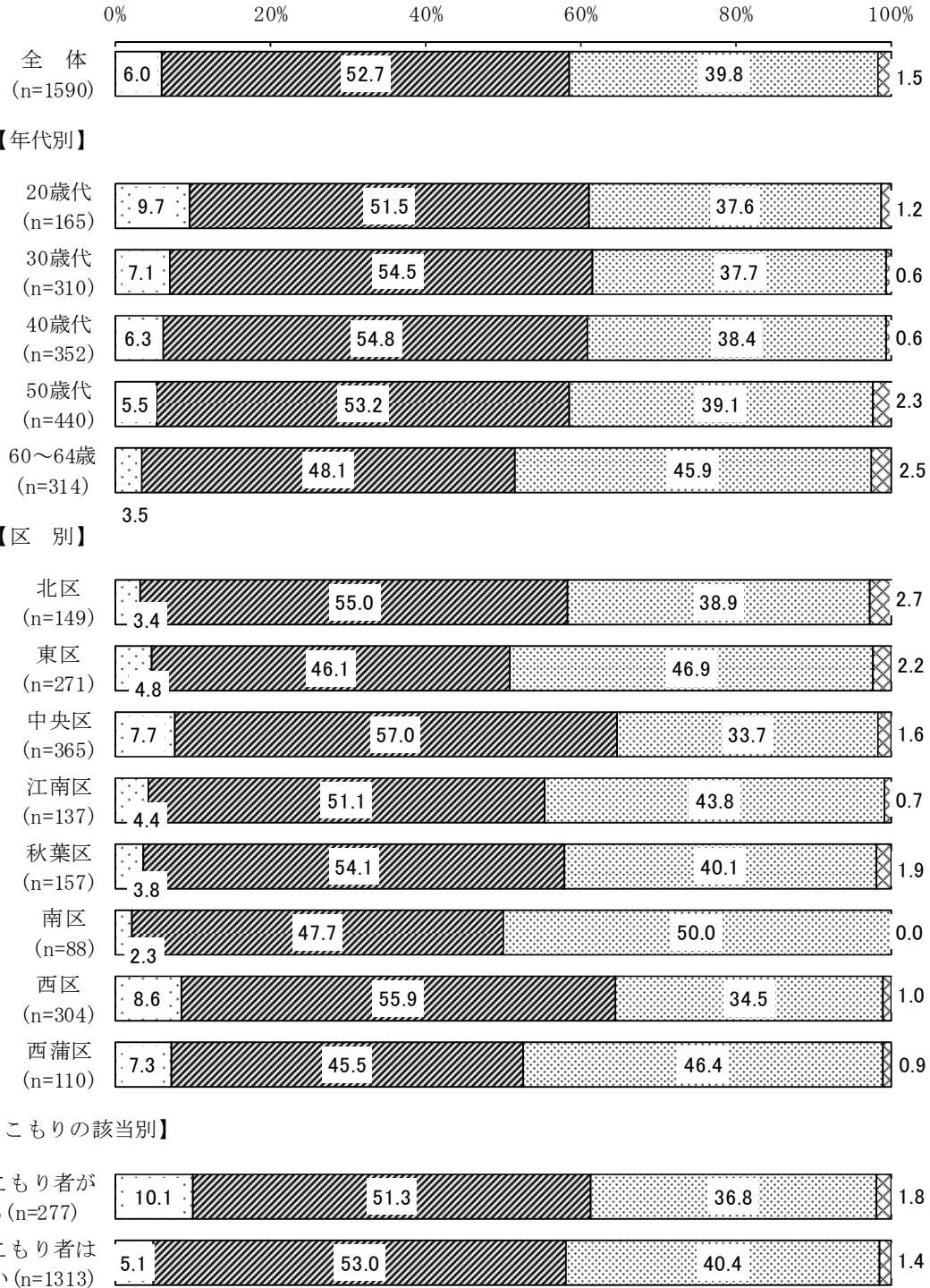
(17) NPO、民間のひきこもり支援団体やカウンセリングルームなど

□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答



(18) 医療機関（ひきこもり外来や病院、診療所、クリニックの精神科・心療内科等）

□利用・相談したことがある ■知っているが利用・相談したことはない □知らない ■無回答

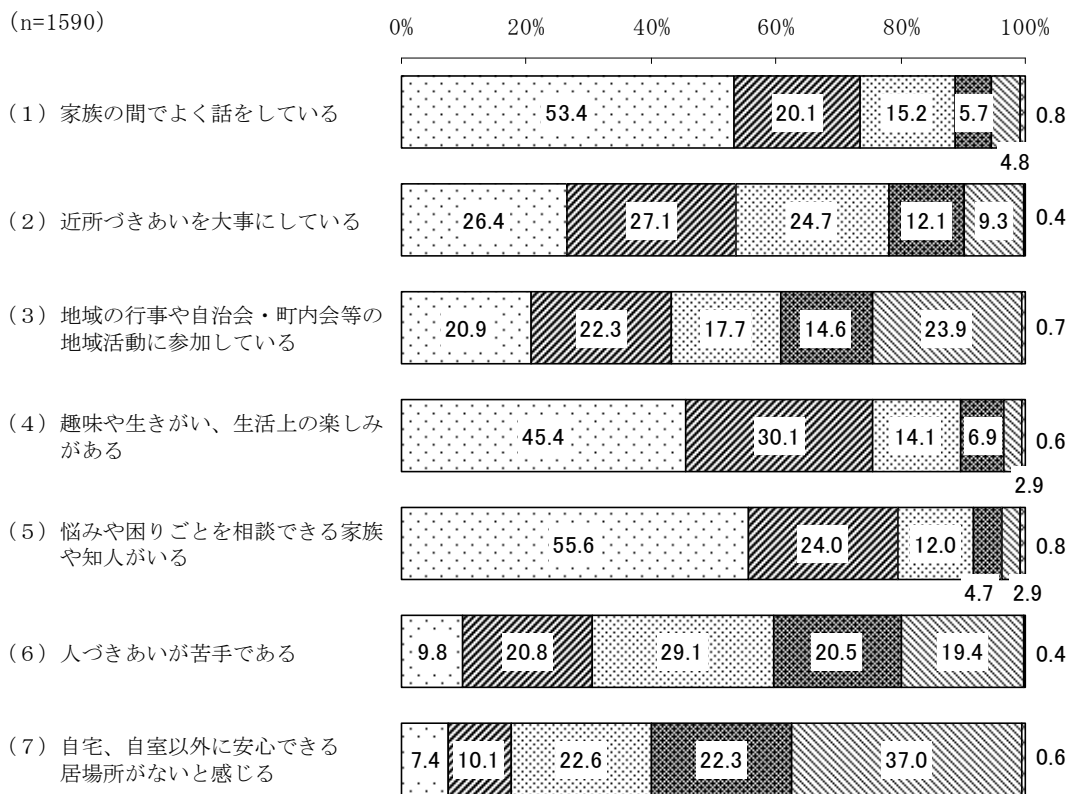


7. 回答者自身の日常生活について

問20 以下の(1)～(7)について、あなたご自身の状況に最も近いものに○をつけてください。

(○はそれぞれ1つ)

□あてはまる ▨少しあてはまる ▩どちらともいえない
 ■あまりあてはまらない ▧あてはまらない □無回答



【全体結果】

「あてはまる」の回答率が高いのは、悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる(55.6%)、家族の間でよく話をしている(53.4%)で、いずれも過半数を占めている。

【年代別結果】

家族の間でよく話をしているは50歳代、60～64歳で「あてはまる」の回答率が低い。

近所づきあいを大事にしている、地域の行事や自治会・町内会等の地域活動に参加しているは年代が高まるにつれて「あてはまる」の比率が高くなっている。

人づきあいが苦手であるは若年層ほど「あてはまる」の回答率が高い。

【区別結果】

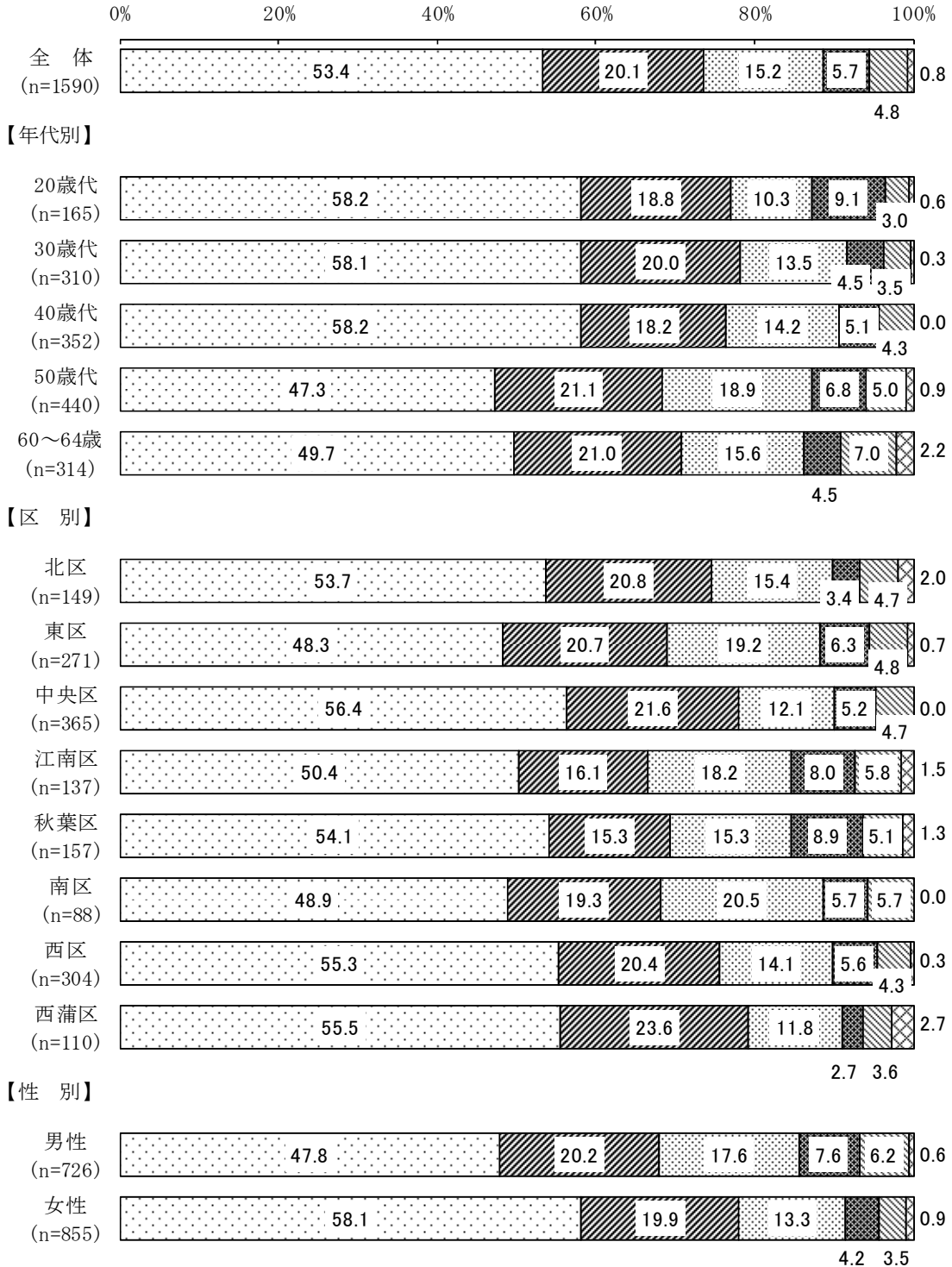
近所づきあいを大事にしている、地域の行事や自治会・町内会等の地域活動に参加しているは、中央区、東区において「あてはまる」の回答率が低い。

【性別結果】

家族の間でよく話をしている、近所づきあいを大事にしている、悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいるは、「あてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合が男性に比べて女性のほうが高い。

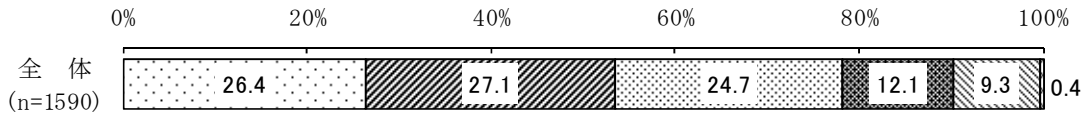
(1) 家族の間でよく話をしている

□あてはまる ▣少しあてはまる □どちらともいえない
 ■あまりあてはまらない ▤あてはまらない □無回答

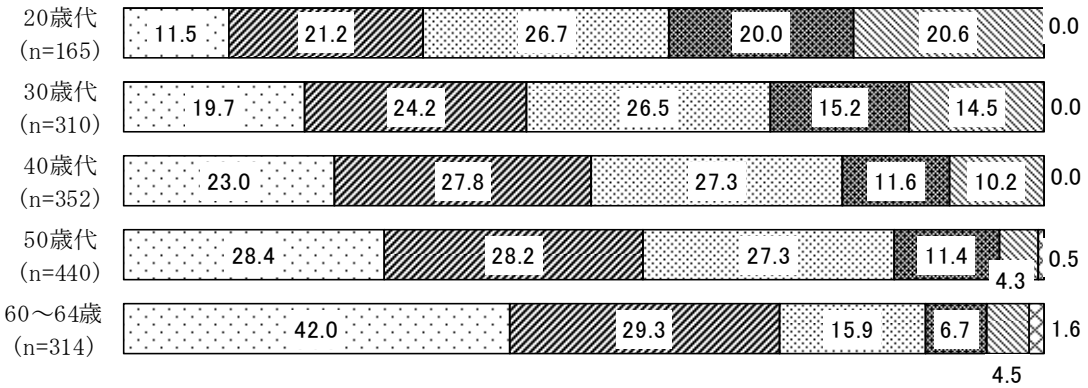


(2) 近所づきあいを大事にしている

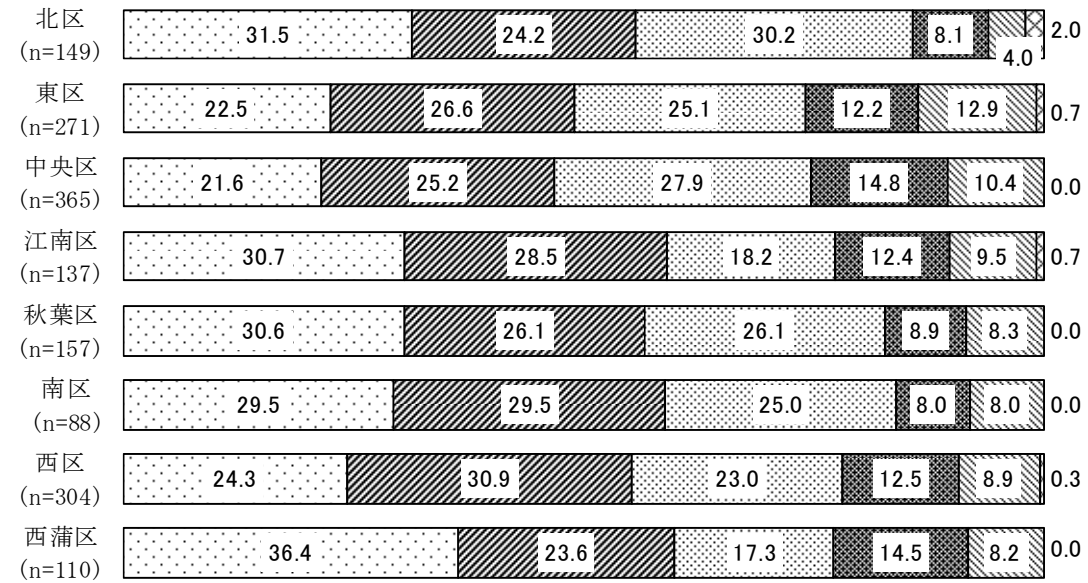
あてはまる 少しあてはまる どちらともいえない
あまりあてはまらない あてはまらない 無回答



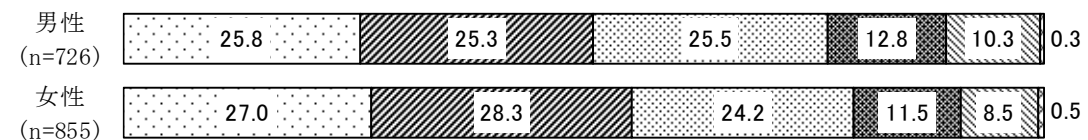
【年代別】



【区別】



【性別】

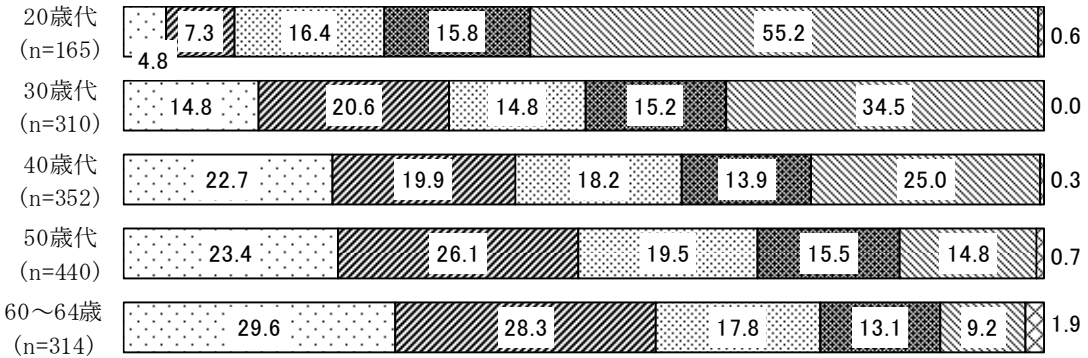


(3) 地域の行事や自治会・町内会等の地域活動に参加している

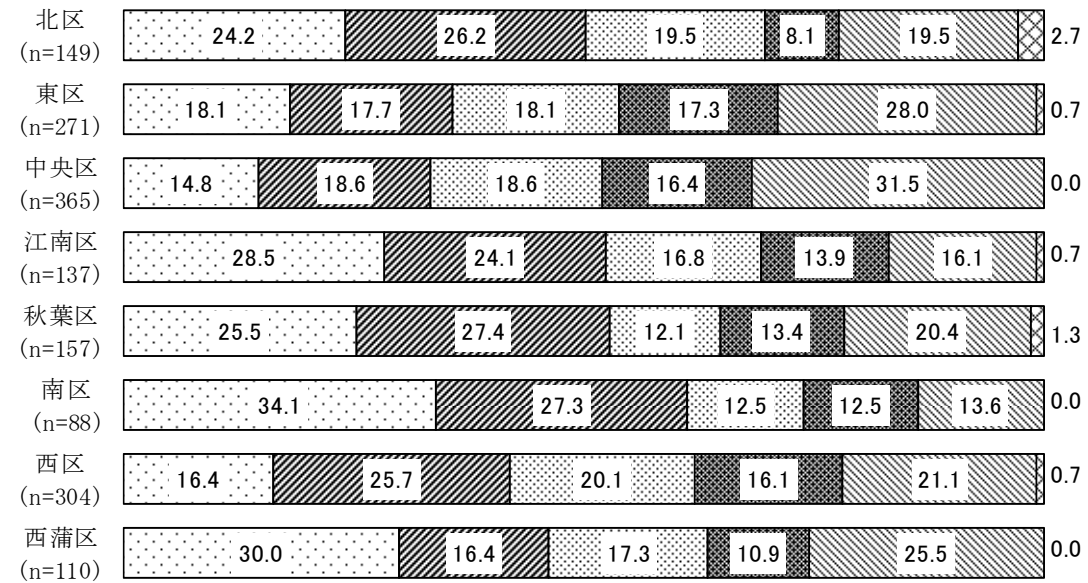
□あてはまる ■少しあてはまる □どちらともいえない
 ■あまりあてはまらない ■あてはまらない □無回答



【年代別】



【区別】

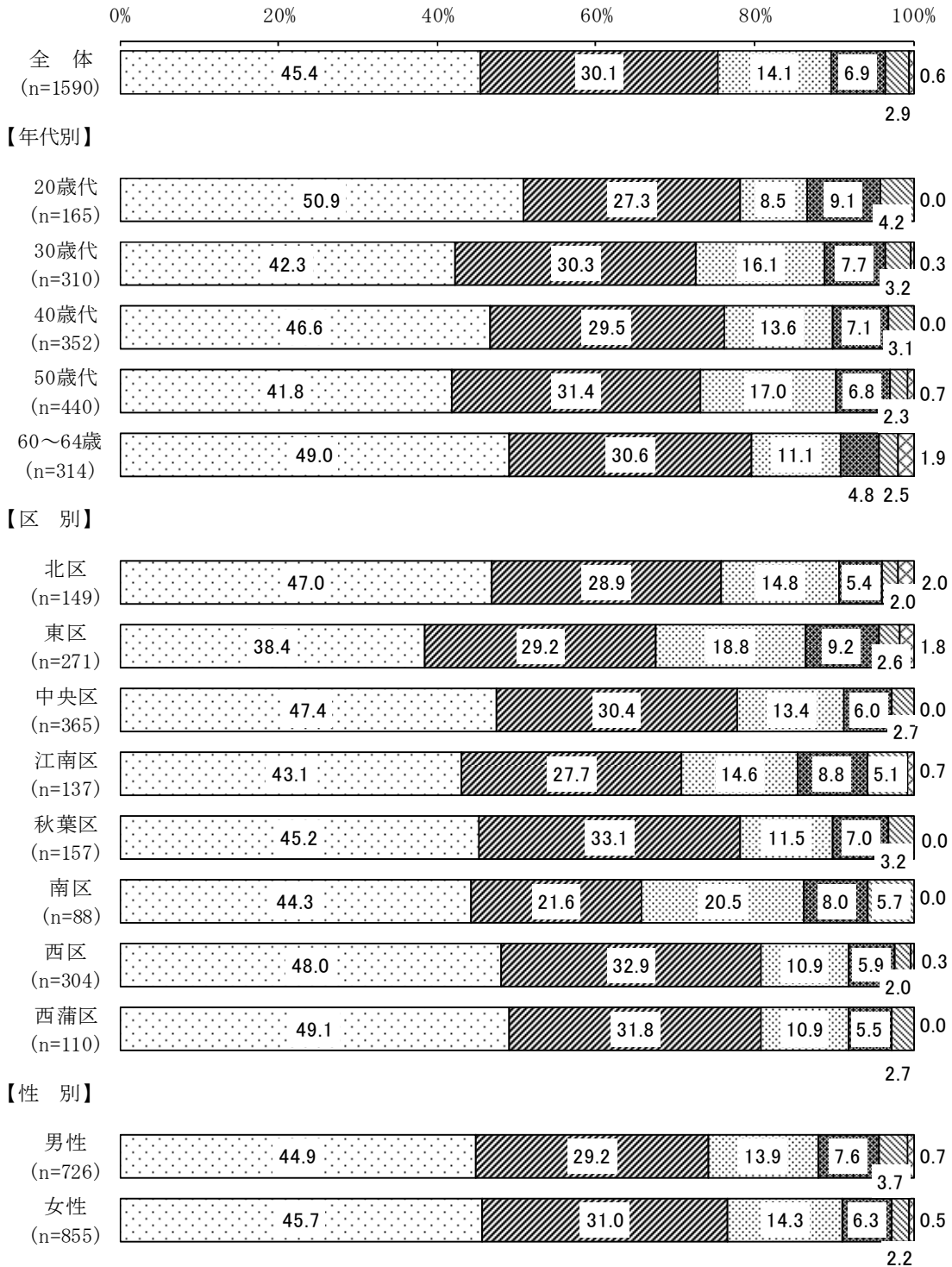


【性別】



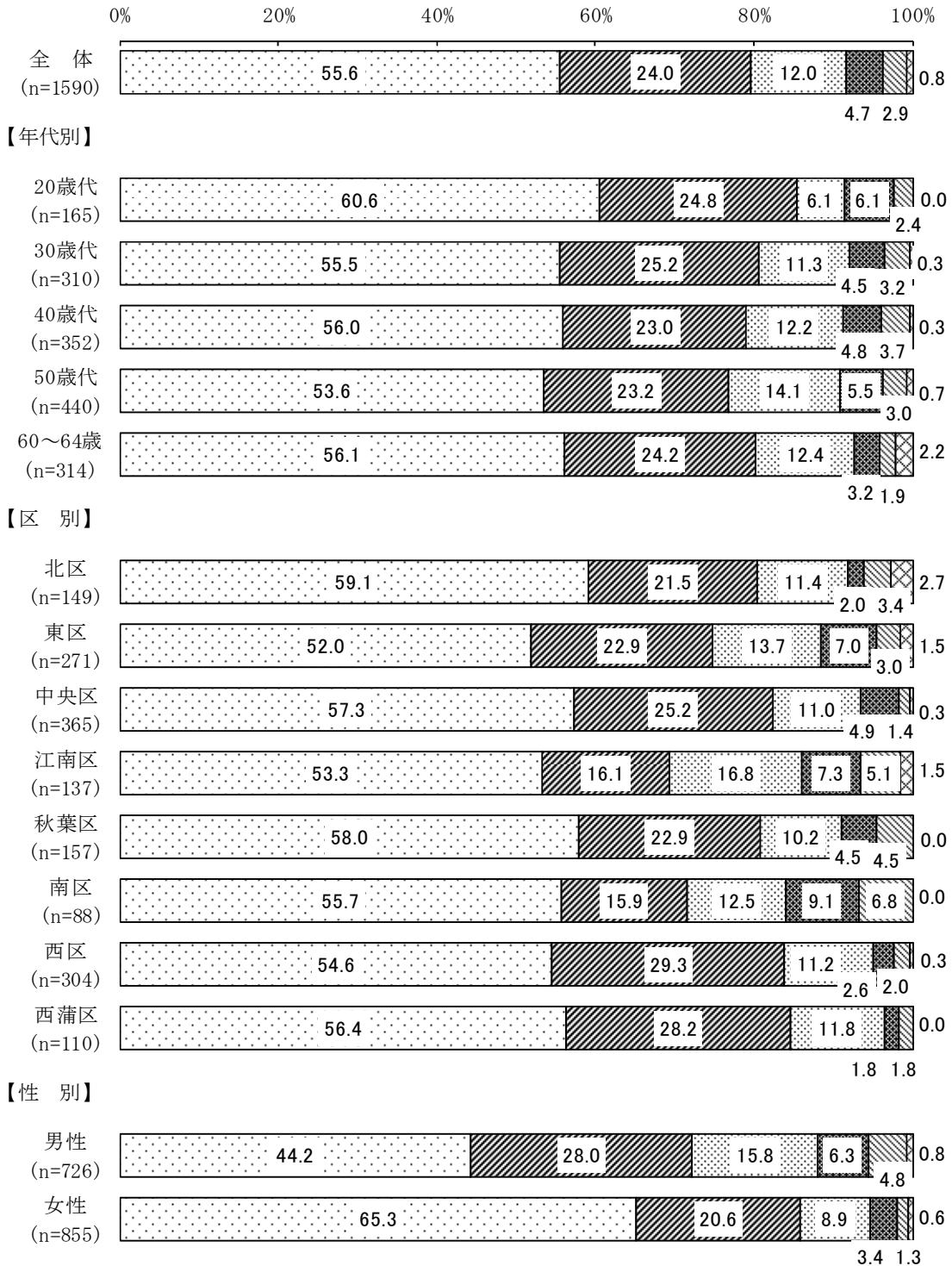
(4) 趣味や生きがい、生活上の楽しみがある

□あてはまる ▨少しあてはまる □どちらともいえない
 ■あまりあてはまらない ▩あてはまらない □無回答



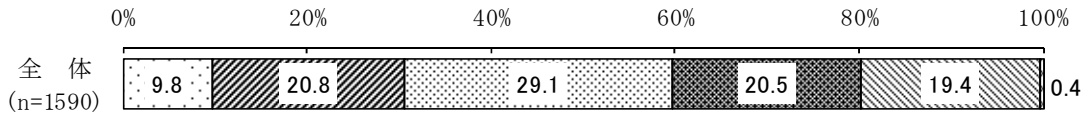
(5) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる

□あてはまる ▣少しあてはまる □どちらともいえない
 ■あまりあてはまらない ▤あてはまらない □無回答

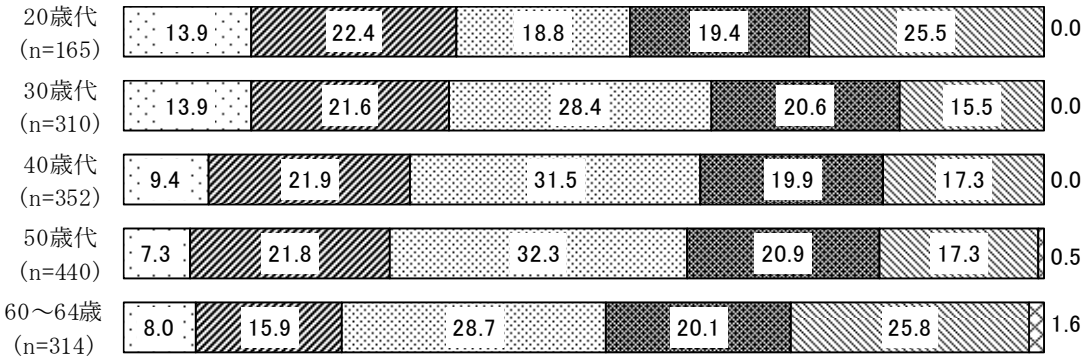


(6) 人づきあいが苦手である

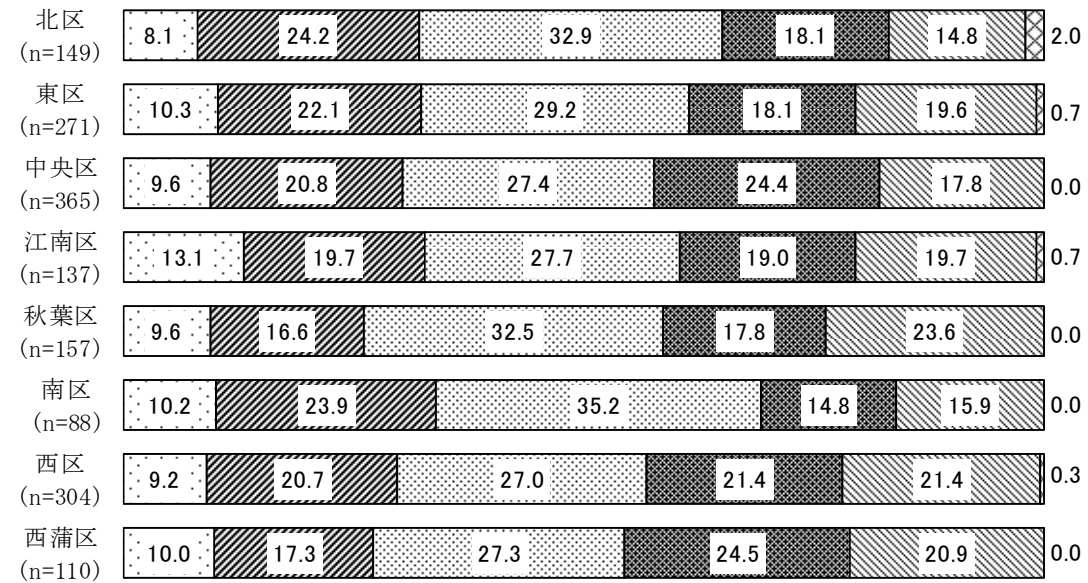
□あてはまる ▣少しあてはまる □どちらともいえない
 ■あまりあてはまらない ▣あてはまらない □無回答



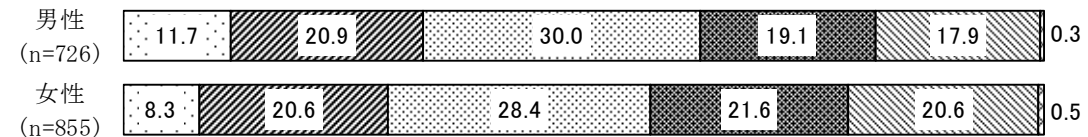
【年代別】



【区別】

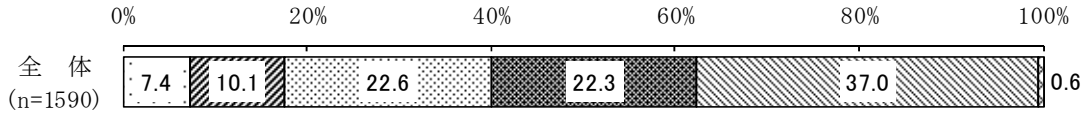


【性別】

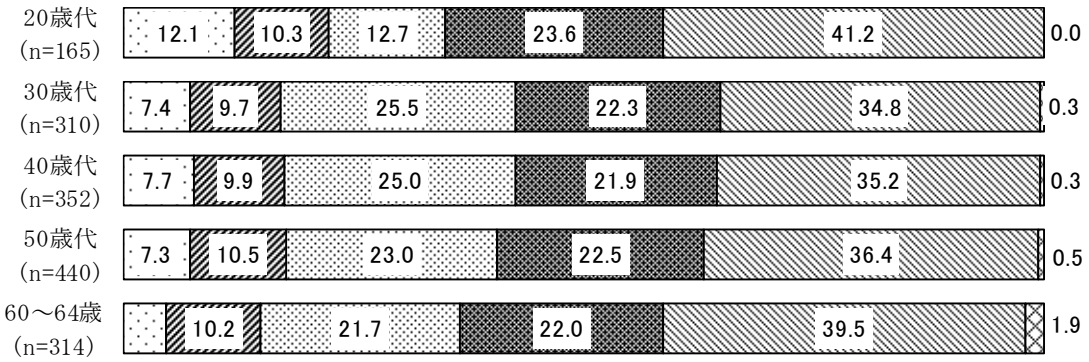


(7) 自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる

□あてはまる ▣少しあてはまる □どちらともいえない
 ■あまりあてはまらない ▢あてはまらない □無回答

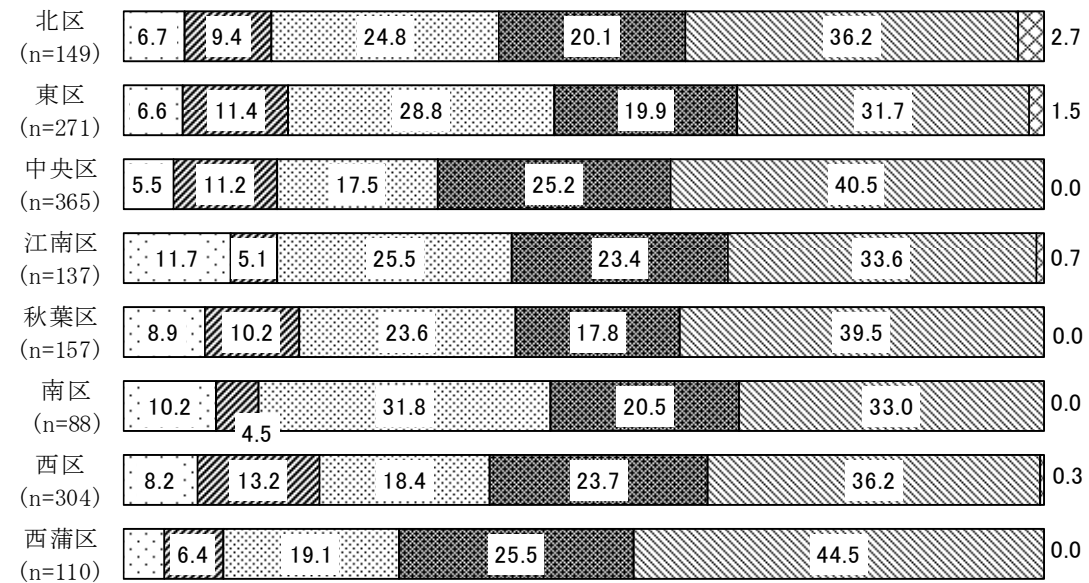


【年代別】



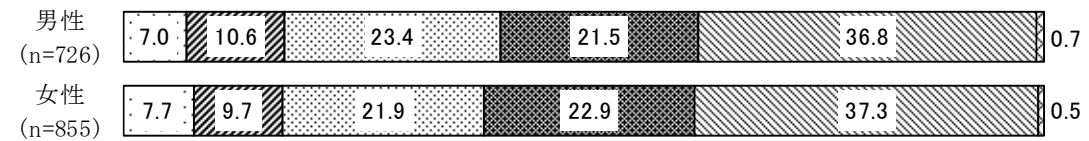
4.8

【区別】



4.5

【性別】



8. 自由記載

問21 ひきこもりに関する課題や新潟市の取り組みについて、ご意見やご要望がありましたら自由にお書きください。

自由記載欄は、「特になし」という記載を除き 329 人から様々な意見が寄せられた。重複する内容についてもそれぞれ集計しているため、下記の件数の合計と記載者数は異なる。

中には、「実際に心配な人がいる、本人や家族は困っている」という内容が 19 件、「自分や家族もひきこもりの経験がある」という内容が 13 件あった。また、「周囲にひきこもりの人がいないのでわからない」は 16 件あった。

ひきこもりの原因について、「親子関係や家庭環境の影響ではないか」という意見が 21 件、「甘やかしている、経済的な支援があるからひきこもりになる」という意見が 17 件、「うつや精神疾患」「景気が悪い、パワハラ・ブラック企業・いじめなどの就労環境」とする意見がともに 6 件あった。

相談先について多かった意見は下記のとおりである。

- ・相談先があることを知らなかった 32 件
- ・相談先を周知してほしい 34 件
- ・どこに相談したらよいかわからない、相談窓口を集約すべき 21 件
- ・気軽に話せる相談先があるとよい 18 件
- ・ひきこもりの人は相談できない、相談できない人への対策を考えてほしい 11 件

新潟市のひきこもり施策について多かった意見は下記のとおりである。

- ・市のひきこもりの取組みを知らなかった、相談事例や成功事例を発信してほしい 30 件
- ・市が積極的に取り組んでほしい 28 件
- ・話し相手や、居場所などが必要 15 件
- ・就労先のあっせんや就労体験、活躍できる場を作ることが必要 12 件
- ・学校や教育委員会との情報交換、連携が必要 11 件
- ・地域のコミュニティ、つながりが必要 9 件

(付)調査票様式

「新潟市若年者等の自立に関するアンケート調査」ご協力をお願い

近年、若年者の自立の問題が深刻な社会問題として取り上げられるようになってきました。社会的・身体的に様々な問題を抱え、ひきこもり（※1）やニート（※2）になる若年者が全国的に増加・高齢化していると言われていています。内閣府の平成 22 年 7 月「若者の意識に関する調査」の推計によると、全国でひきこもり状態にある者が 69.6 万人とされています。

新潟市では、平成 23 年に新潟市ひきこもり相談支援センターを開設し、ひきこもっている方の回復と社会参加を目指して相談に対応していますが、現状を把握し今後の市政運営などの基礎資料とするため、皆様のご意見をお伺いするアンケートを実施することといたしました。

新潟市にお住まいの満 20 歳以上 65 歳未満の方から、無作為に 3,000 人の方をお選びし、このたびあなた様に回答をお願いすることになりました。お伺いした内容は、プライバシーに配慮し、コンピュータで統計的に処理しますので、回答者のお名前、ご住所などが公表されることは絶対にございませぬ。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、この調査票にご記入の上、返信用封筒で **平成 27 年 2 月 10 日 (火) まで** にご投函いただきますよう、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

平成 27 年 1 月

新潟市長 篠田 昭

- ※1 厚生労働省「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」では、「様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には 6 ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）」をひきこもりと定義しています。
- ※2 厚生労働省「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」において、職に就いていない若者（無業者）で、「高校や大学に通学しておらず、独身であり、ふだん収入になる仕事をしていない 15 歳以上 35 歳未満の個人（予備校や専門学校などに通学しているものも除く）」をニートと記載しています。

新潟市若年者等の自立に関するアンケート調査

- 1 回答はあて名のご本人がご記入ください。
(無記名ですので、お名前・ご住所を記入する必要はありません)
- 2 この調査は、回答者を無作為で抽出しているため、あて名のご本人の様子がわかりません。万一、ご病気などでお答えいただけない場合は、回答の必要はございません。
- 3 特にことわりのない限り、すべての質問にお答えください。
該当者にだけお答えいただく質問もあります。その場合は次の設問への案内がありますので、それに従ってお答えください。
- 4 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。「その他」を選んだ場合は具体的な内容をご記入ください。
- 5 質問文の終わりに(○は1つ)(○はいくつでも)などのことわり書きがあります。これはお答えいただく数を意味します。
- 6 調査内容で不明な点等がございましたら、以下にお問い合わせください。
新潟市 福祉部 福祉総務課
(電話) 025-226-1169 (直通)
(受付時間) 月曜～金曜 午前8時30分～午後5時15分

平成27年2月10日(火)までにご投函をお願いいたします。

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

問2 あなたがお住まいの区はどちらですか。(○は1つ)

1 北区	3 中央区	5 秋葉区	7 西区
2 東区	4 江南区	6 南区	8 西蒲区

問3 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

1 20～24 歳	4 35～39 歳	7 50～54 歳
2 25～29 歳	5 40～44 歳	8 55～59 歳
3 30～34 歳	6 45～49 歳	9 60～64 歳

問4 あなたの世帯構成は次のどれに当たりますか。(○は1つ)

1 単身 (1人世帯)	4 三世代世帯
2 夫婦のみの世帯	5 その他
3 二世帯世帯 (親と子どもからなる世帯)	

問5 あなたのお住まいの形態は次のどれに当たりますか。(○は1つ)

1 持ち家 (一戸建て・共同住宅含む)	3 社宅・官舎・寮
2 賃貸住宅 (一戸建て・共同住宅含む)	4 その他

問6 あなたの現在の暮らしの状況を総合的に見てどう感じていますか。(○は1つ)

1 ゆとりがある	4 苦しい
2 ややゆとりがある	5 大変苦しい (困窮している)
3 普通	

問7 あなたの就業状況は次のどれに当たりますか。(○は1つ)

1 常勤 (正社員、会社役員など)	→ 問12へ
2 非常勤 (パート、アルバイト、嘱託、臨時職員など)	
3 自営業	
4 専業主婦・主夫	
5 学生	
6 無職・その他 ()	

問7で「6 無職・その他」を選んだ方のみ、次ページ問8～11にお答えください。

問8 あなたは今までに働いていたことはありますか。(○はいくつでも)

- 1 正社員として働いていた
- 2 契約社員として働いていた
- 3 派遣社員として働いていた
- 4 パート、アルバイト（学生時代の経験は除く）として働いていた
- 5 働いたことはない

問9 あなたは現在、働くことを希望していますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------------|---|----------|
| 1 希望し就職活動をしている | → | 問11へ |
| 2 希望しているが就職活動はしていない | → | 問10、問11へ |
| 3 働くことを希望していない | | |

問10 あなたが現在働いていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1 病気・けがのため | 8 資格試験等の準備のため |
| 2 メンタル的な問題・不安がある | 9 年金や資産で生活している |
| 3 希望する職種がない | 10 家族からの経済的支援がある |
| 4 就職活動の方法がわからない | 11 家族の育児・介護等のため |
| 5 どんな仕事につけばいいのか
わからない | 12 特に理由はない |
| 6 働く意欲がわからない | 13 その他 () |
| 7 知識・能力に自信がない | |

問11 あなたが今後やってみたい職種はどれですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1 飲食（レストランなど） | 8 製造 |
| 2 販売 | 9 農業・漁業 |
| 3 サービス（警備員、清掃など） | 10 建築・土木・建設 |
| 4 レジャー（イベントスタッフなど） | 11 IT・コンピュータ |
| 5 営業 | 12 医療・介護・福祉 |
| 6 事務 | 13 その他 () |
| 7 物流・配送 | |

ここからはすべての方がお答えください。「ひきこもり」についてお尋ねします。

問12 以下の(1)～(3)についてあなたはご存じですか。(○はそれぞれ1つ)

	知っている	知らない
(1)「ひきこもり」という言葉を知っていますか。	1	2
(2)「ひきこもり」とは「仕事や学校に行かず、かつ家族以外との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」のことであるということをご存知ですか。	1	2
(3)上記(2)の状態で、「時々は買い物などで外出することもある」という場合も「ひきこもり」に含めるということをご存知ですか。	1	2

(参考)

厚生労働省「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」では、「様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）」をひきこもりと定義しています。

次にあなた自身の状況についてお尋ねします。

問13 あなた自身が、前ページ問12(2)のひきこもりの定義「仕事や学校に行かず、かつ家族以外との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」にあてはまりますか。

※ ただし、重度の病気やけがなどの身体的な状況により外出できない場合を除きます。(○は1つ)

1 あてはまらない → 問15へ

2 あてはまる

3 時々買い物等で外出することもあるが、あてはまる

問14 問13で「2 あてはまる」「3 ときどきは買い物等で外出することもあるが、あてはまる」に○をつけた方にお聞きします。

その状態になってから現在まで、どのくらいの期間になりますか。

(○は1つ)

1 6か月以上～1年未満

2 1年以上～3年未満

3 3年以上5年未満

4 5年以上10年未満

5 10年以上

次にあなたのご家族の状況についてお尋ねします。

問15 あなたと同居しているご家族が、問12(2)のひきこもりの定義「仕事や学校に行かず、かつ家族以外との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」にあてはりますか。

※ ただし、重度の病気やけがなどの身体的な状況により外出できない場合を除きます。(○は1つ)

1	あてはまらない	→	問17へ
2	あてはまる		
3	時々買い物等で外出することもあるが、あてはまる		

問16 問15で「2 あてはまる」「3 ときどきは買い物等で外出することもあるが、あてはまる」に○をつけた方にお聞きします。

そのご家族の現在の年齢についてお選びください。

(複数いらっしゃる場合、○は複数可)

1	小学生・中学生
2	10歳代(中学校卒業後)
3	20歳代
4	30歳代
5	40歳代
6	50歳代
7	60歳～64歳
8	65歳以上

次にあなたのまわりの方の状況についてお尋ねします。

問17 近所の人や市内の親戚・知人が、問12(2)のひきこもりの定義「仕事や学校に行かず、かつ家族以外との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」にあてはまりますか。

※ ただし、重度の病気やけがなどの身体的な状況により外出できない場合を除きます。(○は1つ)

1 あてはまらない	→ 問19へ
2 わからない	
3 あてはまる	
4 時々買い物等で外出することもあるが、あてはまる	

問18 問17で「3 あてはまる」「4 ときどきは買い物等で外出することもあるが、あてはまる」に○をつけた方にお聞きします。

その方の現在の年齢についてお選びください。

(複数いらっしゃる場合、○は複数可)

1 小学生・中学生
2 10歳代(中学校卒業後)
3 20歳代
4 30歳代
5 40歳代
6 50歳代
7 60歳～64歳
8 65歳以上
9 不明

ここからはすべての方がお答えください。

相談支援機関や相談先についてお尋ねします。

問19 あなたは(1)～(18)についてご存知ですか。また、利用や相談をしたことはありますか(〇はそれぞれ1つ)

		利用・相談 した こと がある	知っている が利用・相 談したこと はない	知らない
新潟市の 相談支援 機関・ 相談先	(1) 新潟市ひきこもり相談支援センター	1	2	3
	(2) 各区役所・地域保健福祉センター	1	2	3
	(3) 新潟市こころの健康センター	1	2	3
	(4) 新潟市児童相談所	1	2	3
	(5) 新潟市教育相談センター、教育相談室	1	2	3
	(6) 新潟市の中学校に配置しているスクールカウンセラー	1	2	3
	(7) 新潟市若者支援センター「オール」	1	2	3
	(8) 新潟市パーソナルサポートセンター	1	2	3
	(9) 新潟市障がい者基幹型相談支援センター	1	2	3
	(10) 新潟市障がい者就業支援センター(こあサポート)	1	2	3
	(11) 新潟市発達障がい者支援センター(JOIN)	1	2	3
その他 の機関・ 相談先	(12) ハローワーク新潟ときめき仕事館(若者しごと館・わかものハローワーク新潟)	1	2	3
	(13) 新潟地域若者サポートステーション	1	2	3
	(14) 新潟市社会福祉協議会(新潟市障がい者生活支援センター、心配ごと相談所など)	1	2	3
	(15) 各区社会福祉協議会	1	2	3
	(16) 民生委員・児童委員	1	2	3
	(17) NPO、民間のひきこもり支援団体やカウンセリングルームなど	1	2	3
	(18) 医療機関(ひきこもり外来や病院、診療所、クリニックの精神科・心療内科等)	1	2	3

最後にあなたご自身の状況についてお尋ねします。

問20 以下の(1)～(7)について、あなたご自身の状況に最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	あてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
(1) 家族の間でよく話をしている	1	2	3	4	5
(2) 近所づきあいを大事にしている	1	2	3	4	5
(3) 地域の行事や自治会・町内会等の地域活動に参加している	1	2	3	4	5
(4) 趣味や生きがい、生活上の楽しみがある	1	2	3	4	5
(5) 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる	1	2	3	4	5
(6) 人づきあいが苦手である	1	2	3	4	5
(7) 自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる	1	2	3	4	5

問21 ひきこもりに関する課題や新潟市の取り組みについて、ご意見やご要望がありましたら自由にお書きください。

質問は以上で終了です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。